Why We Fight

A Third Reich Translation

National Socialist Order

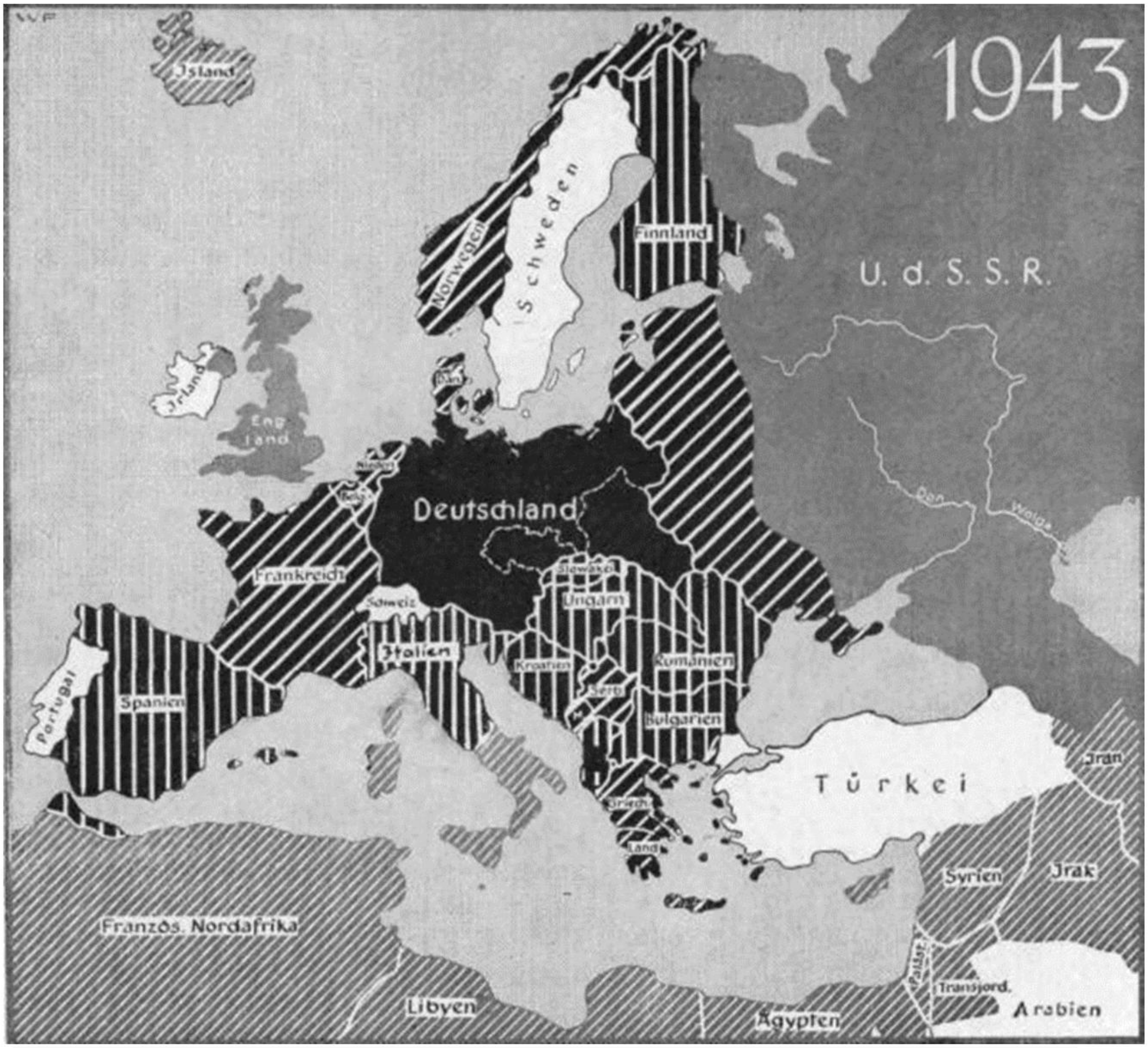
私たちは何ですか

のために戦う？

執筆者: ドイツ国防軍人事局

National Socialist Order

翻訳者: ワイアルド NSO



帝国、ヨーロッパと世界の救済のために戦う

総統の命令:

軍の直接指揮を引き継ぐ機会にあたり、私は、ドイツ国民の運命を左右する決定的な問題の一つは、軍事的存在のあらゆる分野だけでなく、国家指導部と将校団との間に無条件の合意をもたらすことであると表明した。とりわけイデオロギー的な観点から。

この戦争がこれほど激しく容赦なく行われるのは、この戦争が 2 つの完全に相反する世界観の間の決定的な闘争を表しているからです。ドイツ国民は今日、生存、生き方、生活の自由を求めて闘っています。

空。

戦争開始から 5 年目に入り、我が国も敵も軍備の最盛期にあります。しかし、成功の決め手は常に人、兵士、戦闘機です。最も純粋な意志、最も勇敢な信念、そして最も熱狂的な決意を闘争に投じることができる者が、最終的には勝利を得るでしょう。

したがって、兵士、特に士官は国家の武器の担い手であるだけでなく、国民の政治的意志の担い手でもある。

政治的な教育や部隊の指揮ができない士官は、部隊の訓練や戦術的指導に失敗した士官と同様に、この戦いに場違いである。軍隊の精神的な戦闘力を盲目的な服従のみに基づいて構築したい場合、「どこから」「何のために」戦うという決意にも基づいていない場合、最も貴重な力は枯れるに違いありません。

「私たちは何のために戦うのか」という本は、将校のイデオロギー的方向性のガイドとなること、および兵士の政治教育と訓練のための知的ツールとなることを目的としています。

将校はまた、イデオロギーの分野で積極的な先駆者であり、兵士を説得し、乗り越えられないものを教育することができなければなりません。

私たちの偉大な戦士たち

私たちの国家社会主義の世界観という意味でのゲルマン帝国。

したがって、私は、この本に含まれているイデオロギー的考えを、予定されている授業で説得力を持って強調して兵士に伝えるよう命じます。この政治的訓練は、兵器に関する訓練と同じくらい戦争にとって極めて重要である。

指揮官たちは、この政治的指示が訓練内だけでなく現場でも適切に行われるように手配します。

最高司令官たちは私の命令の実行を監視している。

-アドルフ•ヒトラー、 8代目

1944年1月

帝国の思想

歴史研究により、過去にいわゆる西洋を形成した勢力のうち、古代、キリスト教、ドイツ主義という 3 つの主要な勢力が特定されています。これらの権力のバランスをとる際に、最初の 2 つは通常、特に帝国の理念に関して、実際の形式を構築するものとして名前が挙げられました。つまり、古代ローマは普遍君主制の理念を放棄し、キリスト教は西洋の実際の文化的基盤を放棄したというものでした。一方、ドイツ主義者は軍事力とこれらの思想の受け皿を放棄した。この人道主義的な - 宗派的に

条件付けされた歴史観は、もちろん、いくつかの正しい瞬間を強調してきましたが、文化や国家形成の本質は決して外部から国民に与えられるものではなく、内部からしか形成されないか、形成されないという事実を見落としてきました。

だからこそ、ゲルマン人、そしてドイツ人が実際の形成力として私たちに現れ、残りは歴史的状況の状況に応じてこの力によって溶かされた、変化する歴史的および精神的環境として現れるのです。したがって、我々は、帝国の理念の本質にはゲルマン的な本質が含まれており、ゲルマン公爵とドイツ王の出現によって帝国の中核的内容はすでに与えられており、この形成された帝国理念だけが問題に対処しなければならなかったと確信している。強い伝統と環境。そのため、歴史の流れの中で帝国主義の擁護自体が何らかの形の変化を経なければならなくなった。テオドリック大王は、初めて普遍的なゲルマン帝国を念頭に置き、崩壊したビザンチウムを目の前にしましたが、同時に古代ローマの力強い伝統、偉大な建造物、偉大な政治的•行政的経験も目にしました。したがって、帝国を形成する際、彼は古代に依存し、国家の指導力を引き継ぎ、

彼は軍事的安全を確保し、行政問題はローマ人に任せた。キリスト教が設立された当時、キリスト教はそれほど目立たず、ゲルマン系アリウス派とローマ•カトリック教徒の間の闘争はテオドリックの政治的優位のもとで行われた。

カール大帝は強化された教会を発見し、キリスト教は主にカトリックの形で特定の精神的基盤となったため、フランケンの普遍帝国は当時のキリスト教と結合されました。フランク系ゲルマン勢力とキリスト教修道院勢力の双方が隣り合って地位を確立し始め、世界史的な闘争が始まった。

オットー大王は、司教たちに財産を与え、彼らを世俗の主人にするという決定的な一歩を踏み出しました。こうして司教たちは帝国の役人となり、オットー大帝の存命中に教皇に対して皇帝の側に立った。しかし、この発展は必然的に聖職者の性質の強化をもたらしました。なぜなら、それは強力な知的力を表すだけでなく、後に皇帝の選出において直接世俗権力に依存する可能性があったからです。神の恩寵による帝国と教皇の権力主張という両方の普遍主義は着実に増大し、ホーエンシュタウフェン皇帝フリードリヒ二世のもとで最大規模かつ最も激しい論争で衝突した。 『皇帝は自分が帝国の番人であると感じており、当時の言語用語で呼ばれていたように、神が単独で責任を負う一方、教皇はこの皇帝に対する封建的権利を主張するところだった。ハプスブルク家のもとで、教皇の普遍的理念の力は増大したが、カール5世のもとでそのような明確な普遍的君主制を実現しようとする最後の試みは、内なる不可能性、つまりヨーロッパの国民文化の意識的な目覚めの始まりのため失敗した。

ルターはその後、当時すでに爆発的だった西洋世界の団結を打ち破ります。自然科学は古い世界観を打ち破り続けています。ヒューマニズム、ルネッサンスは、古代の精神を呼び覚まして埋もれた資源からヨーロッパを再び豊かにしましたが、同時にヨーロッパ人の民族的覚醒の深化を引き起こしました。 （ハッテンはアルミニウスを祝う。）リベラルの暴挙は中世を揺るがし、伝統と将来の希望を支えるさまざまな勢力の活躍が 18 世紀と 19 世紀を決定した。当時ドイツは政治的に劣勢に立たされていた。世界はアングロサクソン人、フランス人、ロシア人に分断され、1813 年の自由戦争でプロイセンを拠点として、外部からの援助なしにドイツ帝国の夢が再び始まり、ビスマルクの下で政治的現実となったとき、新たに強化された人々は、すべての国境で狭められ、空間の狭さによっていくつかのブルジョワ環境現象に悩まされました。しかし

第二帝国は——そしてこれが悲劇だったが——強力な教育的世界観を持たずに生き、自らを守った。最も多様な世界観が相互に排他的であり、それぞれの世界観を求めて戦い、ドイツは 1914 年にハイファイナンス勢力とフランスとイギリスの猛攻撃に対して精神的に団結しませんでした。その後の崩壊はドイツを深く反省するか破滅に追い込むことになりました。

その反省は、アドルフ•ヒトラーと国家社会主義運動の闘争を通して起こります。再び、世界観が帝国を征服し、古い伝統をそれ自体から振り払い、今や帝国の概念を王朝や宗派ではなく、生活全般の本質、つまり人種や国籍と一致させています。

これらの基盤と名誉と義務という最高の価値観に基づいて形成された国家社会主義の世界観は、あらゆる分野で旧勢力と闘っていました。そして、彼らは高金融もボリシェヴィズムも、株式市場の投機も残忍な共産主義国家資本主義も認めていないため、帝国に対する行進が再び行われた。しかし歴史上、今日ほどドイツ帝国が意識的に擁護されたことはなく、ドイツ国民のすべての部族が敵に立ち向かったことはかつてなく、世界観が新しい国旗ほど強力に擁護されたこともなかった。帝国の旗であり、この旗が今日ほど総統によって時代の闘争を乗り越えて持ち運ばれたことはありません。しかし、この事実により、国家社会主義運動もドイツ帝国の奉仕者となった。

アイディア。

将来的には、この運動は帝国の理念に対する強さと献身によって評価されることになるでしょう。この洞察は、今日、この2000年前の帝国主義の理念と私たちの時代から生まれた世界観に奉仕し、永遠の帝国の敵から共にそれを守るすべての国家社会主義者、ドイツ国防軍のすべての兵士にとっての最も深い義務を意味する。



私たちは1918年以来このために戦ってきました、このためにこの運動はすべての犠牲者を精力的に受け入れました、このためにドイツ国防軍はその歴史的闘争、つまり国家コレクションとヨーロッパの使命という意味でのドイツ帝国の理念のために戦っています。私たちは、今日の帝国の使命がドイツ入植地域のドイツ国境をはるかに超えていること、ドイツ帝国が再びヨーロッパの道徳とヨーロッパ大陸全般の自由の守護者となったことを知っています。自分自身の保身とヨーロッパの使命に対する意識は、全力を尽くす意志の最も強力な保証であり、海外とモスクワからの破壊勢力に対する最終的な勝利の保証である。

-

アルフレッド

ローゼンバーグ



私たちの敵

ジュエリー

1.目的は何ですか ユダヤ教？

ユダヤ人は何千年もの間、世界を支配しようと努力してきました。
年。

彼らの政治的目標は、民族的性格や人種的出身に関係なく、すべての人々を団結させて存続させたいという国際的な世界国家です。

私たちが遡ることができる限り、ユダヤ教は常に世界征服の計画を持っており、今日ではかつてないほどそのような目標を追求していることはあまりにも知られていません。古代における手法は今日と同じであり、国家の政治的およびイデオロギー的な崩壊でした。

ホストの人々を攻撃し、その結果、彼らの適切な生活様式が破壊されるのです。
このようにして、ユダヤ人は人々を従わせようとしたのです。まで

現在、彼らは常に、日本を除く地球の主要民族に侵入することに成功しており、世界征服という目標を達成するために、自分たちの意志の方向性を気づかれないように利用できるのです。ユダヤ人がその経済的侵入のために寄生虫とみなされ、時には迫害さえ受けたのは事実である。個人主義的•物質主義的な世界の担い手としてのユダヤ人の政治的•イデオロギー的危険性

あらゆる国家的生活秩序の死を常に伴わなければならない思想は認められなかった。そのため、特に過去2世紀において、ユダヤ人が西側諸国の人々をますます占領するのは容易でした。

ドイツが政権を奪取するまでは、6,000万の人々が一握りのユダヤ人によって政治的、イデオロギー的に圧倒され、最終的には支配されたことを示す典型的な例でした。

「ジュネーブ国際連盟」はユダヤ人の掘り起こしの結果にほかならず、ユダヤ人主導の世界国家を樹立するための最初の近代的な試みであった。アドルフ•ヒトラーが来なかったら、ユダヤ教は世界共和制の構想を実現することに成功しただろう。

西洋史上初めてユダヤ教の世界目標を阻止することに成功した北欧•ゲルマン系の偉大な人々は、我々、アドルフ•ヒトラー率いる国家社会主義ドイツ国民だけだ！

総統はユダヤ人をあらゆる国家の大敵であると暴露した。
今日、私たちはユダヤ教から解放された最初のゲルマン人であると同時に、世界のユダヤ人に対する最後のゲルマン人の砦でもあります。
だからこそ、ユダヤ教は私たちを激しく憎んでいるのです。だからこそ、私たちを完全に破壊するためにあらゆる手段を講じるのです。

2.それはどのように説明できますか

ユダヤ教は世界征服を目指す

それほどの粘り強さと粘り強さがあるのでしょうか？

それは宗教的思想とそこから形作られたユダヤ人の性格に基づいています。

世界征服を目指すことは､旧約聖書の宗教法によって規定されていました。

それは宗教的思想とそこから形作られたユダヤ人の性格に基づいています。

世界征服を目指すことは､旧約聖書の宗教法によって規定されていました。

申命記 (7:16):

「しかし､あなたの神､主があなたに引き渡すすべての民は､彼らを憐れむことなく滅ぼされるべきであり､あなたは彼らの神々を崇拝してはならない｡それはあなたにとって罠になるからである。」

申命記 (7:24):

「主よ､あなたの神は彼らの王たちをあなたの力に与え､あなたが彼らの名前を天の下から消し去ることができるでしょう｡あなたが彼らを破壊するまで､誰もあなたに立ち向かうことはありません。」

5. モーセ書 (28:1):

「もしあなたがあなたの神、主の声に従い、今日私があなたに命じる主の戒めをすべて実行するなら、主はあなたを地上のすべての民の中で最も高い者にしてくださるでしょう！」いさ。 (60:10、60:11、

60:12):

「そして外国人はあなたの城壁を築き、彼らの王たちはあなたに奉仕を捧げます。 。 。あなた（ユダヤ人)に仕えない民と王国は滅び、彼らの土地は完全に滅びるからです。

荒廃した 」 タルムード:

「わたし（ヤハウェ)はあなたたち（ユダヤ人)を諸民族の祖とし、諸民族の中から選ばれ、諸民族の王とする。」

(ベラコット 6a.)

ここで引用されている言葉には、本物のユダヤ人の精神が息づいています。彼らは 2 つのことに向けられています。それは、彼らの神ヤハウェによるユダヤ人の選出と、ユダヤ人の統治です。ユダヤ人は、ユダヤ教の始まりから今日に至るまで、この精神に基づいて育てられてきました。ユダヤ人は力、数、創造的才能においてどの国よりも劣っており、私たちの意味での民族を代表するものではないにもかかわらず、ユダヤ人ほど誇張された文章で自信を表明した人々は地球上にいない。

ユダヤ人とともに、人種的および宗教的共同体が世界史に登場し、初期から世界政治を追求してきました。
世界を支配する時代。

3.なぜユダヤ人は何千年もの間自分自身を主張してきたのか何年？

ユダヤ教は太古の昔から、宗教的、政治的、イデオロギーに基づいた法律をしっかりと定めており、信心深いユダヤ人は親としての教育や司祭としての教育を通じて常にこの法律に厳しく従うことが求められてきました。

彼の宗教は、彼の政治的信条と生き方の法的基盤としてのみ機能します。ユダヤ人は、古代イスラエルの預言者の教えのより高い価値観を何も保持していません。

「なぜなら、モーセの宗教は実際にはユダヤ民族の保存の教義にほかならないからです。」（ヒトラー司令官、『我が闘争』）。

旧約聖書のライトモチーフは何度も何度も登場し、今日でも当てはまります。

「神の選ばれた民」、「神の名において」すべての民族を支配する、「神の親愛」の教義。

この召命に対する信念により、ユダヤ教は非常に自意識と目的意識を持ち、受け入れられて以来、世界支配を主張するようになりました。さらに、彼の宗教法では、見知らぬ人はすべて異なる人種、非人道的な存在、動物であると認定されています。ユダヤ人が良心的に守った教え。タルムードとシュルチャン•アルークは、世界の残りの部分を自分に有利に利用し、搾取し、最終的に支配する方法についてのヒントも与えてくれます。 ")

タルムードの宗教法の解釈は非常に巧みで、典型的にはユダヤ人的で洗練されているため、多くの状況で判決を解釈すると同時に、その最も矛盾した対照を解釈することができます。この文脈において、ユダヤ教が長い間タルムードの翻訳に熱狂的に反対しており、翻訳を試みる学者たちが脇に追いやられる危険があったことは重要である。旧約聖書、トーラー、タルムード、シュルチャン•アルクは、思想の歴史という点で完全な一致を示しています。継続的な形而上学的な基本構造は、宗教、政治、イデオロギーを結び付けており、それが何千年にもわたってユダヤ人の顔にその痕跡を残しています。

彼のアイデアの世界全体の核であり、担い手となったのは、

司祭職、ラビコミュニティ。彼らは、すべての政治的およびイデオロギー的なアイデアが発せられた中心を代表するだけでなく、彼のアイデアの世界を未来に伝える組織でもありました。聖職者は今日でも上流階級を支配している。

旧約聖書、特にモーセ書、エズラ書、ネヘミヤ書を読んでください。ユダヤ人が受けた生命と血に関する明確に定義された法則がどれであるかが分かるだろう。決定的だったのは法律だった

そして祭司エズラの措置:

- 彼は、血のつながった外国人との結婚を厳しく禁止し、新たに設立された「共同体」の完全な閉鎖をすべての民族が規定する法典をユダヤ教に課した。

- 彼はほぼ毎日人々をサボって仕事を終えた

イスラエルとユダヤ人の歴史と宗教の法則の研究について、つまり彼はユダヤ教の歴史意識と生活の法則を定着させました。この措置は、今日でも宗教的なユダヤ人に強い影響を与えています。彼はまた、後にシナゴーグ (共同住宅) に家具が設置されるようになった理由も説明しました。

エズラの法律と措置は、将来にわたりユダヤ教に広範な影響を与えてきました。彼らはユダヤ人に他のすべての民族を軽蔑し、彼ら自身の人種を非常に誇りに思うようにさせました。

彼らの宗教と歴史書に関する深い知識。そこには、ある意味で修正されたユダヤ教の法律と歴史が、心理学的に非常に巧みな方法で規定されており、ユダヤ人が「神の民」であることが作られています。彼らは他の人類よりも完全に優れていると感じています。神に選ばれた民であるという考え自体が、常にユダヤ教に大きな推進力を与えなければなりませんでした。いずれにせよ、モーセの律法、旧約聖書全体、そしてその後のタルムードとシュルチャン•アルクに規定された宗教的および政治的信仰の形式は十分に強力でした。

ユダヤ教が何千年にもわたって全世界に抵抗できるようにし、世界をほぼ不滅のものにするためです。

私たちは、世界征服への呼びかけに対する信念がユダヤ人の中に深く根付いており、今日に至るまで忠実な人々によって生活と宗教の法則が細心の注意を払って遵守されていることを知っています。しかし、本質的なことは、彼は召命に対する信念から、彼の神ヤハウェの約束を現実にすることを目的として、常にどこでも自分の考えを攻撃していたことです。しかし、彼は常に嘘と変装の達人としてこれを行っていました。 「彼の言語は彼の本当の考えを隠すために使われている」（アドルフ•ヒトラー）。

イスラエル人とその一部が流刑から戻ったとき

彼らはすぐにディアスポラに移住したため、いかなる戦争のような行動もできませんでした。彼らの権力と世界支配への欲望は、ヤハウェを通して、非ユダヤ人人類に対する宇宙的な最終審判という壮大な構想に霊的に変えられ、また、それに従ってヤハウェはあらゆる物質的な楽しみを備えたユダヤ人のために地上の楽園を創造するというメシアの希望へと変容した。彼らはそこで永遠に生きますが、他の民族は

彼らの奴隷になるべきだ。ユダヤ人以外のあらゆるものに対する激しい憎しみは、後にミドラーシュと

タルムードもここに由来します。この憎しみは、世界中のどこにいても、すべてのユダヤ人を団結させる大きな絆でした。そしてとりわけ、ユダヤ人の世代において、いつかヤハウェの約束を守る手段を開発し続けたのは彼でした。ユダヤ教は、自らの青少年を育てる際に、最も鋭い排他性と不寛容を繰り返し進め、世界に先駆けて人種意識を文書化しました。

本当に無敵です。

ユダヤ人の宗教生活は依然として、ユダヤ人の歴史、律法、タルムード、ひいては彼の政治的信条を実家、学校、シナゴーグで取り上げ、それに応じて小さな行動さえも調整することにある。

要約すると、次のように言えます。

ユダヤ人のラビ•カーストは、宗教的、政治的、その他の考えを持って、人口数百万の小国が全世界を攻撃して破壊することに成功するための前提条件を作り出し、その結果、自国の存在を維持するだけでなく、その規模を拡大することができました。 。

世界中に散らばり、依然として熱狂的なコミュニティであり続けた
前例のない、決して壊れることのない活力のアイデア。ユダヤ教の驚くべき決意は、その教育システムによって説明されており、この教育システムは、強い歴史意識に加えて、世界権力を目的とした宗教に基づいた政治的イデオロギーの方向性で表現されています。

これに関連して、政権奪取までの我が国の状況との比較が思い浮かびます。私たちは、ゲルマンの歴史を、その感動と支援の力とともに若者たちの中に深く定着させ、それを教育の中心点とすることを忘れていました。毎日の歴史の授業。

4.どういう意味で、
ユダヤ人はどのような方法で人々を支配しようとしているのでしょうか?

• 　　彼は政治的思想の助けを借りて人々を霊的に支配します。人類に宗教をもたらした「選ばれし民」の一員として、彼があらゆる民族の中に居場所を見つけるのは難しいことではなかった。

彼は、自分の政治的思想（自由、平等、人類の同胞団結をスローガンとする自由主義、世界革命を通じて階級のないプロレタリアへというスローガンを掲げるマルクス主義[ボルシェビズム])に彼らを魅了することによって、彼らの受け入れ民族を国家的生活基盤から引き上げる。世界状態）。ユダヤ人は個人主義的•物質主義的な思想の世界の担い手なのです！

• 　　彼は経済上の主要な地位に手を伸ばし、世界経済を掌握しようとしている。全世界の生産と消費の管理は彼の手に委ねられ、すべての人々が彼に依存すべきである。

- 彼の強力な資本主義的地位と経済的優位性により、彼はホスト民族の政治的支配と統制を可能にしています。

- 彼は、報道、ラジオ、映画、演劇、文学、その他すべての文化機関を習得することによって、両方の国籍を破壊し、国際的な目標のための精神的な前提条件を準備します。

- 彼の戦闘組織は政党であるが、特にフリーメーソンは、彼がカモフラージュして気づかれずに政治的出来事に可能な限り最大の影響力を持っている。

5.なぜユダヤ人は私たちと戦っているのですか？

アドルフ•ヒトラー率いるドイツはユダヤ人の世界秩序の下に自らを置くことを望んでいないからである。



国家社会主義ドイツは、世界征服を目指すユダヤ教の邪魔をしています。それはユダヤ人によるヨーロッパ民族の搾取に反対し、それによってヨーロッパにおけるユダヤ人の支配を打ち砕いた。

それが、ユダヤ教が私たちを致命的な憎しみで迫害し、私たちに生きるか死ぬかの戦いを宣言した理由です。

ユダヤ人は北欧人の対極であり、あらゆる自由民一般にとっての宿敵である。

ユダヤ人は、商業権力の原則を伴うゲルマン主義の秩序ある価値創造のリーダーシップ原則に反対します。

の　ボリシェヴィズムとイギリス人のリベラリズム
サクソン民主主義、ユダヤ人の唯物論的世界観、
個人主義は創造的で建設的なものとは対照的です
理想主義的な目標を持った国家社会主義の世界観。

この戦争は、その究極の深さから見ても、アルジューダの精神的および父性の束縛からアーリア人人類を解放することに反対するユダヤ世界の闘争である一方、あらゆる試みに対抗する人類の解放と保存のための闘争ではドイツの側にある。ユダヤ人の世界支配において。したがって、それは、その究極の基本性において、私たちの歴史意識の中に極めて明確に浮かび上がらなければならず、完全に排他的に互いに対立する二つの世界の戦争のような衝突としてだけでなく、世界の一方が争う時代を超越した闘争の最終戦争としても、鮮明に浮かび上がらなければならない。何千年にもわたって努力されてきたユダヤ人の世界支配と、現在および将来のアーリア人種の創造的な生活の間で決断が求められています。 「（ルドルフ）

ジョーダン「この戦争の意味から」）



ヨーロッパは、イギリス、アメリカ、ソビエト連邦など、さまざまな帝国主義世界大国の勢力範囲内に立っています。英国はかつてないほどの危険に脅かされており、この帝国主義の世界支配への努力が何に基づいているのかをもう一度自問すると、どこにでも見つかるだろう（同じ原動力は、ピューリタニカル•リベラル主義のイギリスの仮面の下にあるユダヤ人だ！）。民主自由主義のアメリカ、あるいはボリシェヴィキの仮面の下にある世界の幸福は、旧約聖書の約束の実現を望んでいる。

私たちの闘争において、スターリンが同志のルーズベルトとチャーチルをボリシェヴィキ政策のワゴンに乗せたかどうか、あるいはルーズベルトとチャーチルがソ連を介入させたかどうかは無関係である。

彼らのユダヤ人金権政治の努力の奉仕です。私たちにとって決断はただ一つ、ボリシェヴィズムと戦い、金権政治と戦うことだ。両者に対する我々の勝利は、ユダヤ人の絶滅とそれに伴う人々の満足と新たな世界秩序の確保を意味する。

6.フリーメーソンとは何か、それは誰の楽器ですか?

フリーメーソンは秘密の最高指導者を擁する国際同盟であり、人間の高い目標に向けて努力していることを外の世界に示しています。しかし実際には、それはユダヤ人の協力を得て世界政治に決定的な影響を与える秘密命令であった。

フリーメーソンは、石工とその労働者の小屋の中世の協会から目に見える組織として誕生しました。

メンバーは自分たちを兄弟と呼び、入学時に簡単な儀式を行い、道徳的な生き方に専念しました。彼らが絶えず歩き回っているときに遠くからお互いを認識できるようにするために、彼らには秘密の特徴がありました :サイン、ハンドル、言葉、そしていくつかの質問と答え。この古い工場石工はドイツだけでなくイングランドやスコットランドでも栄えました。

工場石工のシンボルと慣習に基づいて、当時存在していた自由な努力を象徴する組合が 1717 年にロンドンで結成されました。この組合は、「自己と自己の完成のために直角に建物を建てる技術」を作りました。 「人類全体」をその努力の目標とし、自らを「フリーメーソン」の連合と呼んだ。

その後の憲法決議によれば、フリーメーソン連合は、階級、階級、国籍、肌の色、人種、宗教的、政治的見解といったあらゆる分離の壁から自由な友愛団体である。
人はすべての人類の自由、平等、兄弟愛、つまり人類全体の兄弟愛のために戦った。

宗教的不寛容に対する反感と哲学的啓蒙はフリーメーソンにとって好意的であったため、
人類の同胞団についてのフリーメーソンの考えは肥沃なものとなった
接地。

フリーメーソンのロッジは設立後すぐに、1728 年にマドリッド、1730 年にフィラデルフィア、1732 年にパリ、1737 年にハンブルクなど、世界のほぼすべての国に設立されました。

ユダヤ人はすぐに、フリーメーソンが世界権力の目標を追求するための優れた手段であることを認識しました。個人の無制限の自由に関するフリーメーソンの教義は、ユダヤ人にとって、世界支配への主張を促進する適切な力として見えました。ロッジの平等と同胞愛の教義は、ホスト民族との平等に対する彼の希望を強めたが、そのために彼は常に一般的な人種的混乱、ひいては彼の世界支配の混乱を解消しようと努めていた。すでに18世紀半ばには、ユダヤ人はフリーメーソンを通じて、非ユダヤ世界における国家的および民族的束縛を打ち破り、宗教的および国家的権威を打ち破り、人々の生活様式を崩壊させようとした。というのは、ユダヤ人はボックス内に前に出て、ついにボックスを完全に支配したからである。何よりもまず、ロマネスク様式のロッジでした。

ユダヤ教の影響を受け、政治思想を前面に押し出し、積極的な政治の担い手となった。

人類を幸福にするという考えと社会的野心は、最終的にはフリーメーソンのロッジの会員であることが上流階級の会員の良いマナーであるという事実につながりました。そこで、すぐにフリーメーソンが政治やビジネス、国王や王子のほぼすべての主要人物を団結させることになった。ユダヤ人にとってこれより良い楽器は見つかりませんでした。

学位の数に応じて、フリーメーソンはヨハニスと高位メーソンに分けられます。世界中のすべてのロッジには 3 つのヨハニスの学位があります: 見習い、職人、マスター、ヨハニスの頭 石工は高位の石工であり、最高 33 級まで上がります。高級ロッジの代表は、各国の 「最高会議」です。各国の高級ロッジのこれらの代表は、再びユダヤ人の手に渡って一元的に管理されます。純粋にユダヤ人のブナイ•ブリス教団は、極秘センターと非常に密接な関係にある。

ヨハニス•ロッジと最高評議会との関係は、高位のメンバーもヨハニス•ロッジに所属しているため、非常に緊密になっている。ここでは、高級煉瓦職人としての能力が認められていない彼らが、指導的地位を占め、彼らなりのやり方で下級生の 「兄弟」たちを、彼らには何も知らずに率いています。60～70%が上級階級のユダヤ人で構成されている洗練されたユニークな組織により、フリーメーソンを彼らの希望通りに指揮することが可能となっています。

フリーメーソンの習慣 (儀式)はユダヤ教の影響下で発展し、今日ではほぼ完全にユダヤ教のものとなっています。
フリーメーソンはその儀式活動において未来世界ソロモン神殿を建設しており、そのグランドマスターを 「ソロモン代理」とさえ呼んでおり、ソロモンに関連するほぼすべてのものを採用している。

象徴としての聖書のソロモン神殿。パスワード、識別マーク、シンボル、そして儀式の主要部分であるヒラムの伝説は、完全にユダヤ教に由来しています。したがって、フリーメーソンは完全にユダヤ人の組織であると言えます。

「世界フリーメーソンは、いかなる政治活動も控え、道徳的目標のみを追求することを常に国民に強調しています。
ロッジの設立以来、フリーメーソンが推進力および執行機関ではなかった政治運動はほとんどありませんでした。
」

憲法から、ロッジには、求める世界国家の目的に適合する場合には、革命を促進するか、あるいは自ら革命を誘発する権利、実際義務が生じた。賄賂、陰謀、暗殺は、これを達成するための手段であり、今でもそうです。

主要なフリーメーソンの一人であるカルティエ•ラ•テントは、1900年にパリで開催された第2回国際フリーメーソン会議で、世界フリーメーソンの主な目標は世界をその蝶番から外すことであると率直に認めた。

彼は世界共和国の樹立を究極の目標と述べた。

「ロッジの設立以来、人々や国家を揺るがしたほぼすべての革命はフリーメーソンの仕業だった。
フランスは、フランスが完全に彼女の希望通りに転覆を実行した最初の国でした。1789 年の革命です。1740 年から 1790 年までの半世紀の間に、フリーメーソンがフランス国家を約 700 のロッジで覆ったのは決して偶然ではありません。それは革命的なアイデアの基礎に発展しました。革命の知的先駆者であるモンテスキュー、ディドロ、コンドルセ、ヴォルテール、ミラボー、ダントン、ロベスピエールが全員フリーメーソンに属していたのも偶然ではなかった。血なまぐさい恐怖のシステムができたのは偶然ではない

そしてグランド•マスター、フィリップ•オブ•オルレアンの宮殿での国王夫妻の処刑が決定された。 」

その後のすべての革命と同様、受益者はユダヤ人でした。血なまぐさい革命を通じて北欧の支配階級をほぼ絶滅させた。彼らの代わりに、それは共犯者とともにそれ自身を奪ったのです！それは世界帝国に新たな属州を築き上げたのです！

これは、その思想に関する限り、ユダヤ教にとって大きな成功を意味しました。

人間の顔をもつものはすべて平等であるというフランス革命の教義は、ヨーロッパの他の民族、実際には全世界に広がり、あらゆる場所に破壊的な影響を及ぼしました。

フリーメーソンはフランス革命が自分たちの「仕業」であることを公然と認めた。フランス革命記念日の 7 月 14 日は、ワールド ロッジの休日と宣言されました。

最後のスペイン革命、特に1918年の反乱を含む、南アメリカ、ポルトガル、ハンガリー、ロシア、スペインにおけるすべての革命は、ほぼもっぱら世界のユダヤ人に触発された世界のフリーメーソンの仕業であった。

世界フリーメーソンの最大の成功は、ドイツ包囲と第一次世界大戦でした。最も偉大な戦争屋の一人は、高位フリーメーソンの英国王エドワード 7 世でした。アメリカとイギリスのフリーメーソン新聞自体が、世界大戦はフリーメーソンの理想を賭けた決戦が行われた彼らの戦争であったことを何度も強調している。

（ユダヤ人の世界目標は)戦われた。

ユダヤ人に代わって何年にもわたって絶滅戦争を引き起こし、王位継承者の暗殺を演出し、戦争を巨大化させ、平和的解決に向けたあらゆる試みを刑事的に抑圧してきたのはフリーメーソンだった。責任ある政治家は全員、

フリーメイソン！その後ろには永遠のユダヤ人が立っていて、からかうように笑っていた！

「ヴェルサイユの不名誉な命令は、単に政治家間の交渉の結果ではなく、戦争真っ只中の1917年6月30日にパリで可決されたロッジ決議の実施の結果である。

ドイツのフリーメーソンは、平和主義の麻痺する毒によって戦争中にドイツ国民の力を弱め、1918年11月の帝国崩壊に決定的な貢献をした。

「ドイツのフリーメーソンは、その代表であるエーベルト、シャイデマン、クルト•アイズナー、リープクネヒト、高位フリーメーソンであったラーテナウを通じて、1918年の反乱を引き起こし、ドイツ国民を計り知れない悲惨に導いた。とりわけ、フリーメーソンは国家社会主義と戦い、そしてそれは国家社会主義運動がその闘争においてあれほど困難な立場にあったのはそのおかげである。

アドルフ•ヒトラー国家は、フリーメーソンが危険なユダヤ人の世界秩序であることを知りながら、破壊した。

フリーメーソンは今日、あらゆる敵国にこれまで以上に存在しています。それは世界国家の確立という政治的目的を持った、世界のユダヤ人に完全に従属する国際組織です。内のすべてのロッジ

世界はどういうわけかユダヤ人の中心的な指導の下にあります。どのロッジもこれから除外することはできません。

フリーメーソンが非常に危険なのは、ユダヤ人にその破壊的な活動と世界権力の目標をカモフラージュする最高の機会を与えているからである。

マルクス主義とボリシェヴィズムの創始者、マルクス、レーニン、トロツキー、フリーメーソンだった。

今日、ほぼすべての国家元首と敵国の政府のメンバーはフリーメーソンであり、ほとんどが高位です。
フリーメーソン：チャーチル、イーデン、イングランド国王（高級フリーメーソン）、ルーズベルト（高級フリーメーソン）、そして南米諸国のすべての国家元首（アルゼンチンを除く！）。人間は、その政治しか理解できない。フリーメーソンに代表される世界のユダヤ人が原動力であることを何度も認識すれば、敵の勢力は弱くなるだろう。

イタリア国王も裏切り者将軍もフリーメーソンだった。

フリーメーソンのやり方は常に滑りやすく、血と恐怖に満ちていました。革命を通じて世界のフリーメーソンによって殺害された数百万人の死者は数えきれないほどである。政敵や支配者、そしてその兄弟の殺害は数多くある。

ユダヤ教と「フリーメーソン」の欺瞞性は、ヨハンリスのロッジでは民主主義の原則が説教され実行されているのに、最高評議会では権威主義の原則、つまりリーダーシップの原則が適用されているという事実に勝るものはない。なぜなら、フリーメーソンのトップは、民主主義の原則が必然的に腐敗につながることをよく知っているからです! もっと陰険で危険な組織はまだ「世界の歴史」を知らないからです!

に関する統計情報
世界フリーメーソンとその組
織。

ドイツ: ドイツでは、忠実な会員の数は 1933 年以前から着実に減少していました (1928 年: 80,185 人、1930 年: 78,423 人、1932 年: 75,328 人)。ここでは、フリーメーソンに対する国民的闘争の影響が鮮明に現れています。

フランス: 一方、フランスでは、会員数は当初増加しましたが(1928年: 40,760人、1930年: 47,100人、1932年: 49,200人)、その後、1932年から1940年にかけて43,034人に突然減少しました。

イングランド: 一方、イングランドでは、ロッジの数と会員の数はともに増加し続けています (1928: 270,000 1930: 310,000 1932: 350,000 1940: 400,000)。

アメリカ: 最後に、1932 年に 3,074,261 人のロッジ会員がいたアメリカを見てみましょう。

7.自由主義とは何ですか?

ローマから発せられた心理的強制は、宗教改革だけでなく、自由な社会にもその反応を示しました。

教会の権威の誇張された考えに反抗した、活発な一連の思想。の

特に「啓蒙」は、もともと 1700 年頃からのゲルマン•ヨーロッパの知的運動であり、この新しい時代の表現でした。

ユダヤ人は非常に独創的な方法でこの思想の世界を支配し、それを政治の分野に移しました。近代自由主義が登場しました。

同時に、このユダヤ人は、政治的目標のために、自由精神のしるしの下にイギリスで誕生したフリーメーソンを利用した。彼は巧みにカモフラージュした形でロッジ運動を自身の政治思想の担い手へと発展させた。

最初の目に見える影響は、リベラリズムの破壊的な働きを明らかにした
自由、平等、兄弟愛を合言葉にフランス革命でフリーメーソンの協力を得て、その教えの本質は次のとおりでした。

人類は、すべての人間は平等であるという誤解を招く教義に基づいて、友愛と世界共和国を価値ある目標としてだまされました。

血と人種という考えは否定されました。その結果、我が国の人々の高品質な血液と外国の血が徐々に交差することになりました。

ゲルマン人の共同体概念（共同体倫理)は、すべての生命の前景には自己、個人に対する関心がなければならないという考え（個人主義原則)と対比されました。

ゲルマンの理想主義はユダヤ人の唯物論、つまり金（資本)と人格の価値観に対抗しました。

リーダーシップと忠誠の原則は議会主義と民主主義（人民統治、大衆)に取って代わられた。経済的観点からの物質の過大評価は、階級の形成と国家共同体の崩壊につながりました（その結果としての利益への依存、利己主義、無制限の資本主義）。より大きな名声を享受したのは人格に満ちた人ではなく、金持ちであり、お金の支配（金権政治)の始まりでした。

つまり、主な考え方は、個人主義、物質主義、国際主義、議会
主義、資本主義でした。それは、ゲルマンの価値観すべてを完全に再評価することを意味していました。

ゲルマンの自由は、魂の内なる自由、政治的自由として理解されていたが、利己主義、つまり社会との結びつきのない個人の無制限で無制限な自由となった。

コミュニティ。

階級差の結果、宣言された友愛は全員対全員の闘争に発展した（「もし君が私の兄弟になりたくないなら、頭を割ってやる！」）。

リベラリズムはマルクス主義を精神的に準備しました。

すべての背後には、世界権力を求めるユダヤ人がいた。
自己中毒、金中毒、権力欲といった典型的なユダヤ人の本性がはっきりと浮き彫りになった。

ユダヤ教はフリーメーソンの網を世界中に張り巡らせていました。政治と経済のあらゆる国の指導的人物がここに代表され、一部は思慮がなく、一部はユダヤ人の犯罪者の手に渡った無意識の道具となっていました。そのため、邪魔をするドイツ国民が外交政策でますます包囲され、国内政策で目に見えて弱体化するような形で、ユダヤ人が政治の糸を紡ぐのは容易だった。

自由主義の看板の下、ユダヤ人はついにハルデンベルク政権下のプロイセンで完全な政治的•法的平等を達成し、アメリカとイギリスで既に達成していた後、すぐにドイツの他の地域でも完全な政治的•法的平等を達成した。

「モザイク宗教の告白者」にも同じ権利が宣言されています。ユダヤ人は土地を取得して役人になることさえ許されている。

「ユダヤ人の高金融が勝利を収めた。ユダヤ人マイヤー•アムシェルは「ヘッセン=カッセル選帝侯の兵士貿易で『上級法廷代理人』として巨万の富を稼いでいる。彼の5人の息子であるロスチャイルド家はナポレオンとその同盟者に資金を提供している。ロンドン•ロスチャイルドは「2,000万マルクを稼いだ」 〜の結果についての虚偽の報告

証券取引所のウォータールー。すべての州は国家からの融資に依存している。

ロスチャイルド家。許しは政治的条件下でのみ発生します。
ロスチャイルド家はヨーロッパの目に見えない支配者となる、「（ウォルター•ゲール）ユダヤ人の邪魔をするものは何もなかった。政治、経済、文化において最も影響力のある場所が彼らを待っていた。ユダヤ人の覇権が始まった。」ユダヤ人と自由主義によって、あらゆる文明民族の人々を苦しめる可能性のある最も危険な疫病がもたらされました。それは、物質主義、官能的で女々しい生活への中毒、金の子牛の周りでのダンス、そして個人主義、自己神格化、そして社会からの背反です。理想主義的な人生観は人々の健全な生活秩序を崩壊させ始め、それとともに衰退が進み、それが進むほどユダヤ教の力は増大していきました。

ブルジョアジーとフリーメーソンを通じて、コスモポリタニズム、世界の友愛、制約のない自由、そして有利な雇用の制約のない追求という考えは、ドイツでも最も幅広い層に浸透しています。結果は奥が深いです

これまで民族的に決定されてきたすべての見解が崩壊します。

労働はもはや国家共同体の価値創造手段としては機能せず、私利私欲のためだけに機能します。経済は国民や国家から独立して、金を蓄積することだけを目的とした独立した存在へと発展します。

クリエイティブ部門の不謹慎な搾取は、一方では、抑制のない資本主義に支えられたユダヤ人ブルジョア金権階級を生み出し、他方では、騙された労働者階級を生み出す。すでに存在する社会的ダメージは、和解できない矛盾となり、階級闘争につながる。労働者大衆はマルクス主義の武器に追い込まれている。ヴォルキッシュの運命共同体は引き裂かれる。貴重な国力が兄弟殺しの闘争で消耗される。農民は姿を消し、大都市が成長している（1910年にはドイツ人の5人に1人が大都市に住んでいた）。子供の数は減少し、外国の血、特に東部ユダヤ人の移民が増加した。高貴なドイツ人の血の人種的交配は恐ろしい形をとります。上流階級ではユダヤ人との混婚が主流となっている。 (1926 年のベルリンでは、861 の純粋なユダヤ人の結婚のうち、553 の混合結婚が締結されました。ドイツの混合ユダヤ人の数は約 7 5 0 0 0 0 です!)

人種意識の低下に伴い、本物の民間伝承はますます失われつつあります。その見返りとして、ユダヤ教はあらゆる分野でドイツ人の生活を支配します。文化は退化する。ユダヤ的な方法で再形成されていないものはもはやありません。ユダヤ人の精神では、人は「合理的な」国家、社会的、法的、経済的生活を構築し、それはあらゆる国、あらゆる民族、あらゆる時代に適したものでなければなりません。

ドイツ国民の大衆は目的を失い、不安定になります。大きなサークルはホームレスのように感じます。何百万人ものドイツ人が、特に北米に移住します。

この間に約 300 万人がドイツの祖国を離れました。
1871年と1914年 !貴重な血液が世界から失われます。

ユダヤの自由主義の教義がドイツの戦争の原因だった

崩壊をビスマルクが止めることしかできなかった。リベラリズムは、今日イギリスとアメリカだけでなく、ほとんどの「中立」諸国でも猛威を振るっている政治思想の世界です。

ボリシェヴィズム

8.ボリシェヴィズムとは

ボリシェヴィズムは世界のユダヤ人の手段であり、それを通じてユダヤ人リベラルな英国系アメリカ人の金権政治と連携して、ユダヤ人の世界支配という旧約聖書の約束を実現しようとしている。

現在ソビエト•ロシアに見られる国家的ロシアの願望と、コミンテルン（第三共産主義インターナショナル)の明らかな解散は、ユダヤ教が依然として原動力であるという事実を隠してはならない。

ほとんどすべての国と同様に、ユダヤ人はソビエト•ロシアでも国家生活と経済生活に大きな割合を占めている。たとえスターリンが独裁者だったとしても、

ソビエト•ロシアの最も強力な支援者の一人は、党と国家の最高官庁を束ねるユダヤ人の義父ラザロ•モセゾーン•カガノヴィッチである。つまり彼は ：スターリンの代表者です

党書記局長、政治委員
事務局と

組織局、人民委員会副議長、重工業•運輸人民委員、ソビエト連邦最高評議会議員、国防委員会委員。

カガノヴィッチは兄弟のジュリー•マセゾーン•カガノヴィッチ、ミキアエル•モセゾーン•カガノヴィッチ、アーロン•モセゾーン•カガノヴィッチに他の
重要なポストを与えた。

政府のメンバー（人民委員)503人のうち406人がユダヤ人であり、政治委員の大多数と同様にソ連の将軍の多くもユダヤ人である。

ボリシェヴィズムがロシアの国家体制に浸透したという極めて危険な意見には、十分な力をもって対抗することはできない。ユダヤ人のボリシェヴィキが世界征服を望んでいることは事実である
汎スラブ主義の拡張衝動と結びついている。しかし、思想の原動力は依然としてユダヤ人によって決定されたマルクス主義である。
ソビエト•ロシア（ボリシェヴィキ統治の初期)で彼らがユダヤ人と戦った時代があった。しかし、その動機は政治的なものではなく、経済的なものでした。この時代にすぐに、ユダヤ人が政府や党の最高位に進出し、ボリシェヴィキの思想の公認者として台頭した時代が続いた。しかし、今日のボリシェヴィズムは、ヨーロッパの存在を常に脅かしてきた1世紀に遡る古い大ロシア帝国主義を利用していると想定しなければならない。この世界支配への努力の根源は、ツァーリズムの中にすでに息づいていたが、一方では内なるアジアの専制主義にあり、それはボリシェヴィズムのユダヤ人の魂と密接な関係に入り、今では残酷な凶暴さの中に再びはっきりと現れている。ソ連の国家運営と戦争について。他方、それはロシア国民の宗教的メシア主義（奴隷化された人類の救済の思想)に求められるものである。

それはほぼ500年にわたって続いています。 B.は「第三のローマ」（スラブ主義の教義と汎スラブ主義の考え)の考えの中に生きています。

ボリシェヴィズムはあらゆる人種的差異を否定し、人間を血の共同体と生まれながらのルーツから排除し、国際プロレタリア世界国家の樹立を目的として人間を国際プロレタリアに変える。彼は、あらゆる生命の法則に反し、国際労働者階級の規則に基づいた人類の共同体秩序を求めています。実のところ、それは人種と民族の自然秩序を破壊し、ユダヤ人の世界支配を確立するためにのみ機能します。

古代との意識的または強制的なつながりから

のメシア主義

ロシアの魂、虚無的で破壊的な宗教的な力（夢のような目標のために苦しむ能力）、祖国への愛国的愛は、今日のボリシェヴィズムの独特の「二重の顔」を説明している。 「国民的ロシア人」の傾向は、ユダヤ人のマルクス主義の本当の顔を隠してはなりません。

ロシアのマスクをかぶって。

ボリシェヴィズムはユダヤ人が作り出したマルクス主義の教義に基づいている

ユダヤ人のカール•マルクス（古いラビの家族出身のユダヤ人のヒルシェル•マルドチャイ)による。これは唯物論の世界観に基づいています。

- マルクス主義またはボルシェビズムは、いかなる神聖な世界秩序も否定します。

彼は物質、つまり五感で知覚できるものだけを認識します。同様に、彼はまた、すべての魂と性格の価値観を拒否し、人間を魂のない物質主義的な存在に変えます。

- 彼は人種と血、ひいては血という概念を否定している。

人々の束縛された共同体であり、人種のない国際プロレタリアートの共同体のみを認めます。それはあらゆる国家の生活秩序を破壊し、人類を人種的混乱に導きます。

- この観点から、彼はヴォルキッシュ国家を拒否します。彼
プロレタリア世界国家を目指して努力する。

- 彼は、歴史が個々の人種とその世界観の間の緊張を表しているという私たちの知識を否定しています。
彼の教義では、すべての歴史的過程は経済的であると主張している
プロセス。

- 彼は人格の価値を否定し、人々を国際的な労働奴隷にします。この無視から、彼は最も残忍な手段で最後のパフォーマンス向上を要求し、
人々を魂のない作業機械に貶めます。

- 彼は財産を否定し、彼の創造的な成果を奪います
仕事。彼の目標は、人間を財産を剥奪されたプロレタリアとして刻印することです。

- したがって、彼はまた、自由な農民を拒否し、
集団農場プロレタリアは財産を剥奪された。

- この経済形態は、軍隊の自由な活動の拒否から生じます。経済は国家経済、資本は国家資本です。

- その「文化」はテクノロジーの美化だけで構成されています。
ボリシェヴィズムの影響は、魂の無さ、本能性、卑劣さ、残忍さ、物質への中毒、権力への欲望、専制主義など、ユダヤ人の本質的な要素を明確に示しています。
ボリシェヴィズムは人間の低次の本能に取り組みます。彼の結果は、
人類への影響は、人間以下のものでしかあり得ません。

ボルシェビズムの特徴についてのいくつかの説明が言及されています：マルクス主義は宗教的な形而上学的信念をまったく知りません、または認識しません。
「宗教は民衆にとってのアヘンだ」というのが彼の言葉だ

よく使われるキャッチフレーズ。ボリシェヴィキは、理想主義的世界観の代表者が「精神」や「魂」について語るときに感じ、表現したいと思っているものさえも拒否する。彼にとって、すべては「物質」または「物質の機能」です。つまり、彼にとっては、私たちが五感の助けを借りて認識できるものだけが存在します。したがって、マルクス主義では唯物論的世界観についても話します。宗教の世界は現実世界の反射（つまり鏡像）にすぎません。

」

「宗教」という言葉で表されるものはすべて、ボリシェヴィキにとっては一種の社会病現象にほかならない。

ボリシェヴィズムは神を信じないことを教えています。

これは神の世界の存在に対する最も露骨な否定である

注文。そのような信念への信念は、いかなる宗派からも完全に独立しており、私たちの真の世界観、そしてヨーロッパの人々と文化一般の宗教的基盤です。ボルシェビズムにはそれがまったく存在しないという事実だけで、ボルシェヴィズムを私たちの本性に異質なもの、私たちの本性に一致しないものとして認識し、拒否するのに十分です。しかし、今日のロシアのボリシェヴィズムの現実は、原始的な宗教的強さとロシアの魂の切望によってのみ説明できる多くの特徴を示していることを誤解してはならない。ただ、25年に及ぶボリシェヴィキのプロパガンダを通じて、ロシア人の死後の世界に対する初期の信仰は、この世に目標、つまり地上の楽園への希望を見出したのである。何百万ものボリシェヴィキ軍の狂信的な大衆が今日、「ソビエト人民」の苦しみと犠牲を通して勤労人類の救済をもたらすはずのこの楽園のために戦っている。以下のおそらく科学的発見は、マルクス主義の科学的基礎において役割を果たしています。既存の差異は、環境と育成、つまり「条件」にまで遡るしかありません。存在するのは「人間性」だけであるため、人類について語ることは全くの犯罪です。特定の人々のグループの融合

人々や国家への影響は、以前の経済状況まで遡ることしかできず、世界が危機に陥ったときに克服されるでしょう。

マルクス主義の原則に従ってのみ順序付けられます。

しかし、この再編は階級闘争におけるプロレタリアートの勝利によってのみ達成され得る。「世界の労働者団結せよ！」をスローガンに掲げ、そして階級闘争の理論に基づいて、ボリシェヴィズムは世界のプロレタリア国家になることを目指しています。

さらに、マルクス主義は、すべての歴史過程は単なる経済過程であると主張します。歴史の流れの中で示されるように、現実の世界の姿は、私たちが信じているような偉人や世界を揺るがす思想によって形作られるのではなく、経済状況によって形作られるのです。すべての歴史は経済史にすぎない。

この敵対理論に関してさえ、今日の現実は決してそれに対応していないという事実を見落としてはならない。レーニンへの崇敬、さらには「偉大な指導者」スターリンへの英雄崇拝は、個々の労働者、兵士、将校の愛国的功績の洗練されたプロパガンダ、あるいは形而上学的なロシアの歴史上の重要な人物の復活と組み合わされている。したがって、マルクス主義の史的唯物論の教義とは完全に対照的です。

教義。

マルクス主義では所有権が否定されている。彼のモットーは「財産は窃盗だ」です。
「彼は内なる衝動と創造力を経済的にだけでなく、あらゆる分野でイデオロギー的にも否定します。というのは、彼は基本的にすべての芸術家とすべての発明家にその才能と創造性の果実に対する所有権を否定し、農民からその産業の成果を奪ったからである。このように、マルクス主義はすべての人に劣等性を説き、すべての偉大な人格を最も生産的で劣った最下層の人々に憂鬱に陥らせるのである。「（アルフレッド•ローゼンバーグ）

国家社会主義によって特別に重視される人間の人格的価値は、国家社会主義によって完全に無視されます。

ボリシェヴィズム。人間は、機械の馬車馬、国際奴隷に成り下がってしまいます。

宗教の場所と人間の人格の場所で、ボリシェヴィズムは機械を持ち上げた。無制限のカルト

アメリカが採用したテクノロジーは、新しいアイドルに奉仕するだけで済む均一な集団の中で個人を滅びさせます。洗練された進歩プロパガンダは、「ソビエト国民」大衆に、ソビエト国家がその巨大な工業化のおかげで世界で最も近代的な国家であるという幻想を植え付けた

そしてその驚異的なテクノロジーの発展。テクノロジーは未来の楽園をもたらすはずだ。ソビエト国家はシロアリ国家であり、そこでは人間は特定の労働命令を遂行するだけでよい。 「文化とは『新しい人類』の作業技術を意味するに過ぎない。

この世界観とその残忍な現実は、「ボリシェヴィキ体制の成果」を説明している。テクノロジー崇拝が、これまでの世界史では知られていなかった形で人間の労働に負担を与えていることは疑いの余地がありません。1929年に始まったスターリンの5ヵ年計画の目的は、「社会主義建設」という意味での単なる工業化ではなく、帝政時代にはロシアになかった巨大な兵器産業の創設であった。第一次世界大戦におけるロシアの軍事的大惨事が主な原因であると考えられている。スターリンは重工業•軍需産業の分野でアウタルキーを確立するだけでなく、ソビエト•ロシアの絶対的な優位性を確立したいと考えていた。

個人の福祉と人間の幸福の最後の影は、この目的のために容赦なく犠牲になりました。何百万人もの人々が、まともな生活を送るためのわずかな前提条件さえも確保されないまま、国から都市や新しく作られた産業の中心地に新たに移住させられた。ヨーロッパの工業化時代初期のプロレタリアの悲惨である古代の奴隷制は、強制労働に比べれば楽園のような状況だった

15年間存在していたそれはソ連軍需産業の発展を意味した。人間の最も原始的なニーズに対応するあらゆる物資の生産が厳しく制限されました。

軍の要求を別にすれば、あらゆる活動は重工業•軍需産業の発展、ウラル山脈の両側での巨大な新しい生産施設の開発、史上最強の軍需機械のためのロシアの膨大な天然資源の再開発に役立っただけだった。 。

何百万人ものあらゆる種類の政治犯が、運河や鉄道の建設、鉱山や森林、強制労働収容所で命を落としました。無数の「自由な」労働者大衆は、あらゆる種類の出来高制で鞭打たれ、まばらな食料と衣服で苦労し、原始的な住居や地面の穴に収容され、再び彼に説教された未来に向けて絶え間なく容赦のない追い詰め労働をしていた。また。

このような制度は、ロシア人の魂の熱烈な信仰の力がなければ、また見せかけの「労働者の楽園」への希望がなければ不可能であるということを見落としてはならない。また、技術的に大量の成果が実際に達成され、現在も達成され続けていることを認識する必要があります。このシステムが軍備産業を構築し、戦車や銃、飛行機、あらゆる種類の重火器など、今では想像もできなかった数字が構築されたことを私たちは今知っています。巨大な物質的な戦いに何度も何度も参加します。自由農民の殲滅と農民財産の撤去もこの目的にかなった。 1930 年以降の集団化は当初、国とその住民の完全な工業化を意味していました。農業生産全体は国家の「大規模企業」に集められ、軍需産業のみを対象とした集中管理された大量生産として機能することになった。クレムリンの支配者たちは、1000万人以上の農民が飢えと国外追放で亡くなったという事実には無関心だった。彼らは、集団農場の最初の数年間に、巨大な家畜の群れが存在したという事実に無関心でした。

牛は死に、無数の農業機械は腐り、広大な耕地は完全に枯れ、数十万の農場が完全に破壊された。彼らは、今日でも、集団農場やソフホーズに詰め込まれた元農民は、人間としての幸福感も自発的な活動への衝動もなく、檻に閉じ込められた魂のない馬車馬であり、工業的農業生産に貢献するシロアリのような生き物であるという事実に無関心である。退屈な轍の中で。

ここでも、壊滅的な挫折の後、巨大な機械とあらゆる科学資源を容赦なく使用することによって、巨大な集団とソフホーズの生産が増加したという事実を無視してはならない。特定の技術的成果は、

集団化された農業でも達成されました。いくつかの科学テスト製品では、最高のパフォーマンスさえも記録され、洗練されたプロパガンダマシンに未来への素材と大衆の信じる心に何度も何度も希望を与えました。

奴隷化された何百万もの人々の苦悩する魂の将来の楽園へのこの希望は、ユダヤ人の指導者によって正しく計算されました。この指導部は、あらゆる手段において常に、レーニンがすでに「最後の帝国主義戦争」として予測し、それを目指していた戦争が来ることを期待していた。この戦争は世界革命をもたらし、それによってボルシェビキ体制が全ヨーロッパと世界に拡大するはずだった。このような計算は、莫大な損失が発生することをまったく理解する必要があります。

工業化における人間的および経済的実質

集団化は冷静に受け入れられた。このことからのみ、今日明確に認識できる世界革命と帝国主義の最終目標から、ソビエト体制の実際の見かけ上の成果も判断しなければならない。

ボリシェヴィズムは、その最終目標と同じくらい、その本当の顔を少しも変えたことがありません。すべての「ロシア国民」の特徴、すべての国民の経済的、文化的、

あるいは、今日の軍事的成果は、その恐ろしい迷彩術、つまり仮面の変更にのみ属します。

ボリシェヴィズムは、ユダヤ人が世界国家の混沌とした人類を支配するための最も危険な手段を代表するものである。

「ロシアのボリシェヴィズムには、20世紀にユダヤ教が世界支配を自分のものにしようとして行った試みを見ることができます。」 （アドルフ•ヒトラー。）

マルクス主義の思想に加えて、ドストエフスキーやトルストイの世界を改善するための宗教的思想、汎スラヴ主義の教えなど、前世紀の教えの影響が効果的であるというソビエト•ロシアの状況を注意深く観察する者も免れなかった。そしてニヒリズム。しかし、主力は依然としてマルクス主義の教えです。混乱し道に迷ったロシア国民にマルクス主義を持ち込んで、この扱いやすい国民を世界権力目標の道具にしようとしたことは、ユダヤ人の犯罪であり、今でも罪である。

「ボリシェヴィズムはユダヤ教とアジアの思想が混合したものです。ユダヤ人

ロシアが今日、非常に特殊な方法でロシア帝国主義と結びついていることから、ロシアによる危険はさらに大きくなっている。ユダヤ人もロシア人も、どちらも東洋の子であり、どちらも腐敗する可能性があり、いずれにせよ、「選ばれた民であり、したがっておそらく自然の同盟者」であるという同じ救世主信仰の持ち主である。世界革命と世界支配への衝動の中で、古いロシアの救世主思想は、おそらくかつてないほど強くこの新しい現代ロシアに生きている。 「（アロ博士）」

ロシア人が極限の環境で暮らしていることは知られており、そのため彼らはほぼ比類のない狂信とともにボリシェヴィキの思想を救済の教義として採用した。彼は真のエクスタシーを持ってその実行に身を委ねます。彼は邪魔なものをすべて船外に投げ捨てた。
「ロシアはかつてヴァイキングによって建国されたが、ゲルマンの要素がロシア草原の混乱を和らげた」

そして住民に国家的、文化を可能にする形態を押し付けた。
滅びつつあるヴァイキングの血のこの役割は、後に一般的にロシアへの西洋移民であるドイツのハンセンに引き継がれた。ピョートル大帝以来、ドイツのバルト人も、20世紀初頭には強くドイツ化されたバルト人も同様でした。しかし、ロシアのまともな上流階級の下には、無限の拡大への憧れ、単なる障壁として認識されていたあらゆる形態の生命を踏みにじろうとする衝動的な意志が常に眠っていた。ロシアの生活にさまざまな衝撃があったため、モンゴル人と混ざり合った血はたとえ強い希釈であっても沸騰し、人々をその人自身しばしば理解できない行為に連れて行った。ロシアの生活とロシア文学（チャダーエフからドストエフスキー、ゴーリキーに至るまで）で絶えず繰り返されるすべての道徳的および社会的兆候のこの突然の逆転は、敵対的な血流が互いに争っていて、この闘争がいつか終わるまで早く終わらないことの兆候である。血の力がもう一方に勝利しました。

ボリシェヴィズムとは、北欧の文化形態に対するモンゴル人の怒りを意味し、草原への欲望であり、遊牧民の人格の根源に対する憎悪であり、ヨーロッパ全体を捨て去ろうとする試みを意味する。多くの詩的な才能に恵まれた東バルト三民族は、モンゴルによる強制執行が行われた場合、北欧の指導者やユダヤ人やモンゴルの暴君の手にぴったりと寄り添う調子になることが判明する。彼女は歌い、踊りますが、同時に人を殺し、激怒します。彼女は忠実ですが、ルーズなフォームを脱ぐときは無制限に危険です。たとえそれが横暴であっても、新しい形態を強制されるまでは。

どこにせよ、今日の人種的に束縛された歴史観の真実は東洋で明らかにされるが、同時に北欧人種の本質が危機に瀕している大きな危機の時でもある。 「（アルフレッド•ローゼンバーグ『20世紀の神話』）

9.それはどのようにしてわかりますか?

ボリシェヴィキは征服を望んでいる

ヨーロッパと世界

レーニンは常にヨーロッパと世界の征服を主張しており、スターリンは自分がボリシェヴィ
本。彼のモットーは、 キ融資の ボリシェヴィズムの一部。
実行者であると感じている。彼

レーニンの教えの正当性を繰り返し強調している。ボリシェヴィズムの本質と目
的は今日もレーニンの時代と同じである。

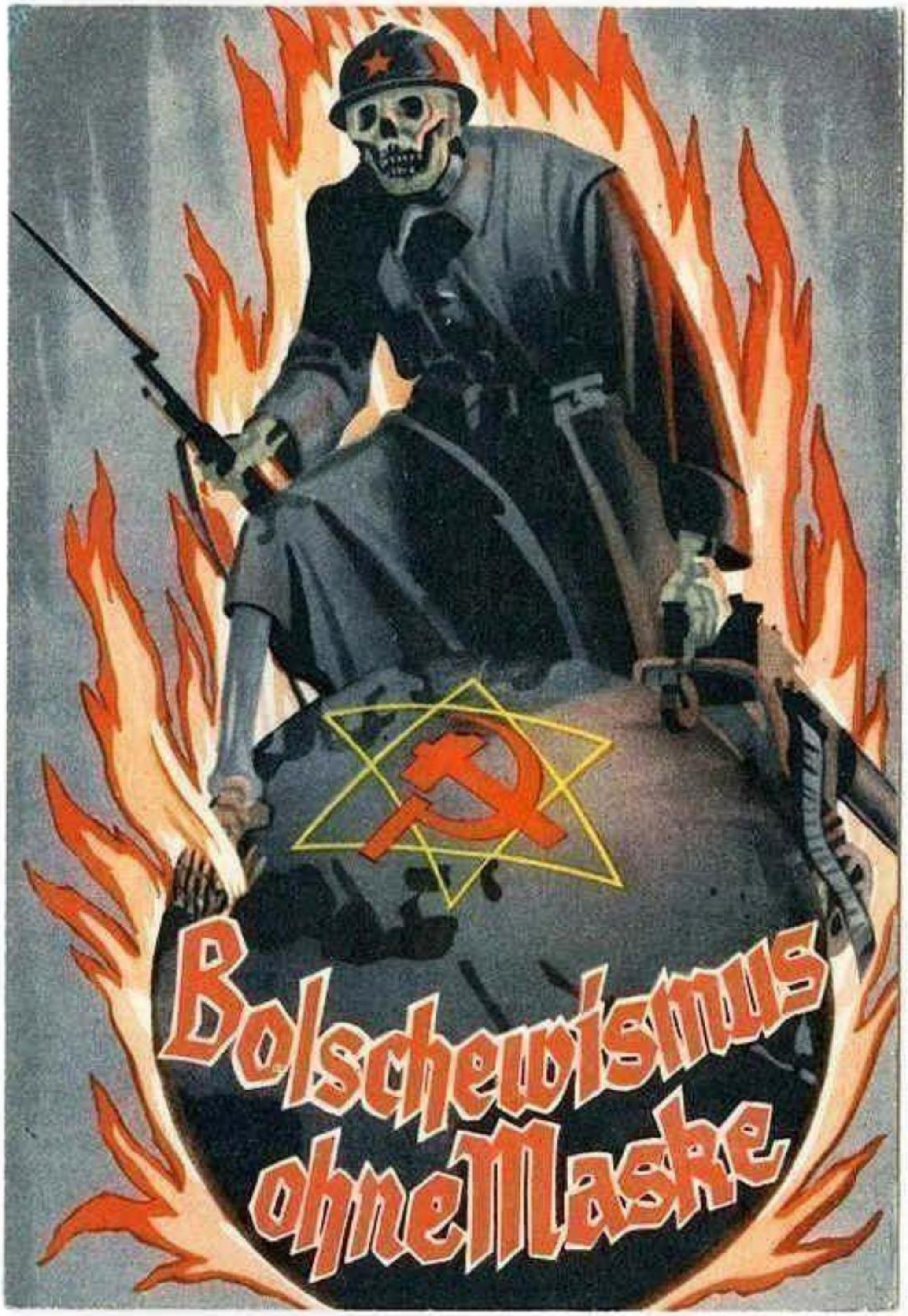
書きました：

「われわれの目標は、世界を支配することだ……かつての主要国家を完全に殲滅するこ
とによってボリシェヴィキの勝利を永久に形づくることは、ロシアの場合と同じくらいヨー
ロッパではほとんど障害に遭わないだろう。ソビエトの支配はどちらも知らない

自由も正義も。このルールは、各個人の意志の抑圧と破壊に基づいています。しかし、私た
ちはマスターです。弾圧は我々に委ねられている。極限まで冷酷であることが私たちの義
務です。この義務の履行においては、完全な圧政による限りない残虐行為が最高の功績で
ある。その奉仕においては、あらゆる裏切り、あらゆる言葉違反、正義のわずかな影の否定
でさえも存在し、我々は人類を最後のレベルまで追い詰めるだろう。男性だけが適してい
る平等は、私たちの権力の使いやすく統一された道具となるのに適しています。

」

今日では、スターリンがこの教えを詳細に実行しようと努めたことを疑う人はいないでし
ょう。


Bolschewismus
ohne Maske

10.スターリンはどのようにして勝利したのか

ソ連国民はボリシェヴィズムを支持しているのか？

•嘘のプロパガンダを通じてソ連国民の輝かしい未来を描くことによって。

•厳格な教育を通じてボリシェヴィキ型の人間を作り出すことによって
教育方法。

a)へ。 20年にわたり、スターリンはヨーロッパと世界に対するボリシェヴィキの攻撃にソ連国民を準備させる方法を知っていた。最初、彼はそれを密封しました。

世界の他の国々から見たソ連。ボリシェヴィキは存在しなかった

ドイツの経済的、文化的発展について学ぶことができました。
彼は巧みに自分の秘密の目標を隠した。彼は、ボリシェヴィキの視線をソ連の恐ろしい現在から、プロパガンダによって最も美しい色彩に彩られた未来に向ける方法を知っていた。スターリンはボリシェヴィキの中で労働者のための楽園への信念を目覚めさせ、それは最初にソ連で実現され、後にボリシェヴィキ戦士によって世界中で実行されることになった。ロシア人はそのような考えを非常に理解しやすかった。トルストイやドストエフスキーのような詩人は、すでにロシアの世界使命とロシア世界人民によるヨーロッパの救済を称賛していた。ボリシェヴィキは信じられないほどの欺瞞性をもって同様の救世主主義を呼び起こしたが、それが最前線のボリシェヴィキが今日スターリンとボリシェヴィキの理念のために自らを犠牲にしている最終的な理由では決してない。

ボリシェヴィズムはソ連国民の切望を巧みに掻き立ててきた。「ボリシェヴィズムは真の社会主義の保証であり、抑圧された人民と階級の解放であり、労働者のための楽園の創造であり、自由と人権であると言われていた。」これらのテーゼによって、ロシア正教（ギリシャ•カトリック)教会が長い間先行してきた、世界を救済しなければならないという考え（スラヴ派の教義)がロシア国民の中で取り上げられた。多くの人がボリシェヴィズムを崇拝し、ボリシェヴィズムが廃墟を超えて世界を大々的に宣伝される未来に追い込もうとした当時、これらの魅惑的なスローガンが多くのソビエト連邦の住民に影響を与えたとしても不思議ではない。

b)へ。北欧の支配階級が残酷に排除された後、ボリシェヴィズムは可能な限り広範なボリシェヴィキ知識層によって支持されなければならなかった。ボリシェヴィズムは、この階級を創設することが大きな課題であると考えた。彼女なしでは彼はプログラムを開始できなかったから、

ボリシェヴィキは大学から小学校まで数多くの学校を設立した。これらの学校の理事および教育者はユダヤ人および実績のあるボリシェヴィキであった。の学校

ソビエト連邦は、どのようなタイプであっても、すべて同じ考えの下に置かれていました。つまり、ソビエト連邦は国民のボリシェヴィ化のための機関として、またボリシェヴィズムを最大限の一貫性で実現する手段として機能しました。

「共産主義がなければ教育は必要ない」、これがボリシェヴィキ教育の恥ずかしくない傾向である。したがって、教育と知識はまったく新しい観点から現れます。「それらは絶対的な価値として認識されているのではなく、ボリシェヴィキの思想を広めるための手段としてそれらに重要性が付加されているだけであり、知識それ自体は重要ではなく、ボリシェヴィキに完全に専念することが重要である。」

大学にはマルクス主義の専門科目が設置された。

すべての学生は、何を勉強していても、「レーニン主義」コースに参加しなければなりませんでした。マルクス主義のみを扱う180時間の講義と80時間のセミナーで、大学のすべてのコースが紹介されました。それで、あなたは最初にボルシェビズムを一学期勉強し、次に法律、医学、または他の科目を勉強しました。ボリシェヴィズムが突きつける謎を解決しようとするなら、それは私たちに思考の材料を与えてくれるに違いない

私たち。

ボリシェヴィズムの指導は人文科学のあらゆる活動に代わるものです。真実と人生の意味を研究するという使命を与えられた人は誰もいません。ソビエト連邦の「約束の地」で、彼らはボリシェヴィズムの中に人間性に関する究極かつ最高の知識を発見し、明らかにしたふりをしている。ソ連はこの真実で世界を幸せにしたいと考えている ボリシェヴィズムが反逆するなら、「彼らの幸福」を強制して古いものを破壊しなければならない。

これらはソ連人の脳を形成した考えです。

国民はボリシェヴィキの教育訓練制度から多大な恩恵を受けることを約束した。なぜなら、ボリシェヴィズムは、教育を国家にとっての危険とみなしたツァーリ政府とは全く逆の方向に進んだからである。若者たちは魂を込めて科学に身を投じ、ボリシェヴィズムは若者の衝動を巧みに吸収し制御することができた。

長い目で見ると、ボリシェヴィキの思想だけでは新しい思想への欲求が満たされず、無党派文学が目覚めた。しかし、ボリシェヴィキの支配者たちは学生たちに自由な学術研究を行うことを許可せず、「暴徒と推進者」にボリシェヴィキの政治学を与え続けた。すべての学校の教科書はソビエト政権の賛美から始まり、それ以前のものすべてに対する憎しみの吐き出しで始まり、科学的研究は作り直され、あるいはよりよく言えば改ざんされました。歴史や文学などの主題は特に残酷な処理を受けなければなりませんでした。共産主義の傾向は赤い糸のように科学全体に浸透しました。

ソ連では好きなものを何でも読むことができ、いつでもどこでもボリシェヴィキの思想に出会うことができます。ソビエト人がしだいに他の知的な栄養を求める欲求に向かい、ボルシェヴィズムに強制的に力を与えたのは、物事の性質上である。

譲歩。最初、ボリシェヴィキは抵抗したが、その後屈服した。

世界文学の作品も登場しましたが、もちろん「ソビエト版」であり、それらはすべてボリシェヴィズムを対象としています。

解説書は、すべての作家がボリシェヴィズムを地主や資本家の抑圧的な隷属から解放するよう叫ぶボリシェヴィズムの擁護者だったという考えを熱心に強調している。

ギリシャ人以降の人類の文化史全体は、

マルクス主義の単一の発展としてのボリシェヴィキ文学は、最終的にロシアで実現を見出し、そこからマルクス、レーニン、スターリンは、この発展の終着点にある偉大な人物であり、ボリシェヴィキによる全人民の解放を人生の大きな目標とした。

11.ボリシェヴィキはなぜ戦うのか

こんなに苦いのに？

ボルシェビズムの異端は彼らに深く叩き込まれているため、彼らは揺るぎない狂信をもってその思想の正しさを信じている。ボリシェヴィキは、ソビエト•ロシアはボリシェヴィキの楽園だが、ドイツはナチスの地獄だと言われている！

このユダヤ人は、ロシア人ほど積極的な手段を見つけることができなかった。彼のヨーロッパ系アジア人の態度は、彼にとってこれ以上のものはないでしょう。

苦しみと犠牲に満ちた、要求のない人生を生きる意欲と彼の誠実さ、そしてその一方で最も残酷な残虐行為に対するアジア的な能力は、ユダヤ人にとって彼の暗い計画に役立ったに違いありません。マルクス主義の「世界が幸福な」教義は、救いを求めるロシアの魂ほど早く浸透するところはない。そして、原始的な偏狭さと不謹慎な残忍さで予測された目標を追求する、これほど狂信的な人物はこの地球上にいないでしょう。

何年にもわたって、大規模な政治的およびイデオロギー的な研修への移行が行われてきました。資源と人員を最大限に費やして、ボリシェヴィキ兵士は政治的に訓練され、イデオロギーの教育を受けている。これはすべての軍指導者の公務の 1 つです。

特に戦時中の現在では特に集中的に訓練が行われている。

この重要な作業の単元では、週に最大 8 レッスンが使用されます。レーニン主義、マルクス主義、スターリンの思想、さらにロシアの歴史が熱心に研究されています。各ユニットには、特別な作業グループと、それらに必要なライブラリがあります。政権には、

コミッショナーの指導のもとで集中的に実施される肥大化した研修制度。

この訓練は心理的に非常に目的があり、兵士を暗示的な力を持つアイデアの呪縛にさらし続けます。この目的のためにあらゆる手段が使用されます。一つは（たとえば、「敵が立っている」とは言わず、むしろ「ファシストが立っている」、または「このファシストの機関銃は打ち倒されるべきである。赤軍の無敵はすべての兵士に植え付けられている。ボリシェヴィキ兵士の自信は、最大限の規律とともに特に高められる。

「祖国を守るために武装した人民」というテーゼは、ボリシェヴィズムの真の意図を隠している。

さらに、訓練は帝国主義ボルシェヴィズムの精神に基づいた愛国的弁証法で行われます。

汎スラブ拡張主義の衝動、つまり植民地化された人々や地球を獲得するためのロシア国民の宣教意識は、巧妙に利用されている。

ボリシェヴィキ幹部の70〜80%が共産党員であることは注目に値する。

国家社会主義に対する憎悪が極限まで掻き立てられる。
その教義は資本主義の搾取システムとして提示されます。

ソビエト•ロシアは文化的•文明的性質において最高の成果を上げた国と呼ばれ、ロシア国民は全世界の文化の担い手である。芸術と科学について説明します
彼らの起源はロシア人またはボリシェヴィキです。ドイツと西側諸国は腐敗し、衰退するだろう。人民はボリシェヴィズムによってのみ救済され得る（ロシア国民のメシア主義への傾向を利用した）。残りの人々については、古い人々は今や滅びつつあります。

今度はソ連国民がヨーロッパの支配を引き継ぐ番だ。ヨーロッパは間もなく存在しなくなるでしょう。ヨーロッパ、それはソビエトロシアでしょう。

政治的およびイデオロギー教育の結果は、スターリンの後のソビエト•ロシアとボリ
シェヴィキの思想に対して最大限の軽蔑を持って戦う愛国的なボリシェヴィキである。犯罪的には、彼らは彼の残虐性を動物のレベルまで煽った

野蛮さ。

なぜボリシェヴィキの兵士は最も不利な条件下でも戦い続けるのか、人は何度も不思議に思う。
その理由は、ユダヤ人のボリシェヴィキの思想の力と、巧みかつ目的を持った精神的、精神的影響力によってボリシェヴィキの心に植え付けられたソビエトの楽園とソビエトの支配という考えである。

もしロシア軍がそのような持続的な政治的およびイデオロギー的訓練を受けていなければ、とうの昔に崩壊していたであろう。

ボリシェヴィキの兵士は特に狂信的で、政治的、イデオロギー的に教育を受けた兵士です。彼はボリシェヴィキの思想とソビエト世界の楽園のために戦っています。

だからこそ、ボリシェヴィキは西洋全体にとってこれほど危険な脅威となっているのである。多くのヨーロッパ人、実際には多くのアングロサクソン人は、ボリシェヴィズムの本当の姿を認識したいなら、心の奥底で震えるだろう。

ドイツの兵士は、歴史上よくあることですが、英雄的な戦いで文化世界全体をアジアの征服から守ります。

12.運命はどうなるのか

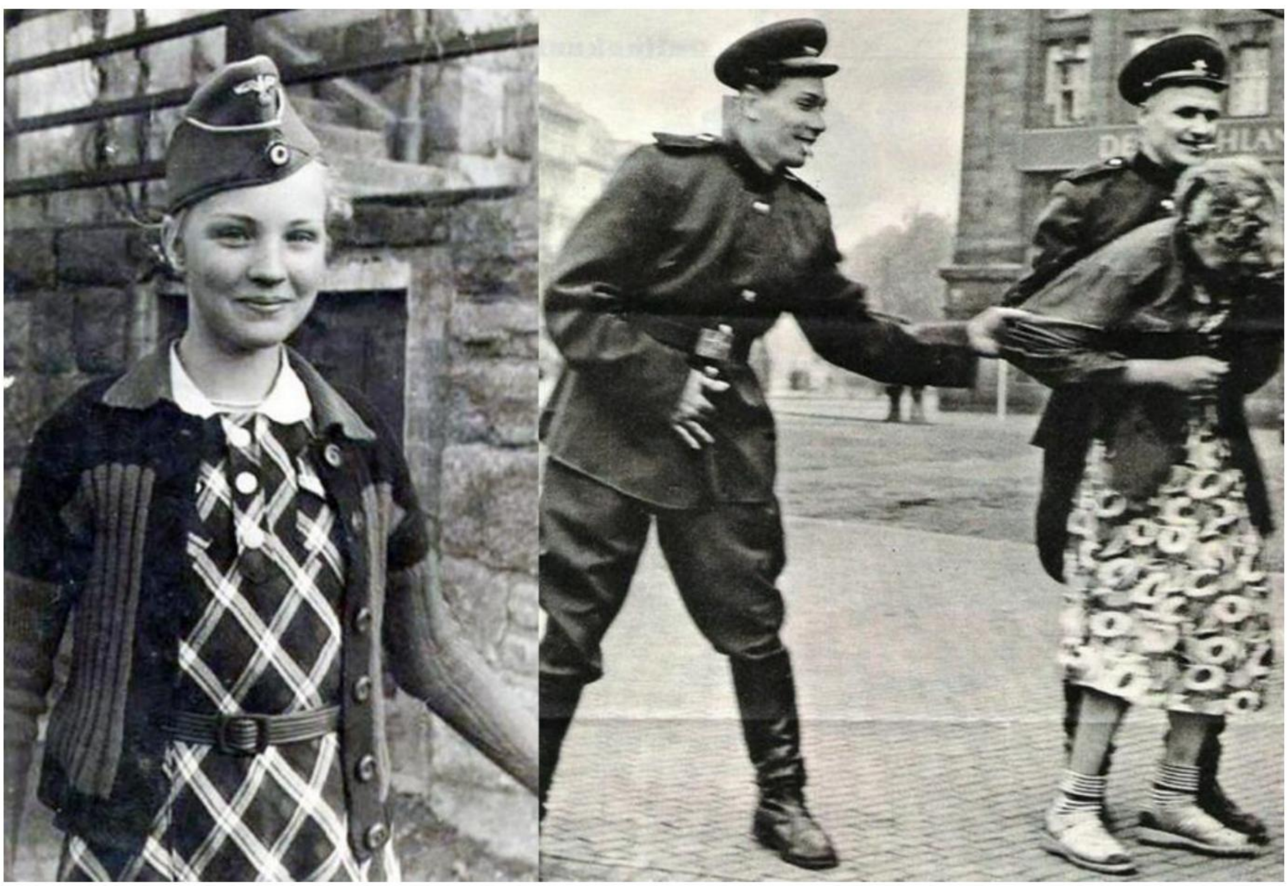
ボリシェヴィキは我々に原因を与えた

両親、兄弟姉妹、

私たちの妻と子供たちは？

私たちの両親は、せいぜい最低限の生活を維持し、国家に奉仕することを強制されるでしょう。

ボリシェヴィキ。私たちの姉妹や女性たちは、単に餓死するか粛清されない限り、強姦され、不名誉を与えられ、シベリアやロシア北部に強制送還されることになるでしょう。私たちの子供たちは共産主義社会の教育に入れられ、短期間で身も心も堕落することになるだろう。



私たちの先祖の遺産、祖国、神聖な土壌、私たちの文化は、ボリシェヴィキの大群、つまり現代のフン族によって冒涜され、破壊されるでしょう。



私たちの祖先が数千年にわたる格闘と創造の中で創造したものが存続するかどうかを証明するのが今です。

さて、どちらの世界観が勝つかが問題である：ユダヤ人ボリシェヴィキ

物質主義やゲルマンの理想主義、国家社会主義の創造的な世界観の精神はありません。

イングランド

13.なぜイギリスは私たちと戦っているのですか？

イングランドはヨーロッパ大陸のあらゆる強国にとって不倶戴天の敵であるため、我々と戦っている。ピューリタニカルな世界観によれば、イギリスは自分たちが神に召されて諸民族を支配する支配民族であると考えている。イギリスも我々と戦っている、なぜならイギリスは我々のナショナリズムとドイツ社会主義にとって致命的な敵だからだ。

他の点では、イギリスはユダヤ人によって支配されています。イギリスの宣戦布告はユダヤ人の宣戦布告でもある。

英国は何世紀にもわたって、中欧強国の形成を阻止する「欧州均衡」の原則のために戦ってきた。今日でも英国の雑誌や政治家は、ヨーロッパの統一に対するこの戦争がドイツによって、その政治制度に関係なく行われていると公然と認めている。他の動機もあります。イギリスでは、社会問題は決して解決されていません。全体として、層は 2 つだけです。非常にユダヤ人志向が強く、お金と経済を掌握している金権政治の層と、財産を剥奪された労働者階級の下層階級です。イギリスには国家社会主義のような単なる社会的平等化はない。

英国の金権政治はこれまでピューリタンの教義の助けを借りて大きな社会的分断を克服することができたが、その教義によれば、政治的、経済的条件を備えた英国の民衆秩序はまさに「神が望んだ秩序」であるという。

可能な限り公正に社会問題を解決しようとする国家社会主義を通じて、我々は英国の陰謀的な資本主義搾取システム全体を阻止してきました。

それがイギリスの金権政治が我々を憎む理由である、なぜなら彼は我々を滅ぼすことに成功しなければ労働者たちに多大な譲歩をしなければならないことを知っているからである。彼の労働者たちは、ユダヤ人の金権政治報道機関によって、国家社会主義ドイツにおける実際の出来事を未だに知らされていない。

ユダヤ人の金権政治的な自由主義の考えとは別に、イギリス人はピューリタニズムを世界観として心の中に抱いています。

ピューリタニズムは、選ばれた者であるという聖書の信念を持ち、イギリスの政治的正当性意識、つまり神の名において世界支配に対する無制限の主張の基礎となっており、現在もその基礎となっている。

イギリスらしさとピューリタニズムは切り離せない概念です。ピューリタニズムはユダヤイギリス人のライフスタイルを形成し、歴史を通じてイギリス人に、異なる精神的、精神的構造を持つ人々との衝突をますます増大させてきました。

ピューリタニズムは当初、カルビン主義と部分的にはルーテル派の考えの影響を受けたローマ•カトリックの階層に対する抗議にすぎませんでした。
しかし、さらなる発展の過程で、純粋な教義を追求する中で、ユダヤ教の古い教義をますます採用するようになりました。
遺言書のアイデア。

「1652年にイングランドで南北戦争が勃発し、チャールズ1世は処刑台に導かれ、

オリバー•クロムウェルが権力を握る。それは主に清教徒グループでした。

革命が勝利をもたらした共和党員。ピューリタンは宗教上の信仰の自由を旗印に掲げていました。

ピューリタンの教えの多くは旧約聖書に根ざしていると信じられていたため、ピューリタンたちはクロムウェルを、一握りの殉教者を勝利の軍隊に変えたギデオンまたはユダ•マカビーに例えました。

元の英語の名前はユダヤ人の名前に置き換えられました。

年

聖書、さらにはユダのライオンさえもピューリタンの勝利の旗に掲げられました。ステュアートの統治下にあった期間は「エジプト捕虜」と宣言された（今日でも数百万人のイギリス人はイギリス人が「イスラエル家の失われた10部族」であると信じている）。「日曜日の代わりに土曜日を通常の安息日にするべきだという真剣な提案さえあった。

英国人はラビと学術的な会話をするために大陸中を旅し、ユダヤ教の信仰を受け入れた清教徒もいました。

これらすべての出来事を考えると、1649 年以来イギリス連邦の支配的な要素となっていたピューリタンの間で、大陸に住むユダヤ人に活発な関心があったのは驚くべきことではありません。全体として、両者の間に大きな違いはありません。ピューリタンとユダヤ人。どちらの場合も、ビジネスと宗教、そして合理主義的な人生観との間に最も密接な関係があることがわかります。どちらも、良いビジネスに必要なものはすべて道徳的にも正当化されるという原則に敬意を表しました。（ピーター•アルダーグ、「イングランドのユダヤ人」、ノールラントヴェルラーク）

旧約聖書のユダヤ人の精神がイギリス人の魂に移されました。

したがって、ピューリタニズムはユダヤ教と同等であるというテーゼを主張することができます。この心構えが親密な関係を説明している

イギリスとユダヤ教の間には、まったく理解できないことがある。しかし、ピューリタンは旧約聖書の思想世界との融合から、イギリス人は「選ばれた民」であるという信念も発展させました。

オリバー•クロムウェルは、宗教的狂信と冷酷無慈悲な残虐性が奇妙に混ざり合った、彼らにとっておそらく最も偉大な英国人であり、ピューリタニズムの宗教的イデオロギーが政治的影響を及ぼした英国人の誕生の日付を定めているからである。

クロムウェルの持論は「イングランドは神に選ばれた民である」だった。彼は世界征服のアイデアを旧約聖書から借用した

そして、神に選ばれた民というもともとユダヤ人の考えを利用して、イギリスの国民的考えと融合させました。クロムウェルは、英国の名の下に世界征服を主張した創始者です。

神。

これはクロムウェルの最大の著作であり、イギリス人の宣教意識の中に宗教的信念と政治的兵士としての信念を融合させることに成功した。

ピューリタニズムの世界観は常に根源的な力を醸し出しています。主に高貴な貴族や聖職者によって採用されました。

特に、クロムウェルはピューリタニズムを軍隊に導入し、国家的な戦闘目標に向かう兵士のイデオロギー的方向性を生み出しました。

クロムウェルは政治的兵士の創始者です。クロムウェルの例は、世界観と軍事力の密接な関係を示しています。この教育は、ピューリタンの自信を道徳的反省と自ら選択した「神の子」にまで高める効果がありました。しかし、軍事的に言えば、過小評価すべきではない個々の兵士の道徳的強さを生み出しました。

イングランドは、オリバー•クロムウェルの奮起する力と、彼と彼の信奉者たちの政治的戦士による、「神に与えられた世界支配の主張」であるピューリタニズムの力強い宣言によって偉大になった。英国の衰退は、最後の世代で英国支配層の戦闘準備が緩み、ユダヤ教が政治化したときに始まった。政治的指導者が軍人の手から金権政治の手に渡って以来、政治的指導者の利益は証券取引所と金によって決定されるようになっています。イングランドの政治的威信が始まった当初、国会議長や証券取引所の大物は存在しなかったが、熱烈な信仰、狂信的な意志、そして革命的見解を持った屈強な兵士たちが存在した。

ピューリタニズムとは、世界におけるイギリスの専制政治に対する排他的で宗教的に根拠のある主張と、そのために必要なすべての条件、とりわけパターナリズムと強大なヨーロッパの敗北を守ることを意味する。

英国はその世界観において非常に支持されてきたため、最も洗練された手段、最大の嘘、最も偽善的な考え、隠蔽と陽動策略を用いて、最も冷酷な権力政治を打ち負かすことを何度も理解してきた。世界の公衆が神の権利の行為に参加するのです。 「あなたは神と私の三毛猫を言います」は英国の政治の一般的な名前です。

英国の行動が歴史上最も腐敗した政治道徳を代表しているということは、別のレベルにある。しかし、最も本質的な観察は、イギリスがその権力を世界観、すなわち清教徒的な世界観に基づいて基礎づけたということである。

インディアン、アイルランド人、ボーア人に対してイングランドが犯した残虐行為はすべて、神聖な権利の行為のしるしの下にある。英国人は、彼の清教徒的な世界観において、あからさまな不正義をまったく感じていません。これには爆弾テロも含まれます。
爆撃の残忍さには、イギリスのユダヤ人の精神がはっきりと表れています。

子供の頃から、政治的ピューリタンの信条はすべてのイギリス人に教えられてきました。

政治教育センター、寄宿学校、大学では、これらが政治的なものになりました。教えは少年に叩き込まれた。

歴史上ほとんど例のない貴族教育の中で、特にピューリタニズムの助けを借りて英国型の紳士が育成された。

「神の子」という清教徒の信念と、

「神は権力を望んでいる」という英国国教会の聖職者のメンタリティは理解できるようになり、それはピューリタニズムという意味でイギリス国民を指向しており、ピューリタンという意味でイギリス国民の教育に精力的かつ熱狂的に参加している。

世界観。学校もこの取り組みに協力しています。

英国人はまた、社会問題をピューリタニズムの精神に基づいて捉えています。これによれば、所有者は「神に祝福された」人、財産を剥奪された人、貧しい人、神から追放された人です。このようにして、イギリスでは社会立法がまったく制定されないことになった。

したがって、イギリスの金権政治家たちも国家社会主義を理解できない、嫌っているとさえ思っています。それ以外の部分については、彼は私たちドイツ人を「持たざる者」、つまり神が何も知られたくない民族だとみなしている。

神から目に見えて祝福を受けているという認識は、他民族に対する過度の傲慢さと狂信的な不寛容の増大にも寄与した。私たちによってしばしば偽善的で政府のような神聖さとして描写されるこのイギリス人の宗教的態度と、傲慢の域まで高まった彼の自信が、彼の揺るぎない信念の表れであり、その結果であったことを無視してはならない。彼の清教徒的宗教の

教育。

イギリスは、緊密に結束したリーダーシップから出発したアイデアが、政治的目的のためにどのようにして何世紀にもわたって国民を維持できるかを示す代表的な例です。

ピューリタニカルな心の態度は、イギリスの哲学体系、とりわけ至福の道徳（「役に立つものはすべて良い」)を伴う功利主義によって強化されました。
有用性と幸福の倫理）。この発展の特徴は、イマヌエル•カントが、万人の可能な限り最大の幸福という狭い哲学のテーゼに、その定言命法、ひいては軍国的で軍人的なプロイセンの意志の格率に反対したことである。

この哲学的宗教的理想型の完成に貢献できるものはすべて、無制限にイギリスに流入しました。こうしてイギリスは本能を失ってしまい、遅かれ早かれ大惨事と、途方もない精神的闘争の中で別の道を歩んだゲルマン世界との対決に至る道を歩むことになった。

ユダヤ人の自由主義の考えは、すでにユダヤ人の唯物論的な考えの大きな影響を受けていたこのイギリスの学派と出会いました。

流入したユダヤ人の自由主義的な考えとその個人主義的な物質主義的方向性は、アングロサクソン主義の清教徒的な世界観を本質的に補完するものでした。ここでユダヤ人は夢にも思わなかった可能性の領域を発見し、それを彼自身の感覚で活用することができました。彼はイギリスの高貴な貴族や「高等教会」の聖職者に自分のイデオロギーを押し付けることに成功し、彼らを完全に自分に束縛することに成功した。

ユダヤ人の知識界は今やイギリス人を完全に掌握した。

イングランドの内部腐敗は、自由主義の採用により、ユダヤ教が国体にますますアクセスできるようになり、支配階級のユダヤ人分解によって徐々にその統治がユダヤ教に奉仕するようになったときに始まりました。

今日、イギリス国民、特に上流階級が完全に物質主義の呪縛に陥っていることは疑いの余地がありません。
常に腐敗の最も明らかな兆候である金と利己主義が人々を支配しています。
ピューリタニズムの世界観は、選ばれた者への信念を持ち、イギリス世界帝国の建設のために依然としてすべての国力を結集していましたが、ユダヤ人の唯物論は、
崩壊する人気の力。

ユダヤ人の世界は、イギリスにおいてさえ、依然として民間的に決められていた生活秩序を破壊した。

イギリスは、物質主義と個人主義の担い手としてのユダヤ人が民間伝承を溶かし、ひいては人々の権力を生物の中の桿菌のようにますます溶かしていることを示す典型的な例である。

イングランドの歴史的発展は、民族の運命が彼らが採用する世界観によってどのように決定され、外国の思想勢力に効果的に対抗しなければ滅びてしまうということを非常に明確に示しています。ピューリタニズムと自由主義はイギリスの上流階級をユダヤ人に変えてしまったので、ゲルマン的な道徳は生まれようがない。だからこそ、私たちの「血のつながった姉妹」との理解は不可能なのです。イギリスはユダヤ人になった。ユダヤ人が私たちに宣戦布告したのは、私たちが敬虔な支配民族としての権力の追求と富への依存において邪魔をしているため、そしてユダヤ人が私たちの絶滅を望んでいるからです。この戦争で、イングランドは何世紀にもわたって自己の忘却と人格の欠如の中に蒔いてきた果実を刈り取ることになる。それが自らを救うことができるのは、ユダヤ人から自らを解放し、ゲルマンの中核とのつながりを維持する場合、あるいは、私たちとのつながりによってユダヤ教から救い出され、自らの道を見つける場合にのみである。しかし、その世界帝国は崩壊しつつあります!

イギリスの例は私たちに考える材料を与えてくれるに違いありません。私たちにとっての結果は 1 つだけです。

すべてのドイツ人を私たちの意識の担い手にすること
国家社会主義の世界観、その創造力

民間伝承を最高の発展に導くと同時に、その理想主義的な基本構造は唯物論に対抗する唯一の手段なのです！

14.大英帝国はどのような方法で築かれたのか

大英帝国は、支配と権力を目的とした残忍な政策の結果です。

神が与えた世界帝国を築く英国の方法は、利己主義と残忍さが特徴です。ここでイギリス帝国の巨大な隆盛を説明する余地はありません。いくつかの数字だけでその急速な成長を把握できるかもしれません。

エリザベス女王の治世の終わり頃の 1600 年頃、イングランドの人口は約 400 〜 500 万人でした。 1750 年にはイギリス帝国の住民は約 800 万人、1815 年には約 8,000 万人となり、現在では 5 億人の臣民が帝国に住んでいます。ほとんど素晴らしい成長です。イギリス帝国は史上最大の空間を持っています。それは地球の乾燥した表面の約4分の1を覆っています。古代のローマ帝国とスペイン帝国が、どちらも最大の拡大をしていた時期に合併できれば、どちらも今日の大英帝国に快適な場所を確保し、その5分の2を未舗装のまま残すことになるだろう。

イングランドの征服は、私たちゲルマン人の言葉の意味では、必要な居住地を求めて戦うために土地を強奪するものではありませんでした。彼らは清教徒的な態度から、世界支配と富への依存という考えに駆られていました。彼らは帝国主義的な性質を持っていました。ゲルマン帝国の特徴である形成と秩序、ひいては創造の原理は、イギリス人では決して実現しようと思わないものである。イングランドの政策は常に純粋に物質主義的な努力から出発することが決まっていました。これは反ヨーロッパの姿勢も説明します。

過去 3 世紀にわたり、イングランドは自国の利益のために国家間で対戦する方法を常に知っていました。

英国の征服戦争は常に経済的でした。このようにして、世界帝国と連携して、イギリスの貿易とイギリスの富は増大しました。船員や征服者に続いて、経済学者が貿易の拡大と征服された人々の搾取を行った。

15.ユダヤ人はどう受け止めたか

イギリスの経済的台頭の恩恵？

ユダヤ人は英国経済全体の主導的地位に食い込むことができた。

8世紀以来、ユダヤ人はイギリスで悪事を働いていました。彼らの高利貸しが耐えられなくなり、上層部の人々の恨みがますます高まったとき、「彼らが絶えず文書の偽造と硬貨の切断を行っていることは完全に明らかであるため」（Historia Anglorum vol.111）。エドワード1世は、1286年のユダヤ人に対する全面的な迫害の後、1289年にユダヤ人の追放を決定した。

当時のイングランドには、健全な本能に支えられた、そうする力がまだあった。

1588年にイギリスが「無敵艦隊」を破って富裕で強力なスペインを世界貿易から締め出したとき、スペインのユダヤ人は数万人規模で移住した。以前はスペインの疫病だった彼らは、スペインからオランダ、イギリスへと伝わる貿易を追った。

オリバー•クロムウェルの時代、旧約聖書に基づいたピューリタニズムは、ユダヤ人に対する英国人の伝統的な防衛意志を打ち砕いた。クロムウェルは多くのユダヤ人をイギリスに引き寄せた。

オランダの金融系ユダヤ人が優遇されたのは、クロムウェルが実務家として、イングランドの商業的ライバルであるオランダに経済的ダメージを与えたいと考えていたからである。 「彼の主な目的はイングランドを偉大にして強力にすることであり、彼の意見では、そのためには軍事力だけでなく世界におけるイギリス貿易の覇権も必須条件であった。クロムウェルが権力を握ったとき、これに疑問の余地はなかった。」というのも、当時オランダの貿易は主導権を握っていたからです。長い内戦で財政的に疲弊していたイングランドは、自力では望むような成功を収めることができませんでした。したがって、クロムウェルが外国からの支援を求めるのは自然なことのように思われました。すでに上で説明したように、当時ユダヤ教はすでに世界のすべてのつながりを持っていました。彼の手にはスペイン人とポルトガル人、そして非常に重要なレバント貿易、オランダの東西貿易が握られていました。インド会社もユダヤ人の企業でした。

そして世界中の銀の延べ棒はますます彼らによって支配されるようになり、すべての国の海運にも大きな関心が集まった。

クロムウェルは、アムステルダムの繁栄の一部はユダヤ人のおかげだと考えていたため、特にオランダからのユダヤ人移民の増加を望んでいました。そのため、ユダヤ人をそこからロンドンに引き寄せれば、イギリスの貿易を強化し、オランダの貿易を減らすことを望んでいた。
ユダヤ人の歴史家は、イギリスの台頭におけるユダヤ人の役割を十分に指摘することはできません。

クロムウェルは、ユダヤ人とのつながりを、イギリスの貿易だけでなく外交政策にも利益をもたらすために利用したいと考えていました。全世界のユダヤ人がクロムウェルのスパイ活動に身を置き、彼に多大な援助を与えたことに今日疑いの余地はない。

問題の情報源に関する研究は、ユダヤ人のスパイ活動の成功が大陸におけるクロムウェルの多数の敵の行動を阻止するのに大きく貢献したことを示している。

後の国王チャールズ 2 世は、ここからイギリスに渡り、自国でクロムウェルと戦うために、多くのヨーロッパ諸国で見つけた支持者や同盟者をフランドルに集めました。

クロムウェルは、特にスペイン人がチャールズ2世に多大な支援を与えたため、ほとんど克服できない困難に直面した。

しかし、ユダヤ人のスパイ活動を通じて得た正確な情報により、クロムウェルはオステンドで敵の艦隊を驚くべき形で捕らえ、王党派遠征全体の芽を摘むことができた」(ピーター•アルダーグ、イギリスのユダヤ教)

クロムウェルのこのユダヤ人スパイ組織では、英国秘密情報局の始まりを見なければなりません。

こうしてクロムウェルは彼の国際貿易上の利益と

ユダヤ人のものは、ちょうどイギリスが世界を征服しようとしていたときに、ユダヤ人がイギリスで永続的な地位を築くことができるようにするためのものでした。

オレンジ公ウィリアムが英国人の義父の邸宅であるホワイトホール宮殿に引っ越したとき、ユダヤ人の移民はさらに強くなりました。彼とともに、多くのオランダ系ユダヤ人（主に商業ユダヤ人や株式仲買人)がイギリスに移住した。そこで彼らはすぐに、優れたスキルと幸運により、訓練された証券取引所取引のテクニックを開発しました。

ユダヤ人がイギリス経済において重要な地位を占めるまでに時間はかかりませんでした。 18 世紀にはすでに、彼らは経済の主人であり、宮廷の銀行家でした。イギリス帝国の力強い拡大、豊富な原材料源、販売市場、貴金属鉱山、そして成長するイギリス植民地帝国が提供したその他の数多くの機会は、ユダヤ人が有益な経済的浸透を達成するのに役立ちました。ユダの最終的な意図が認められることなく、ユダヤ人の要素を推進すること。広大な帝国では、ユダヤ人の経済浸透の影響は、ドイツ国民の生活空間のような大陸上の小さくて人口密度の高い地域に比べて、はるかに目に見えず、目立たないままであった。ユダヤ人は永遠にその方法に忠実であり続けました。これによりイギリスの征服者は入植植民地や基地を設立することができ、同時にユダヤ人の基地となった。

このようにして、ユダヤ人は意図的かつ間違いなく大英帝国をユダヤ帝国の前庭としたのです。

経済的優位性を超えて、ユダヤ人はあらゆる執念と洞察力を駆使してイギリスの政治権力を獲得した。ユダヤ人が政府や国家のポストに就くことができない限り、またイギリス社会への門を開くことができない限り、これは決して簡単ではなかった。ユダヤ人は半分の国民にすぎず、イギリスの市民権を取得できないため、平等を目指して努力しなければなりませんでした。

ユダヤ人は、国際的な思想を持つフリーメーソンによってこれを支援されました。当初、ユダヤ人は半国民としてロッジの会員になることを許可されませんでしたが、1780 年のユダヤ人解放後はロッジへの入場を拒否されなくなりました。今やユダヤ人にとって、フリーメーソンの中にユダヤ教と英国主義の間の架け橋を見つけるのは容易になった。

いくつかの困難を避けるために、高貴なユダヤ人は子供たちにキリスト教の洗礼を受けさせました。これらの洗礼を受けたユダヤ人の偽キリスト教徒は、後に徐々に洗礼を受けていないユダヤ人に国家の最高官職や英国貴族への道を切り開いていった。その中には、後のイギリス首相、ビーコンズフィールド伯爵ディズレーリ (1804 〜 1881 年) も含まれていました。次の例は、ディズレーリがいかにして狡猾さと裏切りをもってイギリス人を欺き、ユダヤ人の人種的同志を昇進させたかを示している。ライオネル•ド•ロスチャイルドはしばしば人種的賢人たちによって政治的公職に選出されることを許可したが、就任できなかったのは、次のような理由による。ユダヤ人である彼は、「キリスト教徒の真の信仰に従って」必要な宣誓を拒否した。

そこで彼の友人ディズレーリは、1841年に初めて人種的同志を擁護するために立ち上がり、次のような言葉を述べた。

クリスチャンよ、私の救い主が生まれた宗教の教授たちを立法議会から排除するという恐ろしい責任を私は引き受けることはできません。さらに彼は、ユダヤ教が一国のキリスト教的性格を変える可能性があるという仮定はばかげていると述べた。キリスト教の教義さえもこれを証明しており、その本当の創始者はユダヤ人です。つまり、宗教上の理由でユダヤ人の解放に矛盾する不条理な始まりである。聖なる日ごとに、ユダヤ人の英雄や詩人の教えが人々に宣言されましたが、これはユダヤ人が道徳的に優れているとみなされた証拠です。

この陰謀と同様の陰謀を通じて、ユダヤ人はイギリスにおける政治権力の発展への道を切り開いた。

19世紀はユダヤ人に彼らが望むすべてを与えた :選挙権と被選挙権、庶民院と貴族院へのアクセス、そしてすべての政府と州の役所へのアクセス。

その後の期間、ユダヤ人の政治的影響力はますます増大し、植民地帝国の成長と同じ程度に達しました。ユダヤ人の政治的地位は、1874年にベンジャミン•ディズレーリが首相に任命されて最高潮に達した。広大な植民地帝国を築いたのは彼ではなく、イギリスの船員だったが、ユダヤ人ディズレーリは今でもイギリス帝国の祖先と呼ばれている。 、商人、農園主、兵士。

ディズレーリは英国植民地政策の擁護者として大英帝国のゴッドファーザーであったが、間違いなく英国のために並外れた功績を残した。しかし彼の功績はすべてユダヤ人にも利益をもたらしました。彼はまた、ユダヤ教に対する英国の不信感を鎮めることに成功し、今日でも英国のユダヤ人は保守的なディズレーリがかつて享受していた評判を糧に生きている。彼は国家と英国最高社会の門をユダヤ人に開いた。

ディズレーリにとって大英帝国が意味するものとは、彼の弟子の一人が語る、「イギリスは『彼の夢のイスラエル』だ」。この言葉は、イギリスにおけるユダヤ人の経済的、政治的目的を完全に明確に示しています。

16.ユダヤ人はどこにいる 20世紀のイギリスへの影響は それ自体を感じさせましたか？

ユダヤ人はイギリスの生活のほぼすべての分野で指導力を持っており、第一次世界大戦と第二次世界大戦の前にはドイツに対する包囲政策を推進した。

1901 年、エドワード 7 世が英国の王位に就きました。彼の治世下で、ユダヤ人はイギリス社会で十分に自己主張することができた。王は多くのユダヤ人と親しい友人でした。当時、イギリスのジョーク本『パンチ』に有名な風刺画が掲載され、イギリスへの警鐘となった。この風刺画は「50年後の英国社会」を描いたもので、北欧アングロサクソン人の最も優れた血を引く英国貴族の長身の息子や娘たちが、特に人種的特徴が顕著な小さなユダヤ人と腕を組んでいる姿を描いていた。しかしイギリスの貴族たちはその合図を理解できず、ますますユダヤ商人との血縁関係を深めていった。

イングランド。

国王がフリーメーソンの大高官であったという事実も、ユダヤ人との親密な関係を示唆している。エドワード 7 世をドイツに対する包囲網の王にしたのもユダヤ人であり、エドワード 7 世はユダヤ人包囲計画に完全な承認を与えました。第一次世界大戦のずっと前に、ユダヤ人は「台頭する」ドイツに対してあらゆる手段を使って大英帝国内の経済的地位を守ることに同意した。このように、包囲網によってイギリスの政策は明らかにユダヤ人の権力と通商政策の痕跡を踏襲したものとなった。 1914 年から 1918 年にかけての世界大戦は、

英国系ユダヤ人政策。

ここでイギリスの現状を見てみましょう。特に今日、イギリスではユダヤ人が支配的な地位を占めています。ユダヤ人とイギリス人らしさは非常に密接に絡み合っているため、それらを解明することはもはや不可能であるように思われます。社会において、国家において、政府において、経済界において、商業において、そして報道において、ユダヤ人はあらゆるところで私たちと対峙しています。

彼は保守派とリベラル派の古い家族、イギリスの貴族階級、政治家のカーストに浸透してきました。私たちの時代の最新の時期は、イギリスにおけるユダヤ教の台頭における顕著な段階であると言えるかもしれません。

どこを見てもユダヤ人です !ユダヤ人の影響、ユダヤ人の利益、ユダヤ人の支配。ユダヤ人のメンタリティだけでなく、イギリス人、特に上流階級にも同様の考え方があります。まさにこの態度こそが、ユダヤ教との高度な血なまぐさい結合に入ったのです。ユダヤ人は完全な社会的平等を享受しており、法廷においてさえも平等である。

いらっしゃいませ。ウェストミンスターでの最後の戴冠式にて

たとえば、最も選ばれた者だけが入ることができる修道院には、イングランドの首席ラビや熱心なシオニストのレオン•サイモンら多くのユダヤ人
だけが出席していたわけではない。

1881 年から 1914 年にかけて、約 823,789 人のユダヤ人がイギリスに移住しました。の数

控えめな推定によれば、イギリスのユダヤ人は現在約

170万人（帝国含む）

1939年8月29日、シオニスト世界機関のトップ、ハイム•ワイツマンはイギリス首相チェンバレンに対し、神聖な価値観を守るための極度の危険の時に、ユダヤ人はイギリスとともに立ち、民主主義の側で戦うと宣言した。 。

ロスチャイルド卿は、1939年10月に同様に重要な言葉を述べ、（数週間前に宣戦布告した）ロンドン政府が、世界中のユダヤ人の将来という大きな問題を解決する、最後の希望ではないにしても唯一の希望であると強調した。つまり、チェンバレンも解決すべきユダヤ人問題を抱えていたようだ

彼が私たちに宣戦布告したとき。

このことをはっきりさせておきたいのは、イギリスの宣戦布告は同時にユダヤ人による宣戦布告であるということである。の結果です
英国主義とユダヤ教の危険な相互作用。

しかし、誰に対して行われたこの戦争の主であり主人は誰なのでしょうか？
ドイツとドイツに使われた民族については、とりわけ「イギリス領イスラエル」の書記であるユダヤ人ヒーバーによって証明された。
連邦」と彼は1942年にロンドンでこう宣言した。

「イギリス人はイスラエルの国民である。イギリスがイスラエルであるのと同じように、北米合州国もイスラエルである。両国間に国家目標や願望において競合することはあり得ない。…」

アメリカ

17.なぜアメリカは私たちと戦っているのですか？

ユダヤ系アメリカ人の金権政治家は､資本主義的経済搾取システムにおいて国家社会主義の脅威にさらされていることに気づきました。
さらに､平均的なアメリカ人さえも､彼の清教徒的な世界観では､神の意志によるアメリカの全世界支配の延長を信じている。
人々。残りの部分については､ユダヤ人が再び主要な戦争屋である。

私たちの国際連盟からの脱退は､イギリスとアメリカの搾取者と株主の資本投資を脅かしました。政治的に強く､経済的に独立したドイツは､アメリカ市場を縮小しなければならなかった。

さらに､自給自足のドイツ､そしてそれとともに失業に対する社会主義的解決策を備えた経済的に独立したヨーロッパは､ユダヤ人にとって常に生きた非難であり､

より良い社会主義的生き方の存在によってのみ、彼ら自身の資本主義的社会秩序の崩壊が加速する危険性があります。

それが彼らの宣戦布告の本当の理由です。

アメリカはピューリタンの世界観によって承認された帝国主義的願望の中で、ほぼすべての民族にその支配を拡大することを望んでおり、それは世界征服に等しい。イギリスもアメリカの属国となることになる。さらに、イギリスの支配思想や汎スラブ拡張主義の衝動と同様に、清教徒のアメリカ帝国主義は、世界を目指して努力するユダヤ人のそれと重なっている。

支配。

ルーズベルトは、自分がアメリカの拡張主義の実行者であると感じているが、実際には、世界のユダヤ人の意志の実行者である。

ルーズベルトは高級フリーメイソンだ！

さらに、ルーズベルトの政治的経歴がすべてを物語っている。ルーズベルトがニューヨーク州知事のポストに応募したとき、当然のことながらユダヤ人の助けがなければ当選を勝ち取ることはできなかった。このユダヤ人への支持は、ルーズベルトのその後のキャリアを通して残りました。

彼が大統領に立候補したとき、彼のチャンスを認識したユダヤ資本が彼を支援する最も強力な勢力となった。

この 3 つの基礎の上に、選挙におけるユダヤ人の支持、彼のユダヤ人の友人、そして血なまぐさい正当化されるかもしれない彼の伝統的な精神と魂の親ユダヤ的態度が、根本的にユダヤ人政策であるルーズベルト大統領の政策である。ユダヤ人の助けを借りてアメリカ国民を世界征服に導く。彼は召喚した精霊を追放することができなくなります。将来は、ルーズベルトが彼の国民と彼らとともにアメリカ全土を最も悲惨な衰退と「ユダヤ人」ボリシェヴィキの混乱の時代に導いたことが示されるだろう。

18.原動力とは
経済と
アメリカの政治的発展?

イギリスから取り入れたピューリタニズムと自由主義

イギリスの祖国から移住してきたイギリス人によるアメリカ領土の占領は、先住民や他の人々に対する特別な配慮もなく、異常に迅速に行われた。

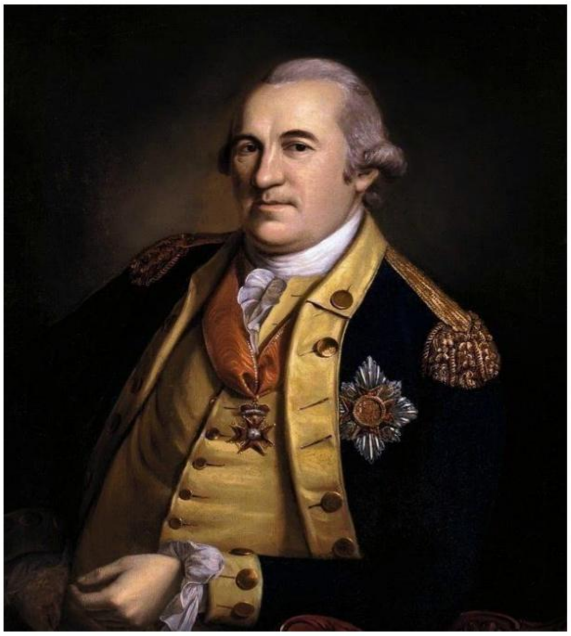
スペイン人、オランダ人、フランス人など、すでにアメリカに移住していたヨーロッパ人。イギリスとともにピューリタニズムの思想もアメリカに飛び込みました。イギリスと同様に、ピューリタンの精神はアメリカのハイファイナンスの出現において大きな勝利を祝いました。アメリカでも、富の蓄積は神の特別な恵みと恩恵のしるしとみなされました。

北アメリカはピューリタニズムの考えられる最高の温床でした。この国には豊かな宝物が溢れており、買収に熱心なピューリタンたちは精力的にそれを集め始めました。

あらゆる画期的な技術、あらゆる工芸品、産業上の努力がアメリカ人に報いを与え、ヨーロッパの狭い条件に比べれば北米は彼にとって「無限の可能性を秘めた土地」のように見えた。それを表す言葉が「マニフェスト•デスティニー」となった。

神が与えたアメリカの台頭は、今日までアメリカ人を支配する神話となった。彼の清教徒的な態度のおかげで、成功したアメリカ人は自分自身を神に選ばれた者とみなし、彼のアメリカを「神自身の国」とみなした。

しかし、アメリカは政治的にも成長しました。楽に、少なくとも大した努力なしで。政治権力の増大はほぼもっぱら内ヨーロッパの絡みによって可能になった。各州はフランスとスペインの援助で独立を達成し、特にドイツの血を流して戦った。北アメリカ軍の組織者であり教育者でもあったプロイセンの将軍フリードリヒ•ヴィルヘルム•フォン•シュトイベンと、戦闘へのドイツ人の強力な参加がなければ、ワシントンは北アメリカの独立を勝ち取ることはできなかっただろう。カルブとピーター•ミューレンベルクのドイツの将軍ヘルヒハイマーはアメリカ軍を勝利に導きました。



アメリカ軍将校の中には9人の「ドイツ軍少将」も含まれていた !の

新しい

ヨークだけでも10個連隊のドイツ人連隊があり、オハイオ州には11個連隊があり、ミズーリ州では2人に1人がドイツ人だった。また、その後のアメリカの歴史はドイツ人の高貴な歌です！

19 世紀、ヨーロッパが厳しい政治的対立にさらされたため、広大な大陸で比類のない移動の自由を持っていた国々は帝国主義に手綱を委ねることができました。ヨーロッパの悲惨さはアメリカの利益となった。

帝国主義的な考え、神の名の下での世界征服の努力、そして神の祝福の下での成功に対する純粋に経済的な信念は、このようにして無制限に発展する可能性があります。

ユダヤの自由主義は、この清教徒的物質主義的な考え方に遭遇しました。

彼の人間友愛の教義は、ますます飽くなき帝国主義を覆い隠すための歓迎すべき手段を提供した。このようにして、世界平和計画と、うんざりするようなキリスト教徒の着飾った世界征服の奇妙な混合が、米国の政策のまさに特徴となった。モンロー主義

これを変えることはできませんでした。欧州情勢への不干渉は、米国が大陸を超えて自らを定義する力をまだ持っていない限り有効であった。

一方、個人主義的•唯物論的な考えは、
リベラリズムは、人生の意味が物質的な財の蓄積にしか見られないという事実をもたらしました。このように、自由主義は、清教徒的な生き方との出会いにおいて、表面的、物質的な面でアメリカ人の生活に不気味な追加をもたらしました。

また、アメリカには自然の恵みから血を流さない自由主義に反抗できる勢力は存在しなかった。ヘンリー•フォードでさえ、あらゆる絆を拒否する考えを「歴史はナンセンスだ！」という言葉で表現しています。

しかし、アメリカの発展における本質的かつ危険なことは、ユダヤ人、ピューリタニアン、リベラリストの一連の思想全体が全人類のための教義にまで高められていることである。の
世界国家、自由、進歩、合理主義という意味での理性についての普遍主義的な考え方が、使命感になりつつあります。 「人類の解放」という大義で米国に反対する者は誰であれ、人類と自由の敵であり、一般に米国国民はこうして自らをユダヤ人の世界支配の道具とし、説教された世界平和計画は最も露骨なユダヤ人を生み出す結果となった。人類の平和主義の夢が最も残忍な暴力と征服に変わってしまったという帝国主義について、現在認識しているアメリカ人はほとんどいない。



ピューリタニズムは、一方では「選ばれた人々」への信仰をもたらし、他方では、最も暗い方法で集められた幸運を神の善意のしるしとして神聖化しました。権力と富を求める努力は、告白によって聖化されました。

リベラリズムは「最良かつ最も進歩的な国家」の公式を発見し、米国に人類の使命を与えた。旧約聖書とユダヤ人の宣教師の主張はこのように結びついていた

アメリカで発展した生活様式を世界に押しつけるという民主的な使命を持っていたのです。富と神聖さ、お金の力、そして世界征服というユダヤ人の夢がアメリカで復活を祝っている。

今日、あらゆる人の目の前で目に見える世界の政治的征服の意図よりも危険なのは、アメリカ文明、アメリカニズムの弱体化効果である。アメリカ文明はリベラルな考え方の表現です。人間は機械的な何か、精神的な自動機械になってしまった。テクノロジーがこの分野を支配しています。利得を求めて自由に努力することが人生の内容です。本物の文化はアメリカでは不可能です。国家共同体について語ることはできません。すべてはユダヤ人が支配する金権政治のために行われている。それはお金、数字への陶酔、そして時計の長さだけを知っており、測定できないもの、証明できないもの、購入できないものをすべて否定します。お金を稼ぐことが雄叫びです。市場が神殿になる。ユダヤ人がアメリカ人を形作り、すべてが滑らかで表面的な文明です。教会ですら資本主義企業です。賢い説教者はビジネスで何千ドルも稼いでいます。彼らはビジネスマンであり起業家です。彼らの商品は宗教か神です。最新の教会ビジネスの広告は「あなたのお金を神に預けてください」です。

報道と映画は専らユダヤ人の手によってアメリカ主義を説いている。芸術と文化はユダヤ人の退廃だ。建築は非人間的であり、「単なる技術的なもの」として理解されています。しかし、何よりもジャズが勝利します。

ユダヤ人にとって、ジャズは自由主義の世界観と同様に、無差別で国際的な人間性を強制する戦いにおいて同等の武器となった。それは、人々から音楽表現を奪い、普遍的な群れの本能に貶める新しい国際的な民族音楽です。ユダヤ系の新聞が舞台劇を祝っており、その主演女優が驚いた観衆に向けて次のように賞賛している。

世界の理想的な状態：「私は交わりの歌を歌う。黒人は白人と団結し、黒人は北方人と団結し、アフリカの力が北欧の静脈に熱く転がり、シオンは布と誓約を持って横たわるだろう」 」

世界のユダヤ人と米国の金権政治家は、収穫の時期が来たと考えています。世界のアメリカ化

危険として脅迫します。資本主義の致命的な敵意とモスクワにおけるいわゆるプロレタリアートの支配にもかかわらず、アメリカニズムとボルシェヴィズムは結合した。両方の力には、
共通の根 :ユダヤ人の唯物論の世界。のように、

米国、人生は物質からのみ理解されるので、ボルシェビズムもすべてを感覚的で知覚可能な物質的なつながりとプロセスに帰します。ボリシェヴィストはアメリカをモデルにしました。テクノロジーの崇拝者である「機械」の神は、ロシアでも根こそぎにされた新しいタイプの人間を形成している。

あるユダヤ系新聞は「ボリシェヴィズムは20世紀のアメリカニズムである。何よりも決定的なのは、ユダヤ人が両民族において指導的地位にあるということである。 」

しかし、ユダヤ人と資本主義に対する世界の良心としてのドイツ国民は破壊されるべきである。

我々の明確なイデオロギー的立場により、この闘争は、人々と牧畜民の間、文化と技術的野蛮の間の闘争、真の社会主義とユダヤ人の利潤に対する貪欲の間の闘争として勝利を収め、ヨーロッパと全人類の祝福となるだろう。

19.今日の飽くなきドル帝国主義はどのようにして生まれたのですか?

神が与えた米国の世界支配の拡大を信じ、前例のない好況の過程で、米国は北米の経済と政治の支配に他の民族を含めた。

アメリカの発展。当初から、無制限の経済的および空間的拡大を特徴としていた。資金の獲得が原動力となり、これが新たな土地の獲得と新たな富の源の開発につながりました。イギリスと同じように、アメリカも外国民族を統治下に置きましたが、それは常に北米の繁栄を他の民族にもたらすという口実のもとにのみでした。

神。

かつてその歴史上、アメリカ人には限界がありました。というのは、絶え間ない西方への移動の結果、高山やジャングルに至るまで自由定住国の全地域が征服され、自然の国境に達したからである。アメリカ人は、領土と経済の拡大主義に反する現実に突然直面し、農業、経済、社会政策の観点から居住空間を拡大する決断を迫られた「無限の可能性」とは全く対照的であった。あるいは、他者の主権的権利の「神が与えた拡大主義」に忠実であり続けること。

人々は最終的には主権を超えて大陸に手を差し伸べるのです。北米は現時点で今後の展開を決定した

拡張。

無限列車と富への依存が帝国主義の原動力となり、その勢いはアメリカ圏を超えて太平洋にまで及んだ。 1893 年には、巧みに引き起こされた革命を利用して、ハワイが占領されました。 1898年、スペインとの強盗戦争によりキューバ、ポルトリコ、フィリピンが侵攻した。世紀末の中国の混乱の中で、東アジアで優先的な地位を確保し、現場からヨーロッパの競争に勝つための米国の努力はすでに明らかでした。アメリカ大陸の南半分は、

ドル外交のはしゃぎの場であり、私たちが今日最も成熟しているのはドル外交です。第一次世界大戦でイギリスが帝国を救わなければならなかったとき、アメリカはフランスと協力して協商国への数十億の国債を節約しました。の子孫

かつて移住したヨーロッパ人が初めて私たちの大陸に入り、世界大戦を私たちに不利な方向に決定しました。今日、北米人はヨーロッパに戻っています。アメリカ軍は世界の約50の異なる場所に駐留しています。これはどのように説明できますか?ここでは、大英帝国の発展と同様の、「神が与えた拡大」の法則が語られています。アメリカ合衆国の金権政治家たちは、神が意図された拡大を偽善的に信じて、ヨーロッパやその他の民族の権利に触れ、大陸を越えて攻撃している。当初の拡張主義は北米諸州の征服にまで及び、今日のドル帝国主義となった。すでに今日、北米国民は、戦後の生産能力の向上がどのように競争に勝つために利用できるかを見せつけられています。世界のすべての市場が米国製品の膨大な輸出で溢れかえれば、すべてのヤンキーが中産階級の生活水準に達するだろうという考えに人は酔っている。



アメリカのプロパガンダは、だまされやすいアメリカ人を説得して世界帝国主義の考えを支持させ、金と戦利品に対する本能を刺激するのに困難はなかった。それは誰の目にも明らかでした -

そうでなければ彼は真のアメリカ人ではないでしょう - 戦争があったことを

そして米国の拡大は必然的に貿易と商業を増加させ、したがって彼の生活水準を増加させるだろう。それでも必要な場合は

世界帝国主義のために人々を人為的に加熱するのであれば、平均的なアメリカ人の傲慢さ、つまり神に代わって世界を征服し、改革し、他の民族に自慢の自由をもたらさなければならないという彼の信念に訴えるだけでよいのである。

20.経済的、政治的問題にもかかわらず、なぜ米国の労働者の貧困化が生じなければならなかったのか

成果？

自由主義に基づいた有益な雇用の冷酷な追求は、当然のことながら労働者の最も残忍な搾取をもたらした。

鉱物資源の完全な開発と産業とビジネスの拡大により、アメリカの生産は成長しました。
制限なく。技術分野における重要な発明により、生産経路が簡素化および短縮され、経済プロセスから 1,200 万人の軍隊が排除されました。当初、これは危険とは見なされませんでした。むしろ、富裕層と貧困層の対立を伴うこの資本主義の経済秩序は、神が与えた規制とみなされていました。このアメリカ人によると、すべての人には資本家になるチャンスが与えられているという。彼がそうしないなら

成功しても、神に選ばれず、人生の暗い面に立つことになります。それでは、もし選ばれなかった人々が貧困と絶望の生活を送らなければならないとしたら、神から授かった億万長者は何を動揺させるでしょうか?それどころか、彼らは大きな経済的成功を誇っていました。彼らは工業製品を使って国内外の市場に自由に参入することができ、労働者の選定や賃金体系にも希望通りの余裕があった。

この状態が永遠に続くはずはありません。ある日、失業者たちは金に飢えた搾取者の迷惑に、生きる権利を主張しなければならなかった。長期的には、社会問題の根本的な解決は避けて通れません。労働保険や労働保護法の形でドイツにあるような、ある種の社会政治的制度はアメリカには数年前まで存在しなかったし、現在存在しているものはまったく不十分である。これは社会政治的無能によるものではなく、金権支配階級の悪意によるものです。

しかし、その一方で自由によって理解されるのは、経済的で有益な雇用を求める努力が完全に解放されることに他なりません。ブルジョワジーは、厚かましくも自ら奪った自由を貧しい人々に与えることなど考えもしなかった。

社会問題に対するピューリタン的思考の経済界の基本的な態度は、経済学者ジョージ•F•ベアの次の声明に示されている。彼の無限の知恵がこの国の財産を支配するに至った、あるいはヴァンダービルトの言葉を借りれば、「悪魔が一般人を奪う」のである。

それにもかかわらず、19世紀にも20世紀初頭にも、アメリカにはヨーロッパ的な意味での階級闘争は存在しなかった。
莫大な富を蓄えた人々もまた、

民衆からは特別に選ばれた者達だと思われている。経済的に弱い人々は、幸福の女神が一晩立ち寄って彼らを救ってくれるだろうと信じ始めました。

ドル億万長者。映画と報道機関は、洗練された方法でこの信念を育む方法を知っていました。スクリーンや小説の中には、貧しい人々が幸せに成り上がる無限の可能性がまだ残されていました。しかし、現実は運命の騎士に非常に狭い制限を設けています。教会や宗派も労働者を満足させるために熱心に働きました。何十年もの間、米国ではプロパガンダと教会の影響力が社会問題を解決する唯一の手段でした。

北米人の成功に対する冷静な信念は、すべてのことを意味していた

できるだけ早く富を獲得することにエネルギーが集中しました。

経済的目標を達成する際には、成功が常に決定的な要素であり、決して手段や方法ではありませんでした。アメリカ人のメンタリティの優れた例は、老ジョン D. ロックフェラーによって提供されており、よくある詐欺、賄賂、その他の非常に疑わしい清潔さと正直さの陰謀を通じて、彼は何十億ものお金を集め、簡潔かつ簡潔に説明しました。 」

21.ルーズベルトはどのようにしようとしたのか

アメリカの社会問題を解決できるか？

彼はアメリカを崩壊させることで失業者に仕事とパンを与えた
戦争に突入。

ルーズベルト大統領は、プロパガンダと教会の手段では、失業者が増え続ける米国の社会問題を解決できないことをよく知っていました。

ルーズベルトは失業者のために資本家に負担を課すことをあえてしなかった。そのために彼はユダヤ人に依存しすぎている。彼は別の解決策を見つけました。

彼は国民を戦争に突入させることで労働者に仕事とパンを与えた。戦争経済を通じて労働市場を復活させなければならなかったこの戦争は、ルーズベルトが米国の社会問題を解決するための手段であった。

しかし、それでも長期的な解決策にはなりません。もし戦争が突然終わったら、アメリカの経済はもはや物資を収容できなくなり、同じ規模のまま崩壊しなければならないだろう。資本家は伝統的な経済リズムに忠実であり、毎年資産を増やし、新たに獲得した資本を新しい事業に投資してきました。

このサイクルにおいて、生産量は前例のないレベルにまで上昇しました。したがって、金権政治家は世界を征服し、新たな市場を求めて戦うか、経済をアメリカの利益に限定しなければならない。しかし、後者は金に飢えた資本家の意図ではない。したがって、ドル帝国主義とヨーロッパおよび他の国々の征服が不可欠です。ルーズベルトはアメリカの若者を

金権政治世界の新たな市場を征服するための戦場。 「アメリカのデパートはヨーロッパを、ユダヤ人の権力と利益への貪欲に翻弄され、体制時代よりもさらにひどい状態に陥り、自らの命と面子を永久に失うことになる客層に貶める準備をしている。

利益を追求する金権政治の支配、自国の市場からのヨーロッパ人の追放、そして経済的奴隷化は、ルーズベルト氏が自慢の米国の自由を装って神の名において私たちに与えようとしている贈り物である。

22.ルーズベルトマンとは誰ですか?

アメリカ政府におけるユダヤ人の影響力は年々増大している。ルーズベルト大統領の近くで吠えているのはほとんどがユダヤ人だ。

ルーズベルトの周囲の主要なユダヤ人および半ユダヤ人には次のような人たちがいます。

首都を自ら統治する財務大臣モーゲンソー

連邦最高位のフェリックス•フランクフルター判事。最高の地位にある無数の弁護士が彼の学校を卒業しました。

女性労働大臣ミス•パーキンス。

現ニューヨーク州知事 :リーマン。

ニューヨーク市長: ラガーディア

ワシントン政府の労働関係担当官 :シドニー•ヒルマン。

銀行家たち :1917年のボリシェヴィキ革命に資金を提供したバルーク、ジェシー•ジョーンズ、シフ、ローブ、クーン、ヴァールブルク、ロスチャイルド、グッゲンハイム、セリグマン、レヴィソン、その他多くの人々。

ルーズベルト大統領の秘書 :ローゼナウ

最も重要で最もよく知られているリーダー、米国。報道陣 :アメリカ国務長官リップマン•ハル
はユダヤ人女性と結婚している。陸軍長官の右腕、チャールズ•ポルテッティは純血の人物である。

ジュー氏は、陸軍長官特別補佐官という新たな役職に就いた際、「何をしなければならないのか全く分からないが、それが何の意味があるのか ?」と語った。ここまでアメリカは進んできたのだ。

アメリカではユダヤ人であるという事実だけで、影響力のある地位に就くのに十分だ。大統領の最側近はユダヤ人のバルーク氏だ。 「バルーク氏は現在、書斎で大統領と毎日朝食をとり、武器生産の現状と今後の課題について報告している」(『ニューヨーク•タイムズ』)。彼は第一次世界大戦中にアメリカの
黄金を所有し、あらゆる産業部門がその支配下にあった男です。彼は再び今
日の米国の実質的な戦争経済独裁者である。彼の人種的同志たちがアメリカ国民のすべての金を所有しているので、彼はこの独裁をさらに容易に遂行することに成功する。

23.誰がアメリカを支配しているのか?

米国ほどユダヤ人の影響力と権力に翻弄されている国家は世界にない。ユダヤ人はゆっくりと着実に国に浸透し、国家や経済の指導者たちに静かに目立たないように浸透することに成功した。 1850年までに米国にユダヤ人は
数万人しかいなかったが、1900年にはすでに100万人を超え、今日ではユダヤ人との混合人口を含め、その数は少なくとも1,200万人に上る。 (ドイツ
のユダヤ人の数

買収前は約60万でした）。 250 万人のユダヤ人を抱えるニューヨークは、世界で最もユダヤ人が多い都市です。この世界都市の3人に1人はユダヤ人です！

今日、ユダヤ人は米国のほぼすべての重要な地位を占めています。世論はもっぱら彼によって決定され、彼はそれをうまくやっています。彼はアメリカ国民をさらに道徳的に崩壊させ、政治的に憎しみを煽るという計画通りに進んでいる。

映画、報道、ラジオ、芸術と経済、証券取引所、司法権、大学に至るまでの知的生活全体、そしてさらに多くの政治がユダヤ人の手中にあるか、少なくとも彼らの管理下にある。

米国のすべての新聞社の 97 VH。ユダヤ人です。 90V。
H. すべてのラジオ会社の中でユダヤ資本の手にあります。 100

すべての映画館、劇場、映画会社の VH はユダヤ人の手にあります。 76 弁護士、ジャーナリスト、医師、その他リベラルな職業の代表者の VH はユダヤ人である。 98 銀行やその他の経済機関の VH はユダヤ人です。輸出貿易の90VHはユダヤ人の手にある。 98 V. 銀行やその他の経済機関はユダヤ人です。繊維産業の 98 の VH はユダヤ人によって経営されています。 62 V. 銀行やその他の経済機関はユダヤ人です。アメリカの土地の建物のH.、土地はユダヤ人の手にあり、重工業の87のVHはユダヤ人の手にあります。大量生産品の 83 VH はユダヤ企業によって生産されています。 (*VH=フォン•フンデルト-百から)

ニューヨークにはプロテスタント教会が 190 教会、カトリック教会が 430 教会ありますが、シナゴーグの数は 1,000 を下回ることはありません。シカゴには35万人のユダヤ人がおり、フィラデルフィアには27万5千人、クリーブランドには10万人、ボストンには9万人などです。

ユダヤ人は司祭として現れ、キリスト教会の多くの宗派の集会に行って説教し、さまざまな宗教告白の代表者たちと一緒に礼拝を開き、大衆に影響を与え、大衆をより良いものにします。

ユダヤ人は地球上で選ばれた人々であるため、この考えにはより馴染みがあります。

このようにして、彼らは国家社会主義ドイツに対する底知れぬ憎しみを、あらゆるプロパガンダ手段によってアメリカ国民に伝えている。ドイツに関する知的潮流と新たな知識がアメリカに波及し、その指導的立場が危険にさらされるのではないかという恐怖の中で、ユダヤ人は現在、あらゆる手段を駆使して、最後の瞬間を利用してドイツ帝国と帝国を破壊しようとしている。その同盟者たち。

ユダヤ人が支配していた高金融と、特にアメリカで広まっていたフリーメーソンの助けにより、ユダヤ人がアメリカを戦争に扇動することは難しくなかった。

ホワイトハウスの絶対的な支配により、

この規則は、世論形成の機構全体を持っているわけではないが、ユダヤ人の希望に従ってそれを制御し、影響を与えるものである。すべてのラジオ局、劇場、映画館、書籍出版社の講演機関と同様、報道機関もユダヤ教の全能の支配下にある。これに加えて、一部の事業部門では独占のような経済的•財政的権力があり、公の場での反ユダヤ的な態度が不可能になるほど冷酷に利用されている。

アメリカ国家の建設には何の貢献もせず、アメリカ国民にとってはあらゆる点で異質で理解不能、さらには同情的でさえない、これほど偉大な国民の政策や態度が人口分裂によって決定されているということは依然として謎である。

ユダヤ人は米国における戦争放火犯である。

彼らは戦争が長期化するという事実に最大の関心を持っている。

戦争は彼らの仕事にほかならないからです。さらに、彼らはそれによって最終的に世界征服を達成したいと考えています。ニューヨークやロンドンに座っているのと同じユダヤ人がモスクワにも座っている。

アメリカ人とドイツ人には、共通の争点がまったくありませんでした。二人ともお互いに平和に暮らしたいと思っていました。
米国と帝国の間には緊張がまったくありませんでした。それどころか、残念なことに、ドイツの科学者や芸術家、ドイツの兵士や技術者は、北米の規模と力にかなりの程度貢献しました。アメリカの政治建設において本質的なメリットを持っていたのはドイツ人であった。しかし、ユダヤ人はドイツとアメリカの間の良好な理解を妨げることは許されませんでした。

ユダヤ人は帝国と帝国の殲滅という目標を達成することはできないだろう。

ヨーロッパ。世界のユダヤ人とそれに同盟を結んだボリシェヴィズムとの激しい闘争の果てに、若者たちの勝利が立ちはだかる。沈むのはヨーロッパではなく、ユダヤ人がヨーロッパ地域から消えることになる。彼はこれらの人々を扇動し、新たな戦争の火を煽る可能性を奪われるだろう。

開発と

ゴール

24.人々が自分たちの種に関連するものをますます放棄するようになったのはなぜでしょうか

ライフオーダーと適応外国語アイデアの世界?

古代から現代に至るまで、次の 2 つのグループの考え方 (世界観) が確認できます。

北欧が決定した西洋の思想の輪

意志、性格、魂の価値観を特別に発展させた世界観としての理想主義的な基本概念。

地中海盆地とアナトリアの思想の輪

世界観としての個人主義的な唯物論的な基本的な考え方。

北欧人に代表される名誉、忠誠心、共同体精神という創造的で秩序ある原則は、人種の混乱の中で生まれ、いかなる意味でも衝動性に導かれなかった南部混血のユダヤ人シリア商人の原則に反対された。倫理的責任のこと。北欧の理想主義と英雄主義の精神は、ユダヤ人の非物質主義の精神によって対立しました。古代から現代に至るまでの西洋の歴史は、これら 2 つのグループのイデオロギー勢力間の緊張を表しています。 (力の極性、原則の対立、善と悪の間の力の永遠の相互作用)。

物質主義世界の主な代表者はユダヤ人です。彼の宗教は事実上、拝金主義、合理主義、外国民族の搾取を要求しています。 「外国の民間伝承を信じて生きていくことは、神聖な運命のように見えます。エルサレムの神殿は、散らばった仲間の信者と信者たちの中央銀行となりました。

人種の同志たち。

ユダヤ人がエルサレムの二度目の破壊だけで世界に散らばったと考えるのは間違いです。最新の研究によると、時代の変わり目の何世紀も前に、ユダヤ教はすでにディアスポラの中に生きており、人々を搾取し、物質主義的な考えで彼らを屈服させていた。それでも、「人類統一」という理想を掲げるユダヤ教の教えを持った古代文化世界はすべて破壊された。ペルシア人、ギリシャ人、ローマ人は、アジア以前の精神のないユダヤ人、国際的な文化共同体、ぼやけ、混合、そして最後に、あらゆる民族的特徴の殲滅、血の交差、大量虐殺を支持して、民間伝承と民族文化を放棄した。ユダヤ人の破壊活動の結果。すべてが滅びましたが、ユダヤ教はかつてないほどその種の存在を主張し、ますます厳しくなりました。当時でさえ、世界国家はユダヤ人の目標でした。ペルシア世界帝国、ギリシャマケドニア

アレクサンダー大王の世界帝国、ローマ皇帝の世界帝国は、アジア以前のユダヤ人の精神のために失敗しました。

旧約聖書には、すべての異邦人を搾取するよう呼びかけるとともに、富とこの世の財産の賛美があふれています。

「あなたの神はあなたを金持ちにして、多くの人にお金を貸してくれるでしょう」
(5 モーセ 7:16 以降、14:21、15:6、17:2 以降)「ユダヤ教は、神と人間の間のすべての関係を契約的かつ事務的に、算術的に規制するものです。 ..

ユダヤ教は、履行と対価という両面からの法的取引です。 (Th.

フリッチュ、ユダヤ人問題のハンドブック）。

「地上の楽園」の創設はユダヤ人の目標です。この目的のために、後の「聖典」に書かれているように、義人（つまりユダヤ人)は、未知の力によって彼らのために開けられた特別な穴を使用して、すべての国で墓から連れ出され、約束の地まで地を這う。タルグム、ミドラーシム、タルムードは、予想される楽園のこの素晴らしい状態を最も広く快適に描写しています。そして、選ばれた人々が新しくなった世界を統治します。他のすべての民族はその奴隷であり、死んで生まれ変わりますが、再び地獄に行くだけです。しかし、ユダヤ人は地上に行って祝福された生活を送るつもりはありません。エルサレムは最も見事に新しく建てられました。安息日の境界線には宝石と真珠があしらわれています。男が支払うべき借金がある場合、彼は囲いから真珠を割ると、すべての義務から解放されます。果物は毎月熟し、ブドウは部屋全体と同じくらい大きくなり、穀物は自然に成長し、風が穀物を吹き飛ばします。ユダヤ人は小麦粉をすくうだけで十分です。庭園には 800 種のバラが咲き、パレスチナにはミルク、香油、蜂蜜、ワインの流れが流れています。ユダヤ人はそれぞれテントを所有しており、その上には金色の蔓が生えており、そこには30個のビーズがぶら下がっています。各階の下には宝石が置かれたテーブルがあります。楽園には800種類の花が咲き、その真ん中には生命の木が立っています。この木には、

匂いと味は50万種類。七つの雲がその木の上に横たわっており、ユダヤ人たちが四方からその枝を攻撃し、その輝かしい香りが世界を他の災いへと導く、などなど。

乳と蜂蜜の国は宗教的に真剣になり、ユダヤ人のマルクス主義の復活とその輝かしい「未来の状態」を祝いました。この魂の気分は、今日に至るまでユダヤ人の貪欲さを説明していると同時に、真の精神的および芸術的創造性がほぼ完全に欠如していることを説明しています。 （アルフレッド•ローゼンバーグ、20世紀の神話）

ユダヤ人のやり方をよく見てみる必要がある。の研究
北欧の人種的魂とユダヤ人という存在の魂、そして最も重要な歴史的時代の観察は、すべてのドイツ人に世界情勢の十分なイメージを与えるだろう。

『我が闘争』の中で総統は、「人類のプロメテウス」である北欧人の偉大さを描写し、それを手を振り、働くユダヤ人と対比させた。すべてのドイツ人、そう、ゲルマン人の血を引くすべての人は、そこで語られたことを自分の中に深く吸収しなければなりません。以下の洞察が彼のものとなる

自分の：

- あらゆる歴史的出来事の鍵は人種問題にあるということ。
- 過去と現在のこの地球上のすべての真の価値観
  北欧人の創造的意志に由来する
- ユダヤ教には自らを「選ばれた民」と呼ぶ理由はまったくなく、その破壊的な活動によって北欧の人々の成長と繁栄を妨害し、妨げる運命にあるということ。
- ユダヤ人は、私たちの存在の対極として、常に私たちの本来の敵でなければならないということ。自分の考えで世界を混乱させたのは彼だということ

北欧の人々の生活秩序、そしてさらに、これらの考えの助けにより、人々の間に不和が生じました。

- ドイツ主義は世界にすべての基本的価値観を与えたが、主にユダヤ起源の外国の思想に繰り返し影響を受けたこと。

北欧の人々がつい最近までユダヤ人の浸透に効果的に反対しなかったのは奇妙な事実である。

この状況の変化は、アドルフ•ヒトラーが歴史上初めてユダヤ教に対抗する考えを持って対峙するまで起こらなかった。
そしてそれを支援する組織。このようにして、初めてユダヤ人の唯物世界には、その背後にゲルマン世界が再び集結できる真に邪魔な壁ができた。国民と一緒に

したがって、社会主義的世界観が新しい時代の到来をもたらしました。

北欧人と北欧人の間にある乗り越えられないコントラスト

ユダヤ人についてもう一度簡単に要約すると次のようになります。

ユダヤ人は彼の考えの中で、北欧人の共同体倫理（社会主義原理)とエゴ（個人主義原理）、血から生まれた理想主義—破壊的な物質主義、無私と忠誠と従順—利己主義と

性格と魂が大切にする自堕落な生活の放縦さ

金;リーダーシップの原則

– 質量;命令し、導き、指揮したいというゲルマン人の創造的衝動、その権力の淫らさ、専制主義。

チュートン族の最も顕著な一日の終わりである名誉と忠実さは、ユダヤ人には知られていません。

しかし何よりも、世界権力を目指す彼の努力は王位に就いている。彼はすべてを彼に従属させます。彼の思想の意義と目的は、常に環境を無力にし、彼の思想によって人々を鞭打って、人々を互いに争わせることであった。

人類全体を支配できるようになるために、彼らを滅ぼすのです。

さらに、彼は人間の平等を説きましたが、恐れることなく自分の血を守りました。

これらの教えにより、彼は北欧の人々の生活秩序に対する攻撃を名指しで指揮し、アドルフ•ヒトラーの時代まで常に成功を収めました。

ヘラスとローマは物質主義によって最終的に破壊されました。アドルフ•ヒトラーが土壇場で来なかったら、ドイツ国民はユダヤ教とその思想によって打ち砕かれていただろう。ロシア人

人々はユダヤ人のマルクス主義を採用し、最終的にはユダヤ人とアジアの世界の手に落ちました。フランスはユダヤ人に屈した

唯物論。北欧が支配するアングロサクソン主義は、ユダヤ人とその有毒な思想の世界を国民の体内に深く根付かせ、同じ物質主義的衰退の道をたどっているようです。

全世界が数においてはるかに弱いユダヤ教に繰り返し劣っているというこの歴史的現象をどう説明するかという問題が問われなければならない。その理由を簡単に言うと次のようなものです。

私たちの先祖はユダヤ人の唯物論的な考えに触れた

彼らが土地を引き継いだ早い段階で。ローマ帝国の崩壊後、これらの考えはゲルマンの中核地域に浸透しました。

それとともに、ユダヤ人も私たちの先祖の地に移り住み、人々の中で地位を確立しました。(ユダヤ人の行列は添付の地図に示されています。9世紀から10世紀には、ユダヤ人はすでにドイツ全土に広がることができました。マクデブルク、メルゼブルク、レーゲンスブルク、グニェズノ、プラハでユダヤ人を見つけることができます。その中心はマインツでした。ラビネートスクール。

中世初期にすでにユダヤ人が、たとえ最初は経済的な面でしか役割を果たしていなかったことはあまりにも知られていない。すでに

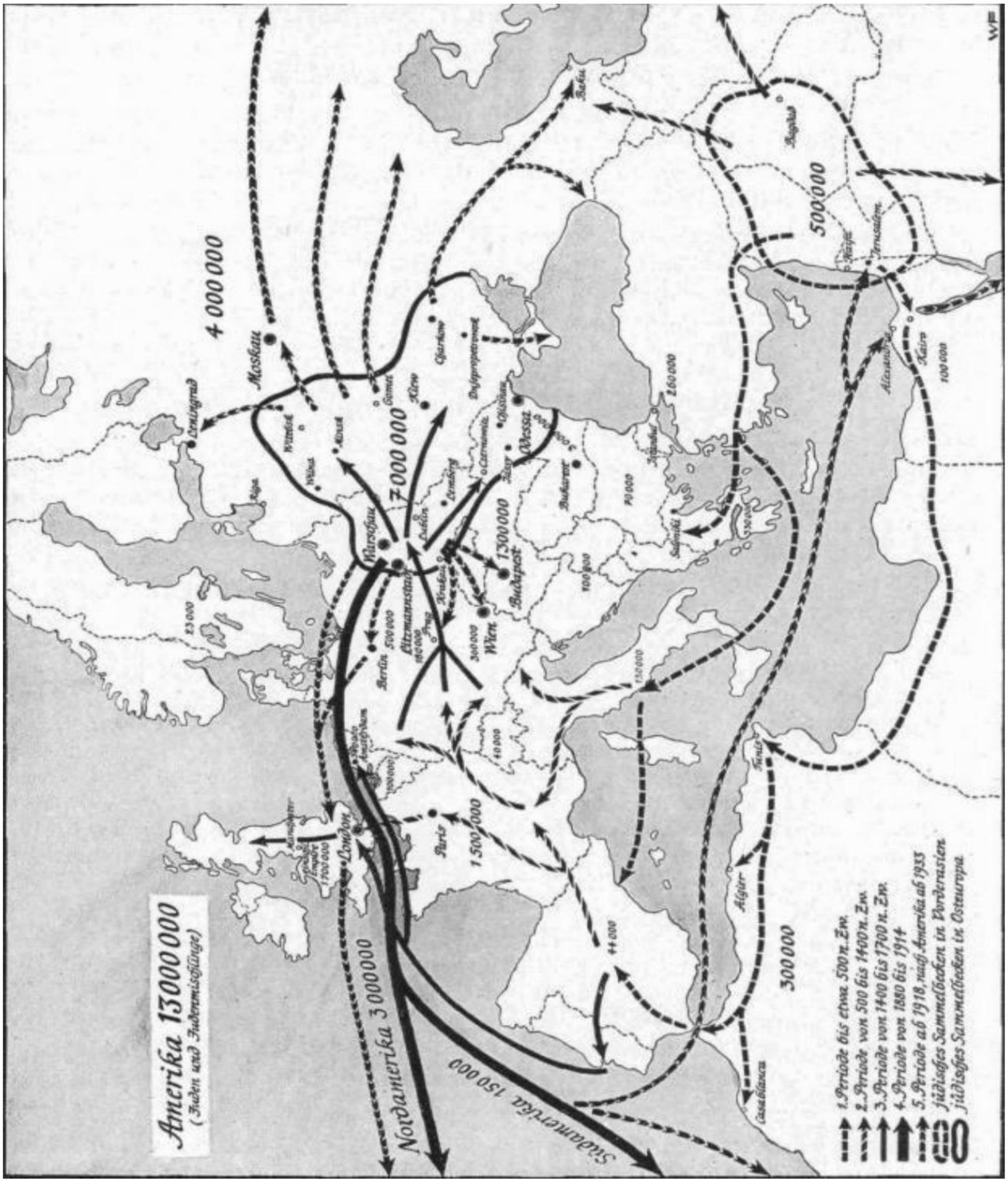
11世紀頃、彼は金融を独占しました。
教会法によれば、利息に応じてお金を貸すことは、
禁止されていました。ここでユダヤ人はその機会を利用し、特権的な高利貸しに身を乗り出した。ユダヤ人は帝国の「侍従」となった。通常の金利または高利貸しは 43 % でしたが、数倍に引き上げられました。この立場で、彼らは国家の保護を享受しました。彼らが時折、また何度も追求されたとしても、彼らは教会の保護下にあることになりますが、ユダヤ教と教会は金を獲得する競争でひっくり返りました。

しかし本質的なことは、純粋に経済的で物質主義的な考え方が人々の中にますます持ち込まれたということです。ユダヤ人は資本主義経済システムの創設者です。これまで交換の媒体、つまり目的を達成するための手段であったお金は、それ自体が目的になりました。

中世になると、ユダヤ人の性質がますます広まりました。西洋文学に強い影響を与えたカバラの著作（ユダヤ人の秘密の著作、哲学的宗教的内容）を覚えておく価値があります。ユダヤ教は自由精神運動にかなりの割合を占めていました。

の移動と拡散

世界中のユダヤ人



徐々に西側全体がユダヤ人によって汚染され、最終的にはマルクス主義から発せられた自由主義の時代が精神的に準備されました。

私たちは、国内の政治的性質の他の状況（諸侯の利己的な行動、特殊主義、政治的ローマ教会の反草の根活動)もゲルマン人の生活秩序を脅かしていることを認識しています。しかし、私たちの民族の存在に対する最も危険な脅威は、物質主義と個人主義、物質的なものへの過度の中毒、そして人々への執着のないエゴで考えるユダヤ人の考えでした。

また、私たちの祖先は自分たちの政治的およびイデオロギー的存在をまだ十分に認識していなかったので、政治的およびイデオロギー的教義の形で彼らの生き方のイデオロギー的基盤が実現する前に失敗しました。しかし、これは、何千年もの間、厳格に施行され、イデオロギー的に決定された人種的、政治的、宗教的法律に従って生きてきたユダヤの反対派によって反論されました。

異星人の考えの結果は、いつでもどこでも同じでした。人々は物質主義的で利己的な思考から脱落し、非創造的な幸福な生活に陥ったのです。名誉と忠誠心、国民への義務を果たすという高い価値は、金のために犠牲になった。存在の意味としての血縁社会への奉仕という理想は、自分自身の物質的な満足を求める際限のない努力によって置き換えられました。

お金と富への依存症により、多くの人々が過酷で自然な田舎での暮らしを捨て、商人の原則に基づいた快適な生活を手に入れるようになりました。誇り高き農民や戦士は根を張られた商人になった。さらなる結果は主に子供の数の制限でした。

これによって北欧の生活秩序がすでに深刻に混乱していたとすれば、人種のない生存に関するユダヤ教の教義は、北欧の生活に悲惨な脅威をもたらした。すなわち、自分自身の質の高い血を外国の卑劣な血と混合することによって放棄するというもので、人種差別の時代が到来した。人種的恥辱。

人種の混合の後には、人格の価値の低下と、北欧の高い魂の価値観の止まらない衰退が伴わなければなりませんでした。

それにより、北欧の人類は、もともと健康だった土壌に縛られ、血を重視した生命秩序から距離を置くことになった。それは国家の崩壊の始まりに等しいものでした。

スパルタでもそうだったし、アテネでもそうだったし、

ローマ。同じプロセスがゲルマンの中核地域で何世紀にもわたって進行していました。本当の理由はユダヤ人の唯物主義によって引き起こされた内面の腐敗にあったため、結婚法や人口政治秩序によってこの状況を変えることはできませんでした。

結局のところ、ユダヤ教は常にその唯物論的な考えの助けを借りて人々を滅ぼしてきました。

物質主義を習得できない民族は、それ自体が死の芽を持っています。私たち

ドイツ人はその救済策を見つけた：アドルフ•ヒトラーはそれを私たちに与えてくれた（国家社会主義によって教えられたゲルマン的理想主義の世界、それは自らに対する苦難の世界、自由と名誉のもとに人々に奉仕し、人々のために戦う世界、そして世界である）私たちが得た知識から導き出さなければならない結論は、民族が血に関連した生活の法則の遵守を厳重に守り、必要に応じて自らを主張する場合にのみ、民族は永遠に存在するということである。それはユダヤ人の唯物主義と個人主義との戦いにおける最も残忍な手段である。

この闘争により、私たちは周囲の世界との埋められないコントラストに自分自身がいることに気づきます。ピューリタニズム、リベラリズム、ボリシェヴィズムは、その基本構造においてユダヤ教に似ています。これらの考えに取り憑かれている人々は、その目的においてユダヤ人であるに違いありません。つまり、黄金と権力を求める飽くなき努力であり、それは必然的に世界支配の地点まで増大するに違いありません。

ここから、ドイツ国民に対する総統の運命の使命が始まります。

ユダヤ人の思想世界は、血を流した、したがって神が与えた秩序の教義によって、純粋な国家社会主義世界と決別した。

私たちの人々の生活。この戦争は、ゲルマン人の理想主義的な生き方観として
の国家社会主義と、ユダヤ人の物質主義的非
精神との間の戦いとして起こらなければなりませんでした。この決断の時代は、何世紀にもわたって続くプロセスの中で準備されました。アドルフ•ヒトラーは、国民を世界的な使命に備えさせた偉大な人物です。

私たちの敵対者、とりわけ世界中のユダヤ人は、それが何なのかを知っています。
彼らはドイツ国民を絶滅させるという自らの意志をもはや隠していない。

25.敵は何をしますか

私たちと一緒にやる予定はありますか？

アメリカのスポークスマンとしてのユダヤ人カウフマンはこう要求する。

結局のところ、解決策はただ一つ、ドイツ国民が死んでこの地球上から永久に消滅すること以外にありません。

ユダヤ人の残忍な絶滅の意志は、ドイツ国民の絶滅命令によって表明されています。その中のいくつかの記事:

第 3 条: ドイツ軍はいくつかのグループに分けられ、厳密に境界が定められた地域に集中し、兵士は直ちに断種される。

第 4 条: 民間人 (男性、女性、子供) は、領土区域に従って分割され、断種されます。



この地図は、世界金権政治によって計画されたドイツの分割と他の国家への分配を示しています。

第 6 条: ドイツは分割され、その領土は他国に割り当てられる。

第 8 条: ドイツ国民は、割り当てられた州の言語を学ぶことを強制される。

英国の有力新聞の一つである「ニュース•クロニクル」は、恥ずかしげもなく次のように説明している。

「率直に言って、私はドイツにいるすべての生き物、男性、女性、子供、動物、鳥、昆虫を絶滅させたいと思っています。私はもう草の葉も生えさせたくありません。ドイツは徹底的に破壊され、そして破壊されるべきです」サハラ砂漠よりもひどいようだ！

英国の雑誌「ピクチャー•ポスト」は明白な要求をしています。

「この戦争の後に真の平和を得るには、ヨーロッパの地図上にドイツが何も残らないようにしなければなりません。

すでに1936年にチャーチルは北米の将軍にこう言いました。
木：

ドイツは強くなりすぎているので、破壊しなければなりません。

1942年12月8日の夜、チャーチルはイギリスのラジオで次のような発表を流した。「1939年に我々はドイツに宣戦布告した。攻撃されたからではなく、自発的にドイツに宣戦布告したのは、フランス人を除いて我々だけだった」私たちは、私たちの重大な利益とナチスの重大な利益は決して共存できないことを知っていました。

破壊されました」 チャーチルは 1943 年 9 月 18 日の演説で次のように述べています。

「ドイツは、イギリスがどのように戦争を仕掛けるかを、残酷で恐ろしい経験から学ばなければならない。我々は、爆弾と火を使って、この戦争においてイギリスの教師になりたいのである。」

ボリシェヴィズムはドイツ人民の完全な絶滅をますます望んでいる。すべての指導者は排除され（カティンとヴィニツァを参照！）、農民と労働者はシベリアに追放されます。

労働奴隷として、ドイツはボリシェヴィキの植民地となるだろう。

私たちが戦うもの

ために

26.なぜ国立なのか

社会主義的世界観 内なる視点

は役員に義務付けられる

それはドイツの自然に対応しているからです。それは、ドイツ人およびドイツ国民に、自分たちの生き方に従って生き、それによって世界の創造主によって課された使命を果たすための法則を与えます。それが私たちが国家社会主義の世界観のために戦う理由です。

まず第一に、世界観という用語を明確にする必要があります。私たちは何度も「この戦争はイデオロギー戦争である」と聞きます。つまり、戦場での戦いは、私たちが世界観と呼ぶ強大な霊的勢力の闘争の目に見える表現にすぎません。

「Weltanschauung」は、まず文字通りに世界を見つめています。しかし、ドイツ語で「見る」ということとは、単に「見る」という意味ではなく、内なるビジョン、精神的なビジョンを意味し、人生の意味や目的、個人や人々の人生がそれに従って行われる内なる法則について考えることを意味します。 、 それ

それは、形成的で感動的な効果をもたらす本質的な精神的および精神的な力を認識することを意味します。

総統:

すべての行動を特定の初期概念に基づいて行うという決定の厳粛な宣言、したがって目に見える傾向はすでに「世界観」という言葉の中にあります。そのような見方は正しい場合もあれば間違っている場合もあります。それはすべての現象とプロセスについての記述の出発点です。このような見方が自然法則と一致すればするほど、それは生命の法則であり、したがってあらゆる行動に対する拘束力のある義務的な法則となります。

有機的な生活を意識的に適用すればするほど、人々の生活にとって有益になります。

(1933年、

ニュルンベルク)

まさにこの理由から、国民の指導者の間には明確さと団結がなければならず、これは特に戦争中の将校に当てはまりますが、この明確さと団結のために最後まで努力するという揺るぎない意志がなければなりません。それは世界観の性質上許されません

妥協。譲歩したい人、あるいは最後の明確な治療法を見つけて自分の生き方に必要な結論を導き出すことがあまりにも楽すぎる人は、世界観との闘いで敗北しなければなりません。ある民族の指導的階級がこれに失敗したことが、その民族に起こったことです。

特にドイツ人男性は、異質なものすべてに対してあまりにも寛容すぎるため、自分自身への道を見つけられず、他人のささやきに屈してしまう危険があります。しかし、外国の法律に従うことは自由を失うことを意味し、最終的には破滅につながります。

国家社会主義の世界観だけが、私たちに種にふさわしい生活を保証します。それのみが私たちの人々の自由と偉大さを保証します。したがって、特に最も困難な闘争の時代には、

私たちの世界観の最も重要な特徴を何度も明確にし、さらなる闘争のためにそこから力を引き出すことが必要です。

私たちは国家社会主義者として、神聖な世界秩序を信じています。

意味のある秩序は、それに適合する必要があり、戦い、創造することによって維持されるべきである。この信念から、私たちが北欧の人間性の特徴として認識しているものが生じ、それはゲルマン民族のミッドガルド思想やギリシャ人の宇宙思想にも表現されています。

私たちは、人種や民族もこの神聖な創造秩序の一員であり、彼らにはこの秩序の中で特有の使命があると信じています。人々が自分の使命をより明確に認識できればできるほど、その固有の能力をより純粋で豊かに開発すればするほど、全体の意味のある秩序を確保するための貢献は大きくなるでしょう。

私たちは、人間は自意識のある霊的存在として、領域の創造主から、自らのために生命体と人生の課題を創造するという使命、つまり最低の人生の単なる満足よりも高い意味を持つ道徳を受け取っていると信じています。ニーズ。

したがって、私たちは人間を育てることが使命であると信じています。結局のところ、私たちの闘争はその目的を果たすものであり、この任務に反対するあらゆるものに対して容赦なく戦わなければなりません。

この任務は、最も高度に発達し、最も創造的で、最も有能な種族が、地球上の人々の生活秩序に決定的な影響を与え続けているという事実にかかっています。しかし忘れてはいけないのは、我が国民とゲルマン主義全般の脅威により、この民族の本来の故郷、つまりこれまでのところ最もそう呼ばれている祖国、そして今なお最も流れ込む生命力の源である祖国が脅かされているということである。北欧

人種。

神聖な世界秩序と人間の進歩に対する信仰は、

私たちの世界観を表現していますが、まだこの世界観そのものではありません。

私たちの信仰は、私たちのあらゆる行動の最も強力な原動力です。しかし、真に明確なイデオロギー的態度、ひいては最終的には信仰を強化することは、信仰が認識や科学的確信と矛盾しない場合にのみ実現します。ゲルマン人として、私たちは自分の信仰を実践しようとする試みにおいて、人生に適合し、存在の有機的な法則と調和していることが証明されるという確信を持たなければなりません。

もし世界が神の創造物なら、それは誰の創造物であるべきか

そうでなければ、死と生成のすべてが変容し発展する自然法則は、神法でなければなりません。しかし、この規則性の中で私たち人間にとって特別に有効な法則は、私たちの世襲世界と環境を形作る法則です。したがって、私たちにとって人種の知識は最高の知識です。しかしまた、自然史と生命科学に対する科学的、政治的、イデオロギー的なケアも私たちの最優先事項です。他のすべてはそれに基づいている必要があります。もし、人生、人種、仕事、自然、そして祖国が私たちにとって崇高で最高の価値であるとすれば、それは恣意によるものではなく、これらすべてを通して神への道、人生の意味への道、生き生きとした秩序への道が開かれているからです。 、道徳、信仰が導きます。

ガイドは私たちに生命の生物学的法則、血液の価値と重要性についての知識をもたらしてくれました。

彼の教えは次のように述べています。

- 人類はさまざまな人種に属しているということ。
- すべての人々は血に関連した法律に従ってのみ生きられるということ。
- 私たちの人々は主に血のコミュニティであるということ
  北欧の血。

•したがって、私たちの人々は、以下の法律に従って生活しなければなりません。
北欧の血が流れている。

•世界の歴史は、居住空間をめぐる闘争のほかに、人種的世界観の緊張を表している。

総統:

「私がここで予言的に宣言するのは、太陽の周りの地球の軌道に関する知識が世界の一般的な見方の革命的な再設計につながったのと同じように、地球の血と人種の教義は、

国家社会主義運動は革命をもたらすだろう
知識、ひいては人類の過去と未来の歴史の全体像を知ることができるのです。」

(国会議事堂、 30
1937 年 1 月）

私たちの世界観の中心には血の思想、あるいは人種の思想があります。これによると、血液は個人だけでなく人々の人生を動かす力でもあります。

この考えを最後まで考えるということは、新しい、しかしすべてのキリスト教徒の平等という教義と自由主義的な教義によって、私たちの北欧の血を強く危険にさらしてきた過去数世紀の考え方に関するものにすぎない、考え方の完全な再編成に到達することを意味します。人間の顔を持ち、人種的混乱を呼び起こしたすべてのものの平等、実のところ、この考え方は、現代の遺伝と人種研究の知識を備えて、私たちにとって自明のことを再び取り上げることに他なりません。ゲルマン人の祖先は、外国の考え方の影響を受けていない限り、信仰、法律、生活秩序の統一体として、また高度に育った性の自由な農民として生きていました。

そして認識と信仰から価値観と行動が生じなければならず、それによって義務的な内法としての世界観が時には外側でも認識できるようになる。なぜなら、あらゆる世界観は、第一のまぶたにおいて、価値の順序の中で最も高い位置を占めるものによって特徴付けられるからである。

最優先事項は、我が国の人々とその人々の遺産の保存と促進です。私たちの人生と闘いはこの任務に捧げられています。

総統:

「しかし、私とすべての真の国家社会主義者にとって、唯一の存在は

教義:

民族も祖国も！」

国家社会主義は、血の概念から、人々を運命共同体としてだけでなく、何よりも北欧の共通の血によって結ばれた血の共同体として見なします。人々はすべてを支配するものであり、すべての行動の出発点であり、あらゆる成果の最後にして最高の価値基準です。

「公益は私利私欲より優先される。」 人間は、どんな仕事をするとしても、自分の考えと行動のすべてを使って人々に奉仕します。

エゴは私たちのために辞任しなければなりません。私たち、血で結ばれた国家共同体のためにパフォーマンスと犠牲を払うことによってのみ、人々の存在、ひいては個人の存在が保証されるのです。 「一人はみんなのために、そしてみんなは一人のために。」の

総統:

「国家社会主義は個人にも人類にも存在しない

検討、声明、決定の出発点。それは意識的にすべての思考の中心、つまり人々に移行します。

したがって、国家社会主義は民間的な世界観です。すべて、人民のすべての同志、すべての家族、一族、すべての国民

党、ドイツ国防軍、国家、行政、経済、芸術、科学といった組織は、人民の繁栄と永遠の闘争に奉仕しなければなりません。しかし、これが完璧に可能となるのは、国民のすべての成員が、自らの気質と達成意欲に応じて、人民のため、国家のために最高のことを達成できる場所、つまり真の社会主義者に配置された場合に限られる。高い労働倫理を持つ人々の秩序。

この国家思想と社会主義思想の組み合わせがこの党の名前の由来となり、国家社会主義の世界観を語らせています。

総統:

「人類の偉大な文化的成果は、常に人々、人種の共同体生活の最高の成果である。したがって、それらはその出現とそのイメージにおいて、共同体の魂と理想の表現である。」

このように、国家社会主義は、私たちの血に流れており、常にゲルマン人の祖先の特徴であったように、理想主義的な人生観を公言しています。しかしそうすることで、彼は自由主義とマルクス主義の個人主義的唯物論的考え方も克服しました。

血の共同体の理念への取り組みと社会主義共同体の確立により、ドイツ人は一つの民族となりました。

しかし、私たちが個人を国家共同体の一員として見なす場合、これは彼が大衆に吸収されることを意味するものではありません。真の国民共同体は大衆から成長することはできず、強い個性からのみ成長します。健全な森には強い木が必要です。したがって、国家社会主義は人格の価値を強く強調しますが、これは、現実にはそのようなものは存在しないため、すべてのしがらみから切り離された個人の価値をそれ自体で意味するものではありません。それは血の通わない思考構造としてのみ存在し、生命の法則と矛盾します。

人間は、自然に成長した家族、氏族、人々の秩序の中に生まれます。

国家社会主義は、国民のために最高のパフォーマンスを発揮できる、完全に発達し、血の意識があり、強い意志を持った人格を備えた人物を求めています。このような人間を生み出す手段は、国家社会主義の世界観の精神に基づく教育です。その前提となるのは、私たちの血液が純粋に保たれ、品種改良によってより高いレベルに発展しなければならないということです。

総統:

「私たちには、国家共同体の真の精神をますます深め、人格価値をますます明確に打ち出すという大きな使命があります。」 私たちは、国民全体のために果たすべき義務として仕事を大切にしています。

「仕事は物質的価値を創造する手段であるだけでなく、国家共同体を維持することを目的としており、同時に人格の発達にとって不可欠な前提条件でもあります。」各個人は、自分が職業的または政治的人生のどの位置に就くように求められているかを、パフォーマンスの競争で証明しなければなりません。」

総統:

「国家社会主義の下では、私たちの生活のあらゆる場所で共同体を維持するために、最高の能力がもっぱら権威主義的に利用されているということ以外、私は何も理解していません。」

「一般的な業績競争から得られるこの業績の選択は、自由主義的な勢力の自由行動とは根本的に異なります。なぜなら、国家共同体の強化と同時に役立つ限り、個人の業績のみが認められるからです。」総統:

「一方では、力の自由な行動に可能な限り幅広い自由度を与えなければならないが、他方では、この力の働きは人間に与えられた目的共同体の枠組み内に留まるべきであることを強調しなければならない。それを私たちは国民共同体および国家共同体と呼んでいる。 」

私たちは闘争を人生の議論の余地のない法則として大切にしています。なぜなら、すべての選択の前提条件である永遠の闘争の中でのみ、人格と厳しい人々が成長するからです。闘いの中でのみ偉大なものが生まれる。

戦いながら、ドイツ人の男は自分の人生を形作っている !彼の全存在には戦いが伴う。自分自身との戦い、運命との戦い、敵対的な環境との戦い。彼は厳しい闘いの中で運命を制し、神が望む本質的な生命の形を達成するために、自分自身と彼の民のために戦います。闘争はドイツ人男性にとって、厳しく教育し形成するための神法である。

このため、彼はこれまで教えられてきた運命への謙虚な献身という原則を拒否します。

闘争と困難は国家社会主義の主要な要素の一つです。したがって、それは強い者、戦闘的な男の世界観です。国家社会主義は本物の戦争から生まれます。 「それは、その好戦的な基本的特徴を備えた軍事的世界観である。」兵士の犠牲的な献身が最も目に見える社会主義である。

この兵士は帝国初の社会主義者である。兵士、そしてここでも将校は、特別な覚悟を持って心の中に国家社会主義を受け入れなければなりません。

この好戦的な態度から、国家社会主義は女々しい善良な生活を嫌悪する。それは放蕩生活につながるエゴイズムと物質主義の致命的な敵です。それは、生き方における単純さと率直さを要求します。強くて誠実な農民と、勇敢な軍人はすべてのドイツ人を満たすべきである。

彼は街でも田舎でも、銃を持ってでも作業台でも人々に奉仕している。

戦いの隣には誇りがあります。伝統的なやり方に対する誇り、パフォーマンスに対する誇り、戦いの後の勝利に対する誇りです。警察官は従順に義務を果たしますが、誇り高く自由な人間としてです。そして、そのようにして彼は神の前に立つこともできます。名誉ある立場に立つための力と力を求めて、まっすぐに立つのです。

この態度にはゲルマン民族の基礎があり、将校はそれを最も明確に表現しなければなりません。正当な誇り、高貴な気質、貴族的な態度が彼の種族の特徴です。

私たちは名誉と忠誠を公言しますが、その両方は切っても切れない関係にあります。名誉の概念はゲルマン人の存在の中心です。
私たちの祖先の人生は、名誉と名声、自由、勇気、誇りを中心に展開していました。
名誉が優先される限り、彼らの人生は常に純粋で素晴らしいものでした。

「ゲルマンのヨーロッパは人類の最も輝かしい理想を世界に提示した。それは人格の価値をすべての道徳の基礎とする教義であり、北欧の最高の価値観への賛歌であり、良心と名誉の自由の理念であった。 。

(アルフレッド•ローゼンバーグ、「20世紀の神話」) ここ数世紀、名誉に対する高い概念は、謙虚さと人間性の考えによってひどく損なわれてきました。総統は名誉を再びドイツのすべての生活の出発点にしました。

名誉は内なる法則であり、良心であり、国家社会に対する私たちのすべての行動と態度を決定します。それは決してそれ自体と単独で関係しているのではなく、コミュニティと私との関係の中で実際の解釈が見出されます。ドイツ系ドイツ人の名誉概念では、自我は人々の名誉を優先して後回しにされます。生命と血の法則を備えた我が国の国家社会主義の世界観は名誉の上に成り立っており、国民への自発的な奉仕と血の純度の向上とより高度な発展への努力という社会主義の考え方は名誉から発展しています。

将校の名誉は国家の名誉であり、名誉である
国民の名誉は将校の名誉だ。

しかし、体に名誉を持つ者は、仲間、民、さらには指導者さえも決して見捨てることはありません。

したがって、名誉から忠誠心が生まれます。

この地球上の多くのことは許されるが、決して許されないことが一つある。それは、不貞行為、総統に誓った忠誠心は、ゲルマン民族に対する忠誠心、同族に関する総統の知識、総統に対する忠誠心と同じくらい神聖なものでなければならないということである。それは、祖先や孫たちへの血、一族への忠誠心、同志への忠誠心、そして良識、清潔さ、騎士道という不変の法則への忠誠心です。名誉と忠誠の高い概念において、貴族はドイツ人としての自分自身を示します。

私たちは服従を公言しますが、これは最高の自発性から、あらゆる犠牲を払う用意のある私たちの世界観への奉仕から無条件で生まれます。

自由は名誉とともに立ち、そして倒れます。ゲルマンの自由を、利己的な放縦に堕落する自由主義的な自由概念と混同してはならない。それは内なる自由、良心の自由、魂の自由、そして共同体の利益のために人格を完全に発達させる自由です。

「私たちが自分の命令に従うことができるとき、私たちは自分自身を自由だと呼びます。

私たち自身の存在は、私たちが創造したのではなく、他者、つまり両親から受け継いだものです。したがって、人々は、自分たちの人種的性質に応じて、また世襲の力と能力を最大限に活用することによって、自分たちの政治環境、文化、敬虔さを自由に形作ることができます。したがって、国民の自由への欲求が大きければ大きいほど、国民は自らの世襲の絆についての知識を確認しなければならない。なぜなら、国民が最大限の注意を払ってその受け継いだ衝動に耳を傾け、従ったときにのみ、国民はそのようにするだろう。

外国の民族や人種の影響に屈するのではなく、その血の声、その理性、そして感情だけに従うのです。」

(Stenge1 -V. ルトコウスキー: 全能性と

人生の秩序。）

チュートン人は自らの自由意志で指導者に従い、常に血の共同体、国民の名誉と自由を守るという意志を持っている。祖国の自由のために戦い、命を捨てることができることは、彼にとって最高の栄誉である。「奴隷になるよりは死んだ方がマシだ！」国家の名誉と自由のための戦いから、指導者と仲間の関係が成長し、ゲルマン人の忠誠心と従順が成長します。魂の高貴さから、選ばれた指導者に忠実な忠誠を尽くして国民のために戦う者だけが自由である。

自由な人々の中でのみ、彼自身も自由で幸せなのです。

そしてこれは、このドイツ人の兵役を理解する方法でもある。それは公民権のリセットとは何の関係もなく、国家の名誉と自由のための自発的な奉仕です。この意志の自由は、北欧の魂の偉大な創造力であり、個人と社会の両方に形成的な影響を与えます。

国家。北欧のリーダーシップと忠誠の原則は、この高貴な精神に根ざしています。

「名誉と自由は個人を遠ざけ、

領主の余地がある国々に独立を要求するか、農場や城で最後の一人まで独立のために戦わせた。」（アルフレッド•ローゼンバーグ、「20世紀の神話」）

忠誠心、名誉、従順は共に、リーダーシップと忠誠心との関係を決定する。そ

れは特にゲルマン人に非常に特徴的であり、また、それを求めようとする異星勢力

にとって常に特に大切であったものである。

私たちの地域で影響力を獲得しますが、それが純粋に展開できれば、常に私たちの人々が最大の成果を達成することができました。

指導者と支持者からなる切り離すことのできないコミュニティの基盤は、共通の理想、共通の闘争、偉大な理念とその力に対する同じ信仰、つまり統一された世界観、人々とその使命に対する同じ信仰です。

目的と信仰の共通性により、最も強力な意志の力が集中し、信者たちに総統と忠実に連帯して行動するよう促します。

リーダーとは、人々を形成し、教育することができる人であり、人々を自分の魂の信仰の力で満たし、模範とともに人々を偉大な行為に導くことができる人です。リーダーは、そしてこれはとりわけ将校に当てはまりますが、自らの模範によって、彼の人格の力によって、そしてリーダーと人民への信仰、そして世界観そのものの力によって、追随者を鎖で繋ぎ、彼らを自発的に従属させなければなりません。偉大な目標に責任を持って参加し、最後までインスピレーションを与える取り組みに参加するよう促します。

指導者の意志は、信奉者の信念とならなければなりません。これ
信仰は、指導者と人間の霊的力の最高の発達につながります。

ドイツ系ドイツ人のリーダーシップは、人格、意志力、能力に依存する責任の原則に基づいています。

総統:

「リーダーになりたい人は、究極で最も重いものを背負う
最高かつ無制限の権限をもって責任を負います。」人格と業績の価値の観点から、国家社会主義はドイツ人の生活全体を通じて総統と追従の原則の実施を要求します。

総統:

「最良の憲法と政府形態とは、国家社会の最も優れた頭脳を確実に主導的な重要性と影響力をもたらすものである。」（「我が闘争」）

国家社会主義の軍事的側面は、総統に最も明確に表現されています。

ゲルマンのリーダーシップの最高の例は、総統です。

国民の崇高な魂の価値観と、自分と国民の使命への信念の認識から、総統は、国家社会主義を通じて、内面的に引き裂かれイデオロギー的に分裂した国民を大きな団結に導き、強力な支持者へと形成する力を得た。彼の模範、行為、そして国家社会主義のイデオロギーにより、総統とドイツ国民は分かちがたい団結となりました。

総統の模範により、ドイツ軍将校は皆、信念を持った国家社会主義者となり、自らのエゴを脇に置くことで、国民と帝国の最良の奉仕者となる。

国家社会主義は、自由主義やマルクス主義がそうしなければならないと信じているように、知性や理性には訴えませんが、魂と人格の価値観に訴えます。北欧を目覚めさせる

血液の力はドイツ人なら誰でも内在しているが、外来の思想の力の影響でまだ十分に発達することができていない。

国家社会主義というこの途方もない理念の創始者としての総統の説得力と感動を与える人柄は、ゲルマンの血のすべてを包含する独特の民族革命において、これらすべての力を目覚めさせ、ドイツ国民全体にそれらの力を移すことに成功した。このようにして、魂の力とエネルギーが目覚め、ドイツ国民が英雄的な人生観から最高の成果を達成できるようになりました。

ドイツ国民は何千年もの闘いを経て、本来の自分に立ち返った。それは自分の人生の合法性を理解し始めます。

ゲルマン主義、大王思想の世界、国家社会主義は発展路線である。国家社会主義革命により、ドイツ国民と異国の思想世界との闘いは歴史的な完成を迎えた。

私たちの歴史をゲルマン人の先史時代の最古の時代まで遡ると、ゲルマン人の次のような人生の現れを見ることができます。

•彼の清廉で誇り高く、血を意識した態度、気高き気質、そして軍事的厳しさと決意、戦う勇気、名誉と自由、忠誠心と従順の高い概念に表れている戦士の体操、そして彼の戦士の体操。リーダーシップ

•彼の高い共同体意識（家族、氏族、人々)と、これらの血縁共同体のためにあらゆる犠牲を払う意欲、そして彼の理想主義。

•彼の農民は誠実で、力強く、素朴で、そして率直な態度であった。土への愛着、その場所への愛情。

•創造と形成への彼の偉大な意志により、彼は西洋の文化と国家の創始者となり、古代から現代に至るまで、人々の共存における規制と決定要因となりました。

•彼の深い宗教心

これが国家社会主義の基礎です。それはゲルマン人の人間性の高い価値観を公言しており、それによって私たちの見解の理想主義は熱意や空想とは何の関係もないことを明確に強調しなければなりません。国家社会主義とは、

血で結ばれた国家共同体と、すべてのドイツ人にとって最高の道徳法としての国民への奉仕。彼は血と名誉の教義です。国家社会主義の教育の主要な要素は、国家に対するパフォーマンスの要求です。

コミュニティと自分自身に対する困難。

この理想主義的な基本的見解により、国家社会主義は、ユダヤ人とその臣民が支持する唯物論の世界観とは相容れない対照をなしています。

この戦争は、これら 2 つの思想世界の間の絶え間ない闘争を表しています。

「国家社会主義は、私たちが信じる心と勇敢な精神を持って必要かつ正しいと考えるものを政治の現実の中で実現します。

それは私たちの人々の運命に関する教義であり、継承された世界と環境の熟達です。それは血と名誉の神話です。彼は、血と土の本質的な出来事に再び私たちの目を向けます。神は私たちの思考、信念、行動を私たちの内と周囲の世界の永遠の秩序に再び向けます。

私たち。神は私たちに、敬虔に全能の合法性を認識して浸透し、私たち人間によって設定され形成された秩序をその法則に従って調整し、それが自然で人生に適したものになるようにする自信と可能性を与えてくださいます。そうすることでのみ、私たちの人々の将来は安全で、明確で、確実なものになるからです。」

(Stenge1 - V. ルトコウスキー: 全能性と
人生の秩序。)

私たちの
全力を尽くした私の意志をあなたは信
じ
てください !私の信仰は
世界
中のすべてがあなたと同じよう
に !しかし、神がこの世界で私に与えて
くださった最高のものは、私の民です！
私の信仰は彼にあり、私は彼に意志を
もって仕え、彼に命を捧げます。

アドルフ•ヒトラー

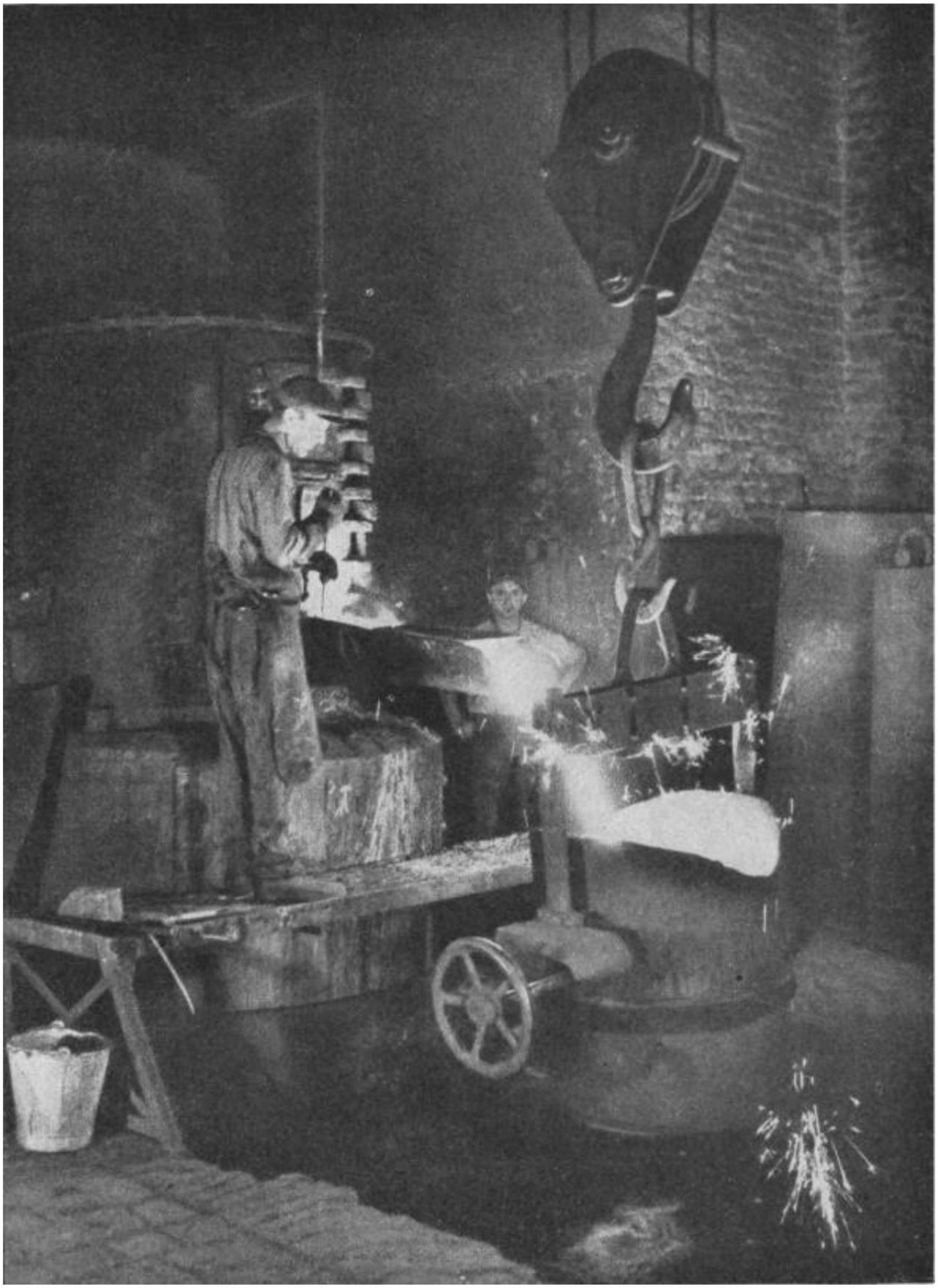


「生きたい者は、ゆえに戦う。永遠の闘争の世界で戦いたくない者は生きるに値しない」（アドルフ•ヒトラー）





ドイツ兵士の戦いは国民の名誉と自由にかかっています。



「真の社会主義とは、義務を最も困難に遂行するという教義である」

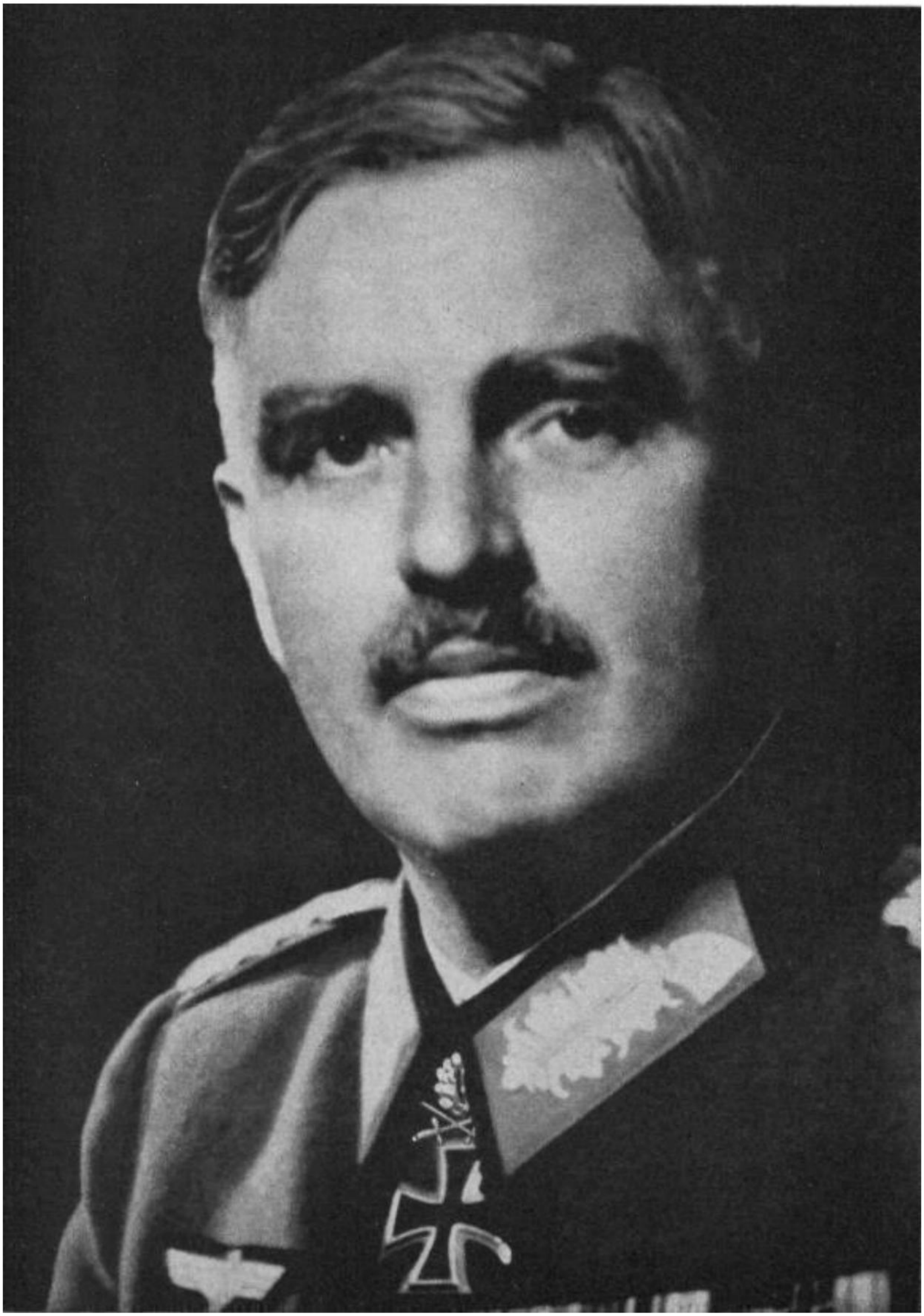
（アドルフ•ヒトラー）



この兵士は帝国初の社会主義者だ！



「人々の偉大さは常に､その偉大な人々の価値観の総合的な結果である。」 （アドルフ•ヒトラー）



個性とパフォーマンスがその国の中での地位を決定します。

27.なぜ国立は 社会主義的世界観 血と土の法則に従うのか？

私たちは女性と子供たちのために、ひいては国民の永遠の命のために、現在の大きな闘争だけでなく、いつでもどこでも戦います。したがって、私たちは国民の永遠の命を内側から保障するような命の秩序のために尽力しなければなりません。しかし、それは、善良で貴重な血を保存し奨励し、劣った異国の血を抑圧し排除する秩序、祖国の土壌で人々の氏族を成長させる秩序でしかあり得ません。

私たちの国民にとって最大の富であり最も貴重な宝物は、効率的な氏族、つまり純粋な血を受け継ぎ、常に十分な数の子供や孫を私たちに提供するという先祖に対する義務である氏族の株である。 、先祖が始めたことを継続すること。機械、銃、戦車、潜水艦、飛行機は工場で無限に大量に生産できます。しかし、これらの大砲や戦車を正しく調整して賢明に使用できる人々は、良血の氏族からのみ生み出され、創造することができます。同様に、私たちの知的および文化的成果、実際、私たちの国民一般を特徴付ける道徳は、創造の担い手の前で受け取られるのと同じ力でしかあり得ません。

そうだった。

この最も貴重な宝である良き血を国民のために守るために、私たちは今何をしてきたでしょうか ?国家社会主義世界主義者による「私たちの思考の再編成」が行われる前、私たちは -

他のほとんどのヨーロッパの人々と同じように、私たちの生活にはとても不注意でした

賢明な人々にとっては、国家の死という脅威がすでに現れているということを扱います。そして、非常に偉大な悲観主義者は、絶えず繰り返される歴史法則の必然的な経過として「西洋の滅亡」をすでに予言しました。しかし、私たちは国民の永遠を信じています。私たちは生命の法則と歴史から、人々は滅びるのではなく、「生まれる」ことを知っています。

偉大で重要な文化的民族が滅びました。この減少の最終的な原因は血液問題の無視でした。何よりも、出生率の低下、逆選抜、人種混合という3 つの危険が常に存在し、それ自体が十分に認識されず、それと闘ってきました。

これらの経験から、私たちは国家が
社会主義的世界観は、これらの危険を克服するための生活秩序を私たちに義務付けます。

• ドイツは再びキンダーランドにならなければなりません。何よりも、武力の勝利には子供の勝利が伴わなければなりません。特に良血の家庭では、子供に対する意志が新たに促進されなければなりません。なぜなら、彼らは多くの場合、静かに異性愛者であり、意図的に子供の数を制限することでスタートを切った人々だからである。特にこの戦争で非常に多くの最良の血統が再び断たれた後、私たちは、特に支配階級の家族において、4人、6人、あるいはそれ以上の子供の数が当然のことと考えられているという事実に再び慣れなければなりません。生きている最後の子孫の英雄的な死を永遠に。これらの氏族からはもう生まれない強力でリーダーシップのある才能のある人々は、他の人々にも私たちの人々に与えなければなりません。

第二次世界大戦での200万人の死者はドイツ国民にとって痛ましい犠牲であった。しかし、失血の方が大きかった。1919 年から 1933 年にかけて、物質主義的な態度により、恣意的な避妊が行われた。

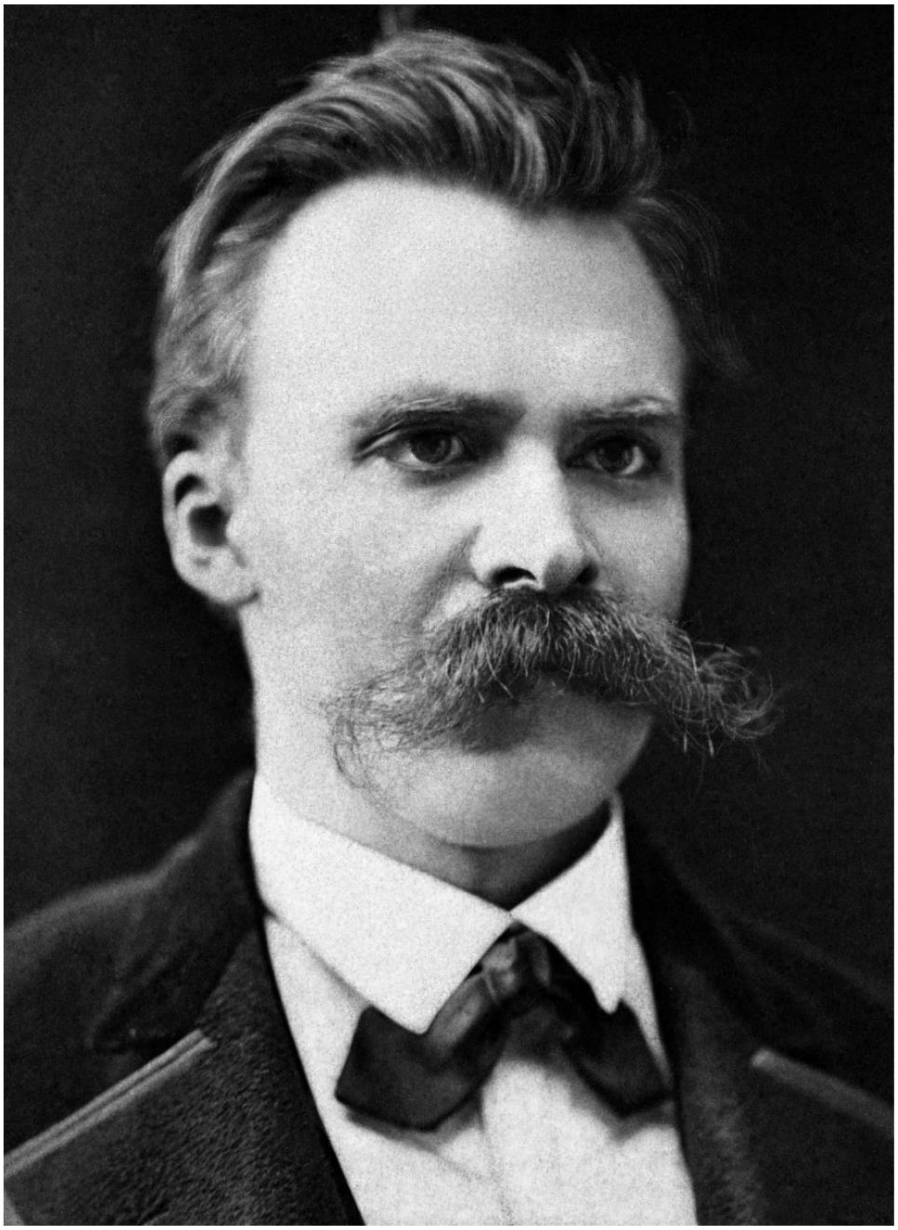
1905年、人口5,860万人のドイツで2,010,600人の子供が生まれました。 1932年には、6,490 万人のうち、子どもの数はわずか 97 万 8,160 人でした。つまり約1200万円の損失となる

人々 !ドイツ人なら誰でも、今日1,200万人がいないことがドイツ国民にとって何を意味するのかを判断する方法を知っています。これまでの人口政策は大成功を収めたにもかかわらず（たとえば、1934 年から 1940 年にかけて、1932 年から 1933 年の状況下で予想されていたよりも 270 万人以上多くの子供が旧帝国で生まれました）、私たちには次の義務があります。子どもとしての意欲を育むためのあらゆる施策を拡充します。統計はその証拠を私たちにもたらしてくれます。しかし、結婚ローンや家族負担の均等化からドイツ人の母親への名誉十字章の授与に至るまで、これらすべての措置は、国家が方向性を示すことができる道しるべにすぎない。私たちは自分自身で、そして自分の自由意志でその道をたどらなければなりません。子どもとどのように関わるかという問題は主に態度の問題であり、態度は教育によってのみ影響されます。したがって、私たちは次のようなことに直面しています。

これは私たちの最も重要な教育課題の一つであり、国民全体の内なる態度を変えるという教育課題は、人民の指導者が最良の模範を示し、求められる態度を模範とする場合にのみ解決されるということを忘れてはなりません。

国民の数という観点から国民の命を確保する措置に加えて、国民の善良さという観点から国民の生活を維持し、場合によっては改善する者は、我が国の体内の生物学的プロセスが選択と選択につながることを保証しなければなりません。良血を統合し、逆選抜しないこと。しかし、遺伝性病気の子孫の防止法や夫婦間の責任に関する法律などの法律によって防止されるのは、この関係における最悪の損害だけです。ここでも決定的な要因は、人々自身の態度、特に妻を選ぶ責任感にあります。正しい夫の選択だけが

高度に育った一族の資産価値の下落を防ぐ可能性。 「そう、私は聖者とガチョウが交尾するとき、大地が震えて震えるようにしたかったのです」とニーチェは『ツァラトゥストラ』で述べている。



そして、素朴な大工は息子にこう言います。「坊や、目を開けてください、結婚は馬を買うことではありません！」何度も何度も、良い血が良い血を見つけ、良い血を見つけなければなりません、そして、豊富な子供たちを通して、その株を維持するだけでなく、それを増加させなければなりません。

子供;この劣った血の無制限の再生産が止められなければ、また逆に、遺伝的に健康な人々、特に最も有能な性の人々が全員、家族の価値観や子供の富を公言しているわけではない場合、私たちの国民の間でも逆選択によって絶滅の危険を回避します。

私たちは国民の人種的本質を純粋に保たなければなりません。つまり、外国人種が私たちの良血を交配することを阻止しなければなりません。あるいは、外国の例が国民に影響を与えることさえ許容しなければなりません。 「自分に属さないものは避けなければならない。自分の心の奥底で邪魔をするものは、苦しんではいけない。(ゲーテ) 」

民族は、その体を構成する人種によって特徴づけられるだけではなく、その特別な顔は、その共通の歴史、一緒に乗り越えてきた危険、共通言語、生息地の性質などによって決定されるからです。人種的基盤が決定的な要素です。何よりも、どの民族が国民の道徳全体に決定的な影響を与えてきたのかを明確に認識する必要がある。

ゲルマン人の土地強奪の歴史とその後のドイツの人口史から、ドイツのすべての部族には血の要素が存在し、それによって他のすべての部族が統合されていることがわかっていますが、これらの部族もまたドイツ人という存在の完全な表現に属しています。血の共同体。それは北欧の血です。ドイツのすべての地域、すべてのドイツ人において、この北欧の血統は多かれ少なかれ高い割合を占めており、外部の人種的特徴から必ずしも読み取れるわけではありませんが、ドイツ国民の性格と実績から認識できます。この北欧の血の分かち合い、したがってすべてのドイツのガウエンとすべてのドイツ国民の魂の分かち合いは、いわば、私たち全員が送信機のスイッチを入れて、

受信者であり、その助けを借りて、特に私たちが考えていることについて、すべての人たちとコミュニケーションをとることができるようになります。

典型的なドイツ人。ドイツ国民の道徳のために -
歴史はこのことをはっきりと教えてくれます - それは私たちのゲルマン人の祖先の魂の態度、つまり主に北欧の人々の人種的な魂によって
形作られています。したがって、一部の「人種マニア」からではなく、ゲルマン民族の保存のために、意見の平等が達成されるほどの血の減少によって上記の波動範囲が縮小するのを防ぐことが非常に重要です。さまざまな意見があり、その結果、我が国の人々の単純で種の権利を尊重した発展はもはや不可能です。

総統:

「歴史的に確認できる世界観はすべて、理解できるものだけです」
人生の目的や特定の人種の人生観との関連において。彼（国家社会主義）は、私たちの能力の正常な範囲が人々の内部の人種的区分によって決定されることを知っています。しかし、我々は、我が国国民の政治的、文化的指導者が、その英雄的行為によって、さまざまな構成要素の集合体からの気質だけによって、そもそもドイツ国民を創造したその民族の顔と表現を持つべきであることを望んでいる。長い目で見ると、これまでに創造されたものはすべて、以前に創造の担い手であったのと同じ勢力によってのみ維持され得るという認識に基づいて、国家社会主義は、これらの構成要素の支配的な影響力と最大の勢力に対するドイツ国民の本質となるだろう。私たちのドイツ国家の形成をもたらす目に見える影響は、何世紀にもわたってインスピレーションを与え、実行してきました。」

したがって、私たちの民族の永遠の命を守るために、私たちはより多くの子供たちを要求しなければなりませんが、私たちが先祖に応えることができる子供たちだけを要求しなければなりません。町や田舎では、厳しく、強く、高貴な性が再び成長しなければなりません。

時には笑い飛ばされ、時には批判される育種という概念について、ここで一言言う必要があります。

繁殖という考えは、私たちの祖先が当然のことと考えていたものです。当時の習慣によれば、家族や氏族の長は、両方の中で最も優れたものと最も美しいものを決定しました。

最初から結婚を前提としたセックス。今日、この習慣はもはや一般的な財産ではありません。したがって、役人は、妻を選ぶとき、血のより高度な繁殖についての考えと、最も恥ずかしいことに純潔を監視する家族の長の義務、そしてすでに再び存在する場合は一族の長老の義務によって自分自身を導かなければなりません血液の。国家社会主義は国民のより高度な発展を目指します。それは血の問題です！これに関連して、子育ての可能性を疑う人たちには、意志があれば不可能なことはない、悲観主義者が世界を動かしたことなど一度もないと答えなければなりません。しかし、我が国国民の生活秩序にとって最も重要な基本法はこれです。道徳とはドイツ国民という種の保存に役立つものです。不道徳なことは、ドイツ国民の種の保存に反することです。

総統:

おそらく人類の歴史以来初めて、この国では、私たちに課せられたすべての課題の中で、人間にとって最も崇高であり、従って最も神聖なものは、神から与えられた血のつながりを維持することであるという認識が向けられている。種族。

この王国で初めて、人間は、国家社会主義の最大の革命がその扉を開くことによって、その存在を維持するために不可欠な問題に対する全能の神から与えられた知識と洞察力の賜物を満たすことが可能となる。人間の誤りや誤りはすべて時間に依存するものであり、したがって、一つのことを除いて、再び改善することができるということ、それは、重要性についての誤りである。

彼の血、彼の種、ひいては神によって彼に与えられた形、そして神が与えた存在によって彼に与えられた形を保存することだ。」

（アドルフ•ヒトラー）

ドイツ帝国は農民帝国でなければなりません、そうでなければ滅びます。この要求は社会的地位に関する一方的な政策とは何の関係もありませんが、やはり生命と歴史の法則の研究から引き出される必然的な結論にすぎません。なぜなら、ゲルマン民族の活力は、彼らが木々の中の森のように、十分な数の精力的な農民一族によって彼らの生息地を形成する土壌にしっかりと根を張り続ける場合にのみ保証されるからである。私たちは皆、土地接収の際に民族の土壌を文化に取り込み、その魂の態度から最終的にドイツ国民の道徳性が生じたゲルマン農民の子孫です。

私たちの民族の中で本当に種を保存する生命秩序が生み出されたものは、この田舎のゲルマン人の魂の態度から生じたものであり、たとえ時代の必要に応じて修正されたとしても、今日でも私たちにとって義務的な法律であるに違いありません。これは、私たち全員が再び農民に戻るべきだという意味ではありませんが、常に生活の法則から背を向けることにつながる、抑制のない都市化を阻止し、適切な法的措置を講じなければならないことを意味しています。国民の栄養、血液、文化の源として農民を生かし、強く保つためです。私たちの国民がそのような農民である限り、歴史が私たちにこのことを教えてくれていますが、彼らは比較的短期間に強いられた戦争による多大な流血の損失さえ克服するでしょう。

だからこそ帝国は、産業活動に加えて、我々が再び強い農民となるために必要なスペースを求めて戦っているのだ。

総統:

「私たちの人民の力が植民地ではなく、ヨーロッパの祖国の土壌に根付くようにしてください！

あらゆるものを与えることができないなら、帝国が安全であるとは決して考えないでください。

私たちの民族の根は、今後何世紀にもわたって独自の土地です！
この世界で最も神聖な権利は、自分自身を築きたいと願う地球への権利であり、最も神聖な犠牲は地球のために流す血であることを決して忘れないでください。 (我が闘争) この習慣は私たちの先祖の息子たちにも適用されました。

最初の人は農場を取り、二番目は堰を取り、三番目は堰を上げた
新しい土地。

首都圏はまた、都市を自然と真の農民の考え方に近づけ、その息子の一部を土地に戻すでしょう。

そして市は一度申請する必要がある。最初の人は相続財産を取得し、二番目の人は堰を取得し、三番目の人は土地をかさ上げする。こうして、すべての氏族は再び故郷の土壌に根を張ることができるようになります。

「自由という真の創造的な概念は、呼吸する空気と耕す土地がある場合にのみ完全に開花することができます。したがって、生きた名誉が常に機能しているのは、十分な居住空間がある国でのみであることがわかります。より深く言えば、国家の名誉を傷つけられるという考えが高まり、そこに宇宙への要求が鳴り響く。したがって、土地にとって異質なユダヤ人もローマも名誉という概念を知らない、あるいはもっと良いのは、彼らはこの考えを知らないため、したがって耕作可能なものへの憧れがあるということである。強くて喜びに満ちた世代がその実りの種を蒔く土地は、彼らにとっては役に立ちません。

したがって、名誉と自由を求めて剣と鋤を手にすることは必然的に、新しい帝国の確立を望み、その行動と努力を効果的に判断できる基準を探している新世代の雄叫びである。この呼びかけは国家主義的だ。そして社会主義者」

（アルフレッド•ローゼンバーグ、

20世紀の神話。）



「人が要求するのは……犠牲と勇気、勇気、忠誠心、信仰と英雄主義、そしてこれらの美徳を自分のものと呼ぶ人々の一部が名乗りを上げることだ。しかし、これはいつでも歴史を作った要因だった。

（アドルフ•ヒトラー）



「私たちが自らを引き上げて自由にしない限り、この地球上のゲルマン人の血は徐々に枯渇に近づいています。」

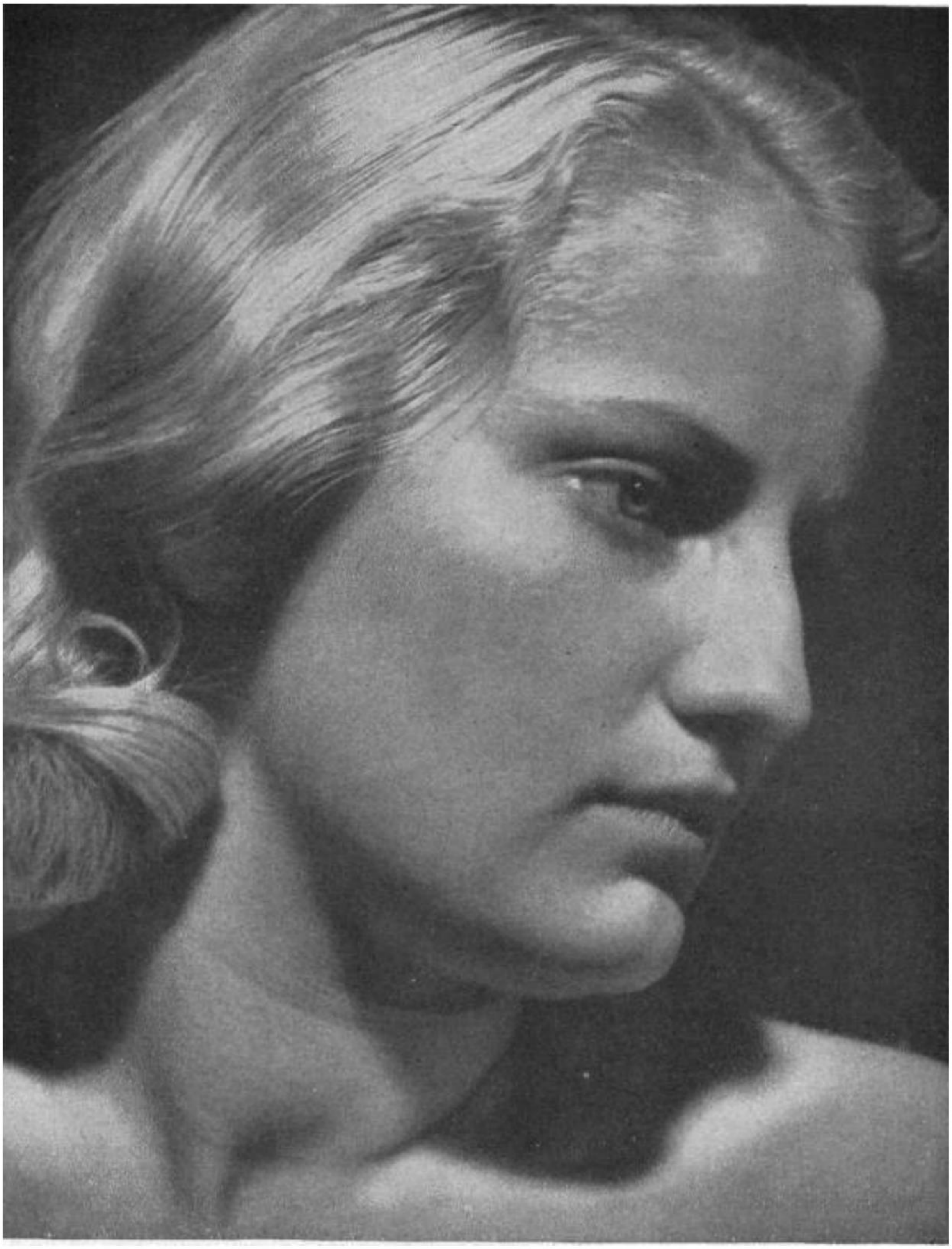
（アドルフ•ヒトラー）



結婚もそれ自体が目的ではなく、種と人種の繁殖と保存という、より大きな目的を果たさなければなりません。それだけがその意味と目的です。 （アドルフ•ヒトラー）



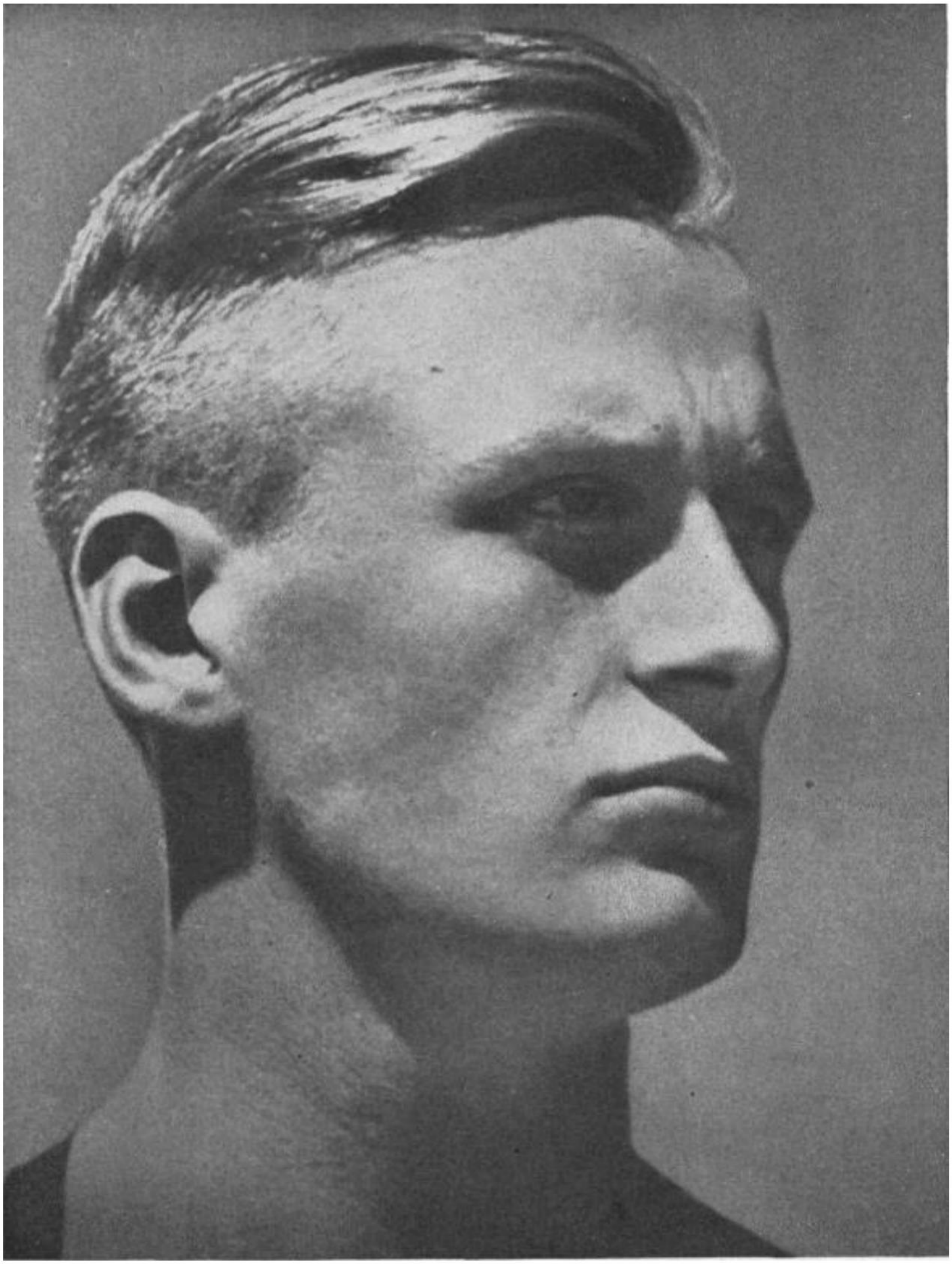
「すべての人々は、その部族の中で最も強く最も美しいものを常に選び、一緒に子孫を残すことによって、最も優れた高貴な者のみとなり、最も優れた高貴な者を生み出すことができるようになる。」 (エルンスト•モーリッツ•アルント)



「私はあなたの勝利とあなたの自由が子供を切望することを望んでいます。あなたはあなたの勝利とあなたの解放の生きた記念碑を建てるでしょう。

あなたは自分自身を超えて構築しなければなりません」

(ニーチェ)



「しかし、まずあなた自身が、身も心もまっすぐに、私に合わせて造られなければなりません。あなたは離れるだけでなく、自分自身を植えなければなりません。この目的のために、結婚の園はあなたを助けるでしょう。」（ニーチェ）



「私たちは何の罪を受け継いでいません - そして、私たちに罪はありません。相続人として、私たちは先祖の血、神の太陽の恵みを受け継いでいます。（トンス•フォルマン）



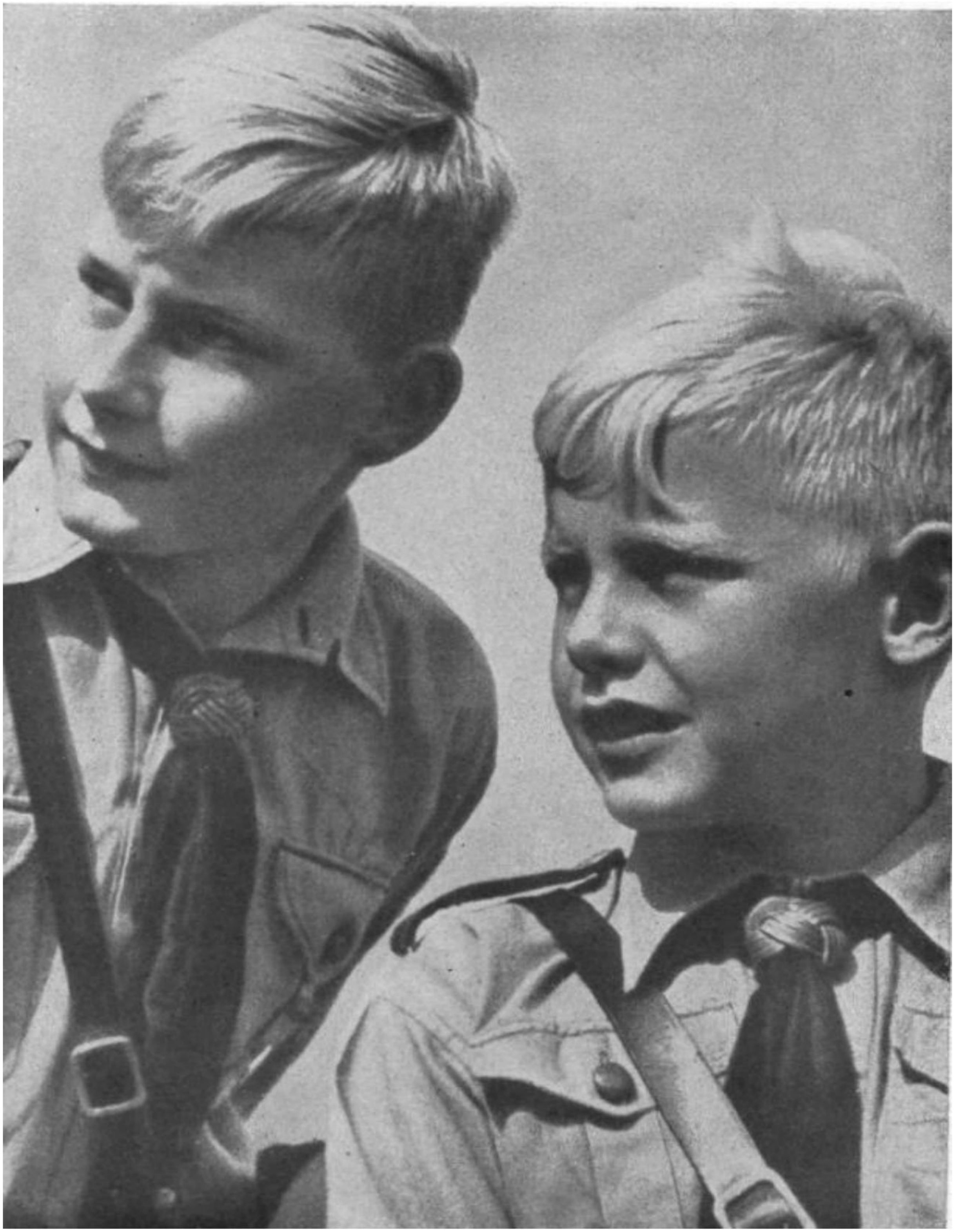
「神を見るには、子供たちの中に神を求める以外に方法はない。」

（ラガルド氏）

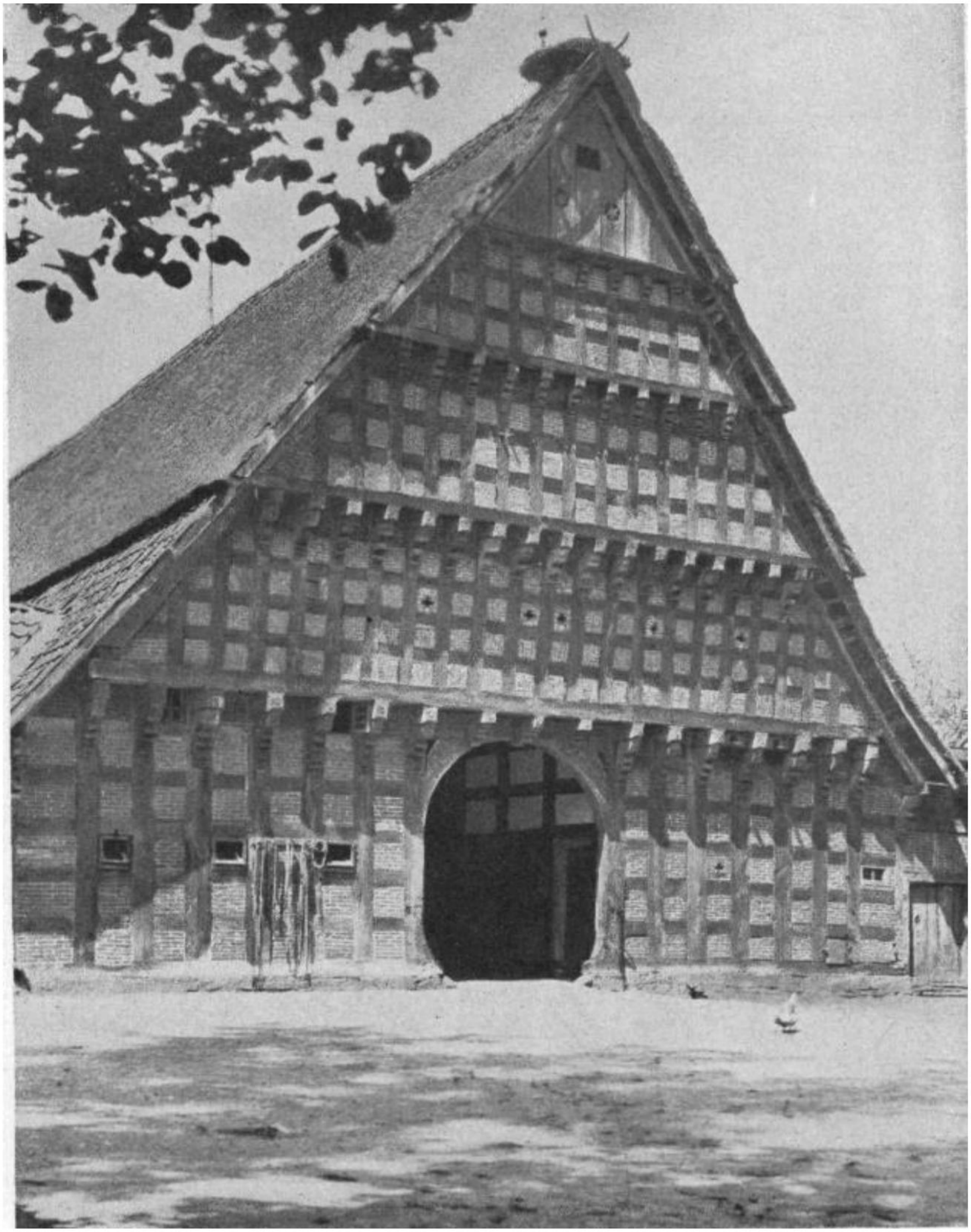


私は道路の成長によって私たちの仕事の成功を測ることはしません。私はそれを私たちの新しい工場で測るのではありません、私たちが建設する新しい橋や私たちが設立した部門によっても測りません、しかしこの仕事の成功を判断する最前線にいるのはドイツの子供であり、ドイツの若者です。それが成長すれば、私の民は滅びず、私たちの働きは無駄ではなかったことがわかります。

（アドルフ•ヒトラー）



私たちの若者は明るくて一生懸命で､早くから戦いの練習をし､私たちが戦うものを形作るでしょう。



「人々が強い農民に引き下がることができる限り、それは新しいものを呼び込むだろう」

そこから何度も何度も力を得る。」 （アドルフ•ヒトラー）



都市に住む人であっても､人々と文化の担い手であり続けたいのであれば､純粋で､強く､
自然で､素朴で､そして頑固であるという農民である
ことを学ばなければなりません｡



「この地球上で十分に広い空間だけが、人々の生存の自由を保証します。」 （アドルフ•ヒトラー）



本物の社会主義では、戦線と祖国は、わが人民と帝国の永遠の存在をめぐる聖なる闘争で競い合う。

28.私たちは何を理解するのか 社会主義？

社会主義という言葉は、socius = 仲間、社会に由来しています。したがって、社会主義とは、社会やコミュニティに「参加」した、つまり参加した人々が一緒に暮らす秩序についての概念となるでしょう。どの共同体を最高の価値とするかによって、「社会主義」という言葉にはまったく異なる考えが結びつくかもしれない。なぜなら、われわれドイツ人にとって最高の価値は人民であり、マルクス主義者の場合のように「プロレタリアートの国際階級」ではないからである。私たちにとって社会主義とは、ある種の「人民」秩序であり、国民秩序と言い換えるのがおそらく最も適切であり、決定的な問題における個人の法的地位は、その人が農民であるかどうかに依存しない秩序である。労働者、公務員か労働者、職人か学者、しかし主に彼が人民の同志であるか否かについてである。

ただし、各オーダーには評価基準が必要であり、それに従ってオーダー内のさまざまなランクが決定されます。の

ドイツの福祉国家では、この基準は国民に対する個人のパフォーマンスでしかあり得ません。

総統:

「我々は将来、どこの出身であろうと国民の最も有能な息子があらゆる地位を占める国家を念頭に置いている。それは生まれに関係なく、実績と能力がすべてである国家だ。」

したがって、社会主義は退屈な平等主義とは何の関係もありません。この形態の民衆秩序は、私たちに強制された戦争によってのみ完全な発展が中断されましたが、回復しました。

ドイツの労働者とドイツの農民に名誉を与え、彼をドイツ国民共同体の正会員として位置づけた。ドイツの福祉国家では、額の労働者であろうと拳の労働者であろうと、すべての創造的な労働者が平等に扱われます。ブルジョア資本主義世界はこの課題に失敗した。いわゆる社会改革でなんとかなるだろうと信じていたが、このプロジェクトの主な目的は、資本主義経済秩序の最悪の行き過ぎを、施しをすることで治すことであった。同情と慈悲の教えでさえ、ユダヤ人の唯物主義的な人生観と経済観によって生み出された社会的損害を軽減することができます。国家社会主義における慈善と慈悲の考えは、すべての犠牲者が地域社会のために立ち上がる義務に反対します。

真の解決は、人民秩序自体の真の革命的変革によってのみ可能でした。なぜなら、労働者に必要なのは同情ではなく、法と正義だからである。彼は国家社会主義国家においてその両方を発見した。そして、この大成功により、特に金権政治諸国は、もしこの例に倣えば、世界搾取のための自国の組織が崩壊することを恐れざるを得なくなった。したがって、国家社会主義ドイツに対する彼らの憎しみは、私たちがどれほど正しい道を歩んでいるのかを示すもう一つの証拠にすぎません。この憎しみ、特にユダヤ教によってかき立てられたものが、現在の戦争の勃発につながったのです。だからこそ、この戦争はドイツの社会主義に関するものであり、我々の本性に従って国家秩序を形成する自由に関するものなのです。

しかし、ここで強調しておきます。私たちにとって社会主義は、労働者の疑問の解決を意味するだけでなく、すべてのドイツ国民の同志が真の生活共同体に集まることを意味し、社会主義は、社会主義に基づいた国民の維持とさらなる発展を意味します。種に固有の発達の法則。

29.国家社会主義はドイツ国民に何をもたらしましたか?

国家社会主義は、1918 年に衰退したドイツに再生をもたらしました。国家社会主義は、私たちの血に従ってドイツの生活を再編成しました。アドルフ•ヒトラーはベルサイユの恥辱からドイツを導き、「帝国」を創設した。彼はドイツの血を引くすべての部族を彼の中で団結させた。

ドイツ国民国民シャフトが創設される。最も重要な原則は、「公共の利益は自己の利益に優先する。国家共同体の外部条件は、すべての利益連合の解散、禁止、政党および政治連合の自己解散、団体の統一によって作り出される。」

総統:

義務の遂行、つまり自分を満たすことではなく、一般大衆に奉仕すること。私たちは、エゴイズムや利己主義とは対照的に、そのような行動が芽生える根本的な性質を理想主義と呼びます。
このことによって、私たちは、個人が同胞のために全体のために自分自身を犠牲にする能力だけを理解します。 (我が闘争)

人種研究は、

すべての価値観とすべての文化的および歴史的成果は人種に結びついているという知識から、人々と国家

条件、世襲財産へ。すべての人間の平等の原則は、次の原則によって対抗されました。

人種。

人種問題はドイツ国民にとって人生の問題となった。したがって、国家社会主義の主要な要求は次のようなものではない。

ドイツ国民の人種的遺産を保存するだけでなく、それを尊重するためです。

目覚めた人種意識は人種の誇りにならなければなりません！

国家社会主義者の指導部によって措置が講じられた：ドイツ国民の遺伝的健康を保護する法律、遺伝性疾患の子孫の出生を防止する法律、血液を純度に保つための法律、ドイツ人の血とドイツの名誉を守るための法律、家族への意志を呼び覚ますための法律と子供、出生減少との闘い（結婚ローン、家族平等）、母子救済団体、定住活動、ハイムシュテッテン•アムト、健康管理措置による公衆衛生の促進。

総統:

「我々の国家社会主義計画は、個人というリベラルな概念と、血と地に縛られた人々という人類というマルクス主義の概念を置き換えるものである。非常に単純で宝石のような文章だが、多大な結果を伴うものである。おそらく、国家社会主義の歴史以来初めてだ。」人類は存在してきましたが、この国では、私たちに課せられたすべての任務のうち、最も名誉あることであり、したがって人間にとって最も神聖である、神から与えられた血縁関係のあるものを保存することに知識が向けられてきました。」

農民はドイツ国民の生活の源として特に奨励されています。ライヒサーブホフ法は、農民を再び自分の土塊に縛り付ける。血と土の結びつきがドイツ国民の命を守る。市場と価格の規制を通じて土地からの収量を確保し、国民への食料供給を確保する（生産の戦い）、総統はこう述べた。

「第三帝国は農民帝国となるだろう。

さもなければ、ホーエンシュタウフェンやホーエンツォレルンの帝国のように過ぎ去ってしまうだろう。」

労働者: 労働の呪いに関するリベラルなマルクス主義の見解から、ドイツの「労働精神」、労働の崇高さ、労働者の名誉が回復されます。肉体労働者は主任労働者と同じ威信を享受しています。 5月1日は「国民労働者の日」として祝日に定められています。

650万人の労働者が仕事とパンを得ています。

総統:

「私の人生の終わりに、ドイツ帝国の労働者を獲得したと言えることほど大きな誇りはないでしょう。」国家社会主義国家の社会政策は、労働の権利の実現に加えて、人格の最大限の発達を確保するために適切な措置を講じてきた。

パフォーマンスと性格により、すべてのドイツ人が進歩することができます。

この目的を達成するために、あらゆる可能性への道を切り開く可能性が生まれました。
ドイツ人は能力、パフォーマンス、性格の面で進歩する：

学校教育に関係なく誰でも将校になれるし、今日では健常な少年は全員無料で高等教育を受けられる（ハウプトシューレンの国立政治教育研究所、アドルフ•ヒトラー学校）、大学での勉強や政治指導者のキャリアにも同じことが当てはまり、ランゲマルク研究、オルデンスブルゲン）。

国民労働秩序法は、雇用主と従業員の反対を指導者と支持者のコミュニティに置き換えます。

ドイツ労働戦線には、労働者と起業家、ホワイトカラーと商人、約1,800万人の労働者など、あらゆる創造的な人々が含まれています。

空間計画、定住、労働安全衛生、社会保障、社会福祉、仕事の美しさと休暇の取り決め、KdFなどのその他の社会的措置。に貢献する

クリエイターの生活を啓発し、美しくし、労働力を増やします。

経済は国家社会主義の意味で再構築される。それは自由主義資本主義の考え方から切り離され、人々の奉仕の場に置かれています。 5年間で国民所得は

452億ドルから680億ドルに増加し、一人当たりの税収は1932年の6.6リンギットから1937年には14リンギットに増加した。

食料の供給は保証されています。国家による生産と消費の管理。

また、この 4 か年計画では、ドイツは原材料の調達において海外からの輸入を大幅に免除されました。国家経済は世界経済から独立します。国内市場規制は外国貿易の自由につながります。

権威の概念、リーダーシップの原則、忠誠心がドイツ人の生活を決定します。

国家の新しい建設: 総統府。個人的

あらゆる立場で責任を負う。名誉、忠誠、人格、業績、従順が再びドイツ人の生活の基本的な柱に高められました。

総統:

「私たちは……すべての美徳とすべての力の総体は、意志と命令に従わなければ効果を発揮しないということを決して忘れません。」

「規律あるリーダーシップ：...全員の抑制されない意志を達成するために、個人の野生の意志を飼いならす。」

党と国家の統一。 NSDAPはドイツの国家概念（党と国家を確保する法)の担い手となる。党は国家社会主義イデオロギーの中核であり、党と国家の指導者の宝庫です。

単一国家の創設。諸国（ドイツ国家)の主権は帝国に移譲される。帝国の市民権は以前の市民権に取って代わります。

部分的な国家だけが帝国の柱であるわけではありません。」しかし、唯一の柱は

ドイツ国民と国家社会主義運動」(『
総統、1933 年党大会開会時の宣言）

文化は再びゲルマン的となり、その本質に反するすべてのものは文化的生活と生活の基盤から排除されます。

高度な文化的発展が生まれます。すべてのアーティストが帝国文化会議所に集まります。

総統:

「我々は、ドイツ国民の復活は想像できないが、ドイツ国民の復活は想像できない。

ドイツ文化、特にドイツ芸術」（1933年10月16日、ミュンヘンにて）

総統は国際連盟からの脱退とドイツ国民の名誉により外交の自由を回復した。

1933 年 10 月 14 日、アドルフ ヒトラーは外国人の脅威に直面して国際連盟を脱退しました。状況の危険な性質を理解していたのは彼の同志のほんの少数だけだった。総統の勇気と決意が困難な時期に勝利をもたらした。

1935 年 3 月、ドイツ国民は国防軍の導入により軍事主権を回復しました。

1935年1月、ザール地方の運命が決定される

1936 年 3 月、憎悪で沸き立つ環境を考慮して、ラインラントへの進軍が行われました。外国はあえて反撃をしなかった。

権力掌握から4周年を迎え、ベルサイユ債務条約の署名が撤回される。

スペインにおける脅威的な展開は今でも誰もが覚えている。
総統は介入し、ユダヤ•マルクス主義のボリシェヴィズムによる危険な背後の脅威からドイツとヨーロッパを救います。 1936 年 11 月、スペイン国家政府がドイツに承認されました。

1938年3月12日午後、総統が自宅に入る
国。

1938 年 3 月 13 日、アンシュルス法が公布されました。「オーストリアはドイツ帝国の国です。総統の偉大さと祖国への忠誠により、数百万のドイツ国民が帰国することができました。」

1938 年 10 月、危険な外交政策上の緊張が解消された後、ズデーテンのドイツ領土がドイツ軍によって占領される可能性がありました。

ズデーテンラントは故郷に帰ります。

1939 年 3 月 14 日、スロバキアは独立を宣言し、その運命を総統の手に委ねました。 3月16日、ボヘミアとモラヴィアはドイツ軍によって占領され、チェコスロバキアの崩壊により、ドイツにとって最大の危険の一つが取り除かれた。

1939 年 3 月 21 日、リトアニアはメーメルランドをドイツに返還しました。

6 年間の粘り強く、目的を持った、断固とした仕事の中で、総統は大ドイツを築き上げました。総統の不朽の功績 !ベルサイユ体制は全面的に崩壊した。

アドルフ•ヒトラーの比類のない政治家としての才能、その鉄の意志、そしてひたむきな決意により、次のようなことが感謝されるべきであった。

「帝国」は、敵の世界に直面して、信じられないほど短期間に、剣を掴まれることなく、必要な強さを得ることなく、世界の残りの国々との来るべきすべての紛争に対処するために創造することができましたできるように。
これは、帝国に対するドイツ国民の神話的な憧れが現実となったものでした。

30.頻繁に行う
の主張に遭遇しました
国家の神無さ
社会主義者はそれに対応する
現実？

神がいないという主張は、国家社会主義についての深い知識が浸透していないサークルからのみ出てくるものです。

偏狭な敬虔さだけで支配されている人たちへ。
教義では、私たちは神がいないと言われているために戦争に負けるのではないかと恐れていますが、言ってみましょう。国家社会主義は神への敬虔な知識に根ざしています。

総統を見てみましょう。

総統は自らの行動において、常に自分が全能者の意志と一体であることを自覚しており、それは彼の偉大な演説の中で何度も表明されている。

私たちゲルマン人は血統的に信心深く敬虔です。私たちは、私たちの周りと私たちの中にある創造的な力として神を信じています。これ
信念は私たちのすべての政治的および精神的行動、道徳的行動一般を決定します。

国家社会主義は、人生の神聖な起源と意味を認めます。その世界観は、ドイツ国民の物質主義の完全な克服と、人間の中にある永遠への回帰と、人種と人々の価値観に表れる神聖な力への回帰につながる刷新を目指しています。

国家社会主義者にとって、結婚、家族、氏族は社会的目的を表すだけでなく、生命を維持し向上させるという神聖な使命も意味します。

このため、国家社会主義は、魂のない、神を知らないボリシェヴィズムの中に、アメリカ主義によるあらゆる価値観の技術的な尺度の中に、ドイツ人の魂の信仰の力によってのみ克服できる致命的な危険があるとみなしている。自分の血、祖先や孫、全国民に対する献身は、誰も罰を受けずに違反してはならない神の律法への服従を意味します。

世界における善の勝利（高貴で強いという意味で)に対する私たちの信念は、神への信仰と神の法に対する最終的な責任を前提としています。

私たちは、指導者が世界最強と呼ぶ理想の中に神の衝動を見ます。私たちの人種的思想は、人間のより高度な発達における神の戒めを認識する「世界観の表現」にすぎません。私たちの社会主義もまた、神の世界秩序に対する私たちの戦闘的な信頼の結果にすぎません。

人々は神の創造秩序の一員です。したがって、人々の中の個人は神の律法の下にあります。この法律は、彼に、種にふさわしい生命秩序の意味で自分の命を使う義務を課します。したがって、私たち国家社会主義者にとって、国民と帝国の利益、名誉、忠誠、従順の侵害は、神を忘れていることの最も目に見える兆候です。

神に仕えたい人は誰でも祖国から始めなければなりません。

それが神の力です

誰が人々の上にやって来るのか、彼らが自分自身から抜け出し、自分自身を超えて持ち上げられ、その後、もはや自分が誰であるかを感じなくなります。

最高権威はすぐそこにある

勇敢で敬虔な戦士たちよ

どのくらいの頻度でしなければなりませんでしたか

叫ぶ：「神は私たちに、

強さ"

神が望んでいた、私たちも望んでいたに違いない

ウォルター•フレックス



31.どうやって維持しますか？
全国
社会主義的世界観は生きており、義務法として有効である
将来の世代のために？

それは、メンバーが自らをこの理念の担い手であると意識的に感じ、私生活でいつでもそれを実現し、「政治兵士」としてその理念のために立ち上がる用意ができている大衆的指導部の創設を通じてである。

すべての主要国家は、その存在を永続させるために、政治的に支持される層、つまり指導者の下で政治組織の共同担体であり、指導者の絶対的に信頼できる手段として利用できる「指導層」を発展させます。したがって、世界観を意識的にも無意識的にも感じる能力と反駁できない意志がなければならず、それがリーダーシップと従うための必須の内なる法則であるべきである。なぜなら、「あらゆる世界観は、それを守ろうとするその担い手の意志と同じくらい強い」（ローゼンバーグ)からです。世界観がそれをカバーする人々の自然な機能を強化すればするほど、そしてこれらの能力のそれぞれを開発することができるほど、これはさらに強力になります。教育と自己教育を通じて、より完全に学びます。

どちらの条件でも最良のものを選択する必要があります。

血の面で最も優れた者、つまり国民の特徴を最も純粋に体現する者が選ばれ、厳格な教育と指導を受けなければならず、そうすれば彼らの眠っている資産が最大限に発展することができる。選択がより確実に機能するほど、この教育が目標を達成することが容易になります。国家社会主義の世界観は人民を最高の価値と認めているので、選択の基本的実体は人民全体だけであり、ドイツ人という存在にのみ対応するので、ドイツ人民の最良の者がそれに惹かれ、ある種の人間を形成する。タイプ。

国家社会主義の世界観は、その典型的な形成力をすでに証明しています。支配階級の一種として、「政治的兵士、私たちにとって政治とは国民への奉仕を意味します。政治的兵士とは、国民への奉仕に特に熱心であり、それを態度、個人的なライフスタイル、態度で表現する人のことです。」「常に行動の準備ができている。このタイプの兵士を最も純粋に体現した者は、支配階級の一員として認識される可能性が最も高い。彼の例によって、国家社会主義の世界観は義務的な内法として認識され、心の中にも生き続けている」若い世代の、そしてすべての未来に引き継がれます。

これにはすべての指導者の重大な責任があり、したがって、この明確な基本的態度は、党指導者、役人、民間人など、それ以外にどんな特別な任務が課せられるとしても、支配階級のすべての成員に要求されなければなりません。使用人、教育者、芸術家、科学者、技術者、農民、または経済指導者。





「私たちは歴史の前に国民を恥じることのないように、強く、信頼でき、忠実で従順
で礼儀正しい、ハードジェンダーを育てたいのです。」

{アドルフ•ヒトラー}





最も厳しい選択の結果、総統府が設立され、それがドイツ国民に太鼓判を押し、我が
国の運命を決定することになる
ライヒ。

そしてここで警官が最初に登場します !それは、彼が乗組員の模範的な態度で闘争に前進し、命の危険を冒して最高の社会主義的犠牲を払ったからだけでなく、彼が社会主義者の教育者だからでもある。

ドイツ人よ !何百人、何千人もの最も貴重なドイツ人男女が何年にもわたってこの将校の手を渡りました。

家庭で始められ、学校や党組織で継続された教育が何であれ、軍隊では将校によって栄冠が与えられます。しかし、あらゆる教育の手段は、その種のイデオロギー、つまり国家社会主義でしかあり得ません。

国家社会主義は、あらゆる能力と価値観において人間全体を把握し、国民と正しい関係を築くことができるため、ドイツのあらゆる歴史的時代の中で最大の教育力です。

戦闘任務に加えて、将校の大きな任務はまさにこの思想教育にある。彼には、新しいタイプの人間の形成に参加するという神聖な義務があります。

国家社会主義は目指します。彼は兵士たちに、私たちの民族の性質とその生命法則、つまり私たちの世界観についての知識を彼らの心に深く根付かせてくれる人物でなければなりません。
特に役員はこの教育に最適な条件を提供します。
なぜなら、兵士にとって、特に戦闘経験や戦争の出来事の印象の下で、人生の問題についての質問は特に深刻だからです。さらに、彼のリーダーである将校に頼る必要性が強くあります。

私たちの世界観の共同体倫理、血で結ばれた国家共同体に対する義務、奉仕、無私の犠牲という社会主義の考え、そして血についての私たちの知識から、軍事規律と自発的な服従のための教育が生まれます。

男らしさ、勇気と勇敢さ、意志の力と決意、犠牲を払う意欲、責任の喜び、仲間意識、思慮分別と人種的誇り、名誉と忠誠心、ゲルマンの性質に属する人格的価値観。兵士のイデオロギー的方向性は歴史の正しい見方と解釈によって補完されなければならないことは自明です。その歴史を知らない民族は取るに足らないものになってしまいます。

したがって、ドイツの将校は、我が国の歴史とその支援と推進力の最良の鑑定家であり通訳者でなければなりません。

この教育の結果は狂信的な国民を生み出すに違いない

社会主義の兵士、力に対する神聖な信仰を授けられた

私たちの

我らがアドルフ総統の意志を支えるヴェルタンシャウン

ヒラーは何があっても忠誠心と無条件の決意を持っています

コースイベントはかかります。

この深い信仰からのみ、人々と祖国への貢献における最後にして最高のパフォーマンスの向上が得られます。したがって、将校は最も積極的なイデオロギー戦士を教育しなければならず、したがってまず第一に自分自身がそうするように教育されなければなりません。

将校団のこの自己教育課題の認識とその自己教育の結果としての態度において、彼の「軍団精神」が表現されなければならない。指導者共同体の本質についての私たちの現在の概念という意味での軍団の精神は、国民への献身と実績、そして総統への絶え間ない忠誠によって表現された目的の共通性において明らかである。総統の意志に無条件で服従する。統一されたイデオロギー的方向性において。ゲルマンに基づいた厳格な生活の法則への取り組みにおいて。深く理解された歴史意識、この人生観に家族を含めること、そして指導、つまり男性連合の秩序思想を氏族連合へと前進させることにおいて、

基本的な法律、基本的な美徳、最大の価値観は、支配階級全体を通じて同一でなければなりません。そうして初めて、すべての党指導者、役人、公務員、教育者、芸術家などが全人民に同じ効果を放射することが保証されるのである。なぜなら、人民全体の統一されたイデオロギー的方向性は、人民の生活闘争の前提条件であり、支配階級全体がその基本的態度において同じタイプに属する場合にのみ現実となり得るからである。この態度は国家社会主義の世界観の最高の価値観によって決定されます。

ドイツの将校は模範を示して指導しなければなりません、

ドイツ将校軍団は我が人民の最も強力な思想的支柱とならなければなりません！

総統:

熱い情熱の嵐だけが国家の運命を変えることができる。
しかし、情熱を呼び覚ますことができるのは、それを自分の中に持つ人だけです。 (我が闘争)

32.国家社会主義の世界観に基づいて、ヨーロッパにおける我が国の帝国とその地位をどのように見ますか?

私たちは国家統一として、そしてヨーロッパの秩序権力として「帝国」のために戦います。

私たちにとって帝国の概念は、ドイツ国民を団結させ、ドイツを「ヨーロッパ民族の決定的な中心」とする歴史的秩序の表現です。ゲルマン人が存在する限り、帝国への憧れ、神話は存在しました。 「帝国の概念は、常に存在していました。私たちの歴史は、この帝国を形成するための闘争を表しています。帝国の概念はゲルマンの性質に深く根ざしています。帝国の概念は、単に私たちの時代の発見ではなく、

しかし、それは秩序ある世界という考えとして、私たちの歴史的生活全体に付随しており、そこでは私たちの種族の人類が、その芸術的創造力、創意工夫、有機的で閉じた構造を作り出す能力によって導かれており、それを理解するために、私たちはそれを理解するために、しかし、過去数世紀の国民国家の考え方とは異なる基準で評価しなければなりません。誇り高きドイツ帝国の歴史の記憶が再び私たちの近くにあり、さらに、その創設を北欧の人々、ケルスカン人、アルニム人、ブルゴーニュ人、ヴァンダル人、テオデリヒとカール大帝に感謝し、ゲルマン西方を建国したすべての帝国が、私たちの近くにあります。バルト海から黒海までのヴァリャン人、バイ
キング、ノルマン人。これらゲルマン民族の歴史は私たち自身の歴史です。私たちはそれを体験することができます

何世紀にもわたって帝国外からの外国の侵入に対する困難で孤独な闘争を指揮したゲルマン民族の指導的人物たちが登場し、この闘争を通じて彼らが持ち続け、維持した理念として帝国について語ります。これは、ユニークな歴史形成の継続的な力の証拠であり、

帝国の考えはドイツ国外でも生き続けている

州。帝国の思想は、この大陸の最も強力な記憶であると同時に、永続する歴史的秩序にとって最も強力な現実の力である。

私たちは、過去のゲルマン国家の創造が一時的なものであったことをよく知っています。それは、ゲルマン民族の力が、無尽蔵の富の感覚から外国の民間伝承の中で繰り返し流出することを可能にしたからにすぎません。

中世の帝国は、ローマの普遍主義と諸君主の特殊主義に対する闘争の中で滅びました。しかし、帝国の考えは常に残りました。偉大な王の国家においてその完全な形を見出した国家という概念を経る途中で、帝国という概念は国家社会主義帝国において実際のゲルマン的な形成を経験した。

ドイツ大陸の中央に位置するため、ドイツ国民は常に自分自身を主張し、国家を形成することが特に難しいと感じてきました。優れた指導者がドイツのすべての重要な力をこの一つの目標に向けて導き、特殊主義的な特別な努力や異質な思想世界や敵対的な帝国主義的拡張主義の欲望に対抗することにドイツの重要な力を結集させることに成功した場合にのみ、全方位からの圧力に対抗することができた。

帝国の外交政策は帝国主義者の願望によって決定されたのではなく、必要な居住空間をめぐる闘争によって決定された。

総統は著書『我が闘争』の中で、あらゆる外交政策の最高点は土壌を人口と一致させることでなければならないと述べた。この目標の達成は生活法上の必然であり、人々の生活は、生活空間が確保されて初めて確保されるからである。

それは、その固有の能力の自由な発展、すなわち、それ自体の自由な生活を可能にします。この有機的な展開が外部の力によって妨害または制限される場合、さらには武力の使用によって不可能になる場合、最後の手段も使用しなければならない場合は、必要な居住空間、または運命を獲得するために戦う時が来ています。人々は封印されています。そのような闘争は、権力を求めて努力する恣意的な帝国主義者とは何の関係もなく、まさにその生活法的必要性という理由から、人民の母親たちの前でも行われているのである。それは大義のための闘争だ。

しかし、この任務の遂行は、それ自体のためにドイツ国民に課せられているだけではなく、それは常に人口過多の大国、つまりヨーロッパ国民全体を指導し、規制する大国と結びついてきたからである。それは帝国の思想と形態に表現を見出しました。

「地球上の生命は、私たちに大規模な団結を促している。しかし、これはドイツ帝国の最初からの技術であり、人々を滅ぼさずに団結させ、彼ら自身の力が及ばない方法で人々を集めて導くことである」 「滅びるが、全体に奉仕するために立ち上がる。この全体がヨーロッパである。帝国は大陸の人民を集め、統一されたドイツはヨーロッパの統一者となる。」

主要諸国に対するパリ議会がボリシェヴィキ•ロシアが欧州諸国への攻撃を扇動することに熱心である限り、兄弟的な欧州はユートピアであり続けた。野原のような灰色のドイツ人は、ヨーロッパの新たな現実を創造した。

ヨーロッパが全体として存続するには、リーダーシップが必要です。リーダーシップのない輝かしいヨーロッパは動かない塊となり、リーダーシップのないヨーロッパは最初の耐久テストで崩壊するでしょう。

しかし、ドイツのリーダーシップは、イギリス、フランス、ロシアの帝国主義とは異なります。ヨーロッパの再編は旧フォルキッシュの建築基準に従って実行されるべきである

人口過多の帝国は､生きて生きさせろという原則に従っています｡かつて旧ドイツ帝国によって遂行され､後にプロイセンとオーストリアによって別々に認識されたドイツの人口過剰の二重任務は､豊富な経験と千年にわたる指導者の知恵に基づいて､大ドイツ帝国によって新たに遂行されることになっている｡この帝国は､人民の統一､人民の協同組合の象徴で人民を奴隷化する無責任な帝国主義に反対する｡抑圧､権利剥奪､搾取､麻痺ではなく､コミュニティ､自治､自治､協力の組み合わせ､力の相互増強です｡ (クレオ•プレイヤー)

過去同様､将来も同様に､ヨーロッパの運命は帝国の運命によって決まります｡帝国が偉大で強力である限り､ヨーロッパは統一であり､人類文化の中心でした｡その権力の絶頂期には､イングランドとフランスの王は自分たちをドイツ皇帝の領地であると考えていました｡

しかし

帝国が崩壊したとき､ヨーロッパは平和ではなく､外国勢力の攻撃に翻弄されました｡私たちが 「ヨーロッパ｣という言葉で抱く名前も歴史的現実も､どちらも北欧民族の創造物であることを忘れてはなりません｡したがって帝国は将来のヨーロッパの中心であり覇権である｡

出現するのは､人民の真の共同体秩序であり､その中で各人民は､全体に対するパフォーマンスと関与に応じて､また個々の人民の特殊性と特殊性に基づいて､その地位とランクを獲得します｡

最終的な決定は会議のテーブルではなく､
この戦争の戦場｡

33.その意義は何ですか？

この闘争の特に深刻さは?

何千年もの間、北欧の人々は南東、南、東からやって来た大勢の人々からヨーロッパを守ってきました。

彼らは自分自身を主張するだけでなく、西洋にその権利を与えました。
国家と文化的性格。

この闘争は何千年もの間、ゲルマンの中核地域で行われてきました。英雄的な戦いで、ドイツ国民は北欧の祖国を守りました。環境との最も困難な闘いや、異国の思想世界との激しい衝突にもかかわらず、他の多くの民族と同様に彼らが滅びなかったという事実は、彼らの偉大な強さを証明するだけでなく、彼らが偉大な運命にあったことも証明している。

これは、他の国々が帝国主義の目的で世界帝国を征服していた時代に、その内部構造を構築する必要があり、格闘しなければならなかったという、我が国の人々の運命と使命を示しています。過去何世紀にもわたる戦いとレスリングは、我が国の人々を頑固にし、今日の知識を得る熟したものにし、我が国の国民に明確な政治的、イデオロギー的な意識を与えてきました。今日、我が国民はアドルフとともに最も重要な時期を迎えています。

ヒトラー。

かつて、貴重なゲルマン人の血がイギリス諸島とアメリカに流れていました。それはユダヤ人の精神によって運ばれ、帝国主義の中で失われてしまった

世界征服を目指している。それは世界を組織する力として行動するのではなく、権力を求める非創造的な努力によって導かれました。今日、この血のエネルギーは、本来の祖国、ヨーロッパに向けられています。その持ち主はユダヤ教に誘惑され、血に対してただ一つの罪を犯します。

アメリカはヨーロッパ文化からますます遠ざかっていきました。彼らは自分たちの文化にたどり着くことができませんでした。それどころか、彼らはユダヤ人の非文化に敬意を払い、ロシアとアジアの草原の非精神とさえ結びつけました。アメリカニズムとボルシェヴィズムは、古くからある由緒あるヨーロッパ文化を脅かしています。しかし、どちらの勢力グループも世界に対する支配権を主張しています。彼らの陣営ではユダヤ教が原動力となっている。彼らの目標は、地球の人々の支配と征服、自然秩序の破壊と消滅です。しかし、まさにこの目標こそが、世界征服を目指すこれらの代表者たちを致命的なライバルにしているのです。

その中間には、ヨーロッパと東アジアの若者の2つの勢力グループがあり、どちらも古代文化の土壌で生まれました。彼らは、ユダヤ系アメリカ人のボリシェヴィキの精神性の欠如から守るために、ヨーロッパや東アジアなど、すでに分断されている文化領域をより高度な政治的共同体に創造的に融合しようと努めている。この戦争は、それがドイツだけの戦争ではないことをますます明確に示しています。現在の闘争は、ユダヤ的物質主義と高度資本主義、そして草原の精神を備えたアメリカ主義が世界を奴隷化するのか、それとも国家社会主義ドイツが担ってきたゲルマン精神と古代アジア文化の精神が世界の創造的な再編となるのかを決定するだろう。世界。

この巨大な闘争では、浮き沈みがあるはずだ。特定の状況下では、状況が悪化したために前線全体さえも撤退しなければならないとはどういう意味ですか?

国境をはるかに越えた敵地に前線を築いた後、防衛のためのより有利な空間を探すよう強いられるのだろうか ?私たちがしっかりしていれば、最終的には勝利が得られます。私たちは自分たちの使命を認識しているので、これを知っています。

私たちは甘やかされてしまいました !勝利の兆しの中で平静を保つのは難しいことではない。

今、非常に必要な時に、私たちに運命がのしかかっています。
私たちに割り当てられた任務に十分な性格と大きさを持っています。

コミュニティはそのメンバーよりも優れていることはありません。このコミュニティの最も優れたメンバーはドイツ兵に違いありません。
誰もが、自分自身の運命の大きな試練に耐えることができることを証明しなければなりません。

この困難な戦いでは、ゲルマン人の名誉の美徳、忠誠心、献身と勇気、独自の高みへの自発的な服従が最も重要になりました。これらは私たちに勝利をもたらす価値観であると同時に、私たちの将来の平和活動を決定づけなければならない価値観でもあります。私たちがそのために戦いたいと願う私たちの偉大な未来は、多大な犠牲を払うことを正当化します。

私たちは永遠のゲルマン民族とその帝国の基礎のために戦っています。

1918年のどん底からの回復への粘り強い闘いと1933年以来の独特の隆盛を伴う我が国国民の軌跡は、素晴らしいものではなかったでしょうか ?神の摂理は人々にさらに明確に道を示すことができるでしょうか ?

ドイツ国民は偉大さへの道を戦っています。私たち国民

社会主義者たちは、我が国の人々に対する神の支配を理解しています。私たちは、帝国の指導の下でヨーロッパの人々が共に創造的なコミュニティへと成長する素晴らしい時代が来ることを信じています。

34. 国家社会主義の目標は何ですか?

自由のために闘争しますか？

私たちの目標は、国家社会主義の世界観の下で名誉と自由のある生活を送り、ドイツ国民の生存を守り拡大し、生活基盤と栄養基盤を拡大し、さらにその先には発展を守ることである。ヨーロッパのすべての平和で貴重な人々。

私たちは人々全体の利益のために戦ってきた空間を形にしていきます。私たちは社会主義の考えを現実化し、ドイツ国民に国家社会主義世界という意味で真に高度な生活形態をもたらします。

私たちの息子たちは自由な土地で新しい農民として暮らし、国民に栄養のある完全な自由を与えるでしょう。血と土の新たな貴族がゲルマンの現実となるでしょう。

私たちの工房や工場は、さまざまな製品を生産することでドイツの生活を豊かにします。個性の価値は、私たちの利益のために各個人の向上に十分に反映されます。
人々。公正な賃金によって、すべての創造的な労働者が国民の生活に参加し、国民の偉大な知的財産と文化資産を享受できるようになります。

そして、私たちが現在の空間の限界から踏み出して初めて、ドイツ文化はその重要性と使命に応じて発展することができるでしょう。そうすれば、私たちのドイツ人の妻と母親は、さらに喜んで命を与える準備ができているでしょう。

子どもたちを真のゲルマン生活の輝かしい光へと導きます。

それは、私たちの民族が、真にゲルマン的な偉大さの中で、自らの本性に異質な考えに挑戦されることなく、名誉と自由のもとに、純粋で高貴で実質的な生活を送る時代となるでしょう。そしてそれが私たちが戦うものなのです！それこそが私たちの偉大なリーダーが何十年も無私の心と忠誠心で奮闘し、国民に道を示してきたことなのです。

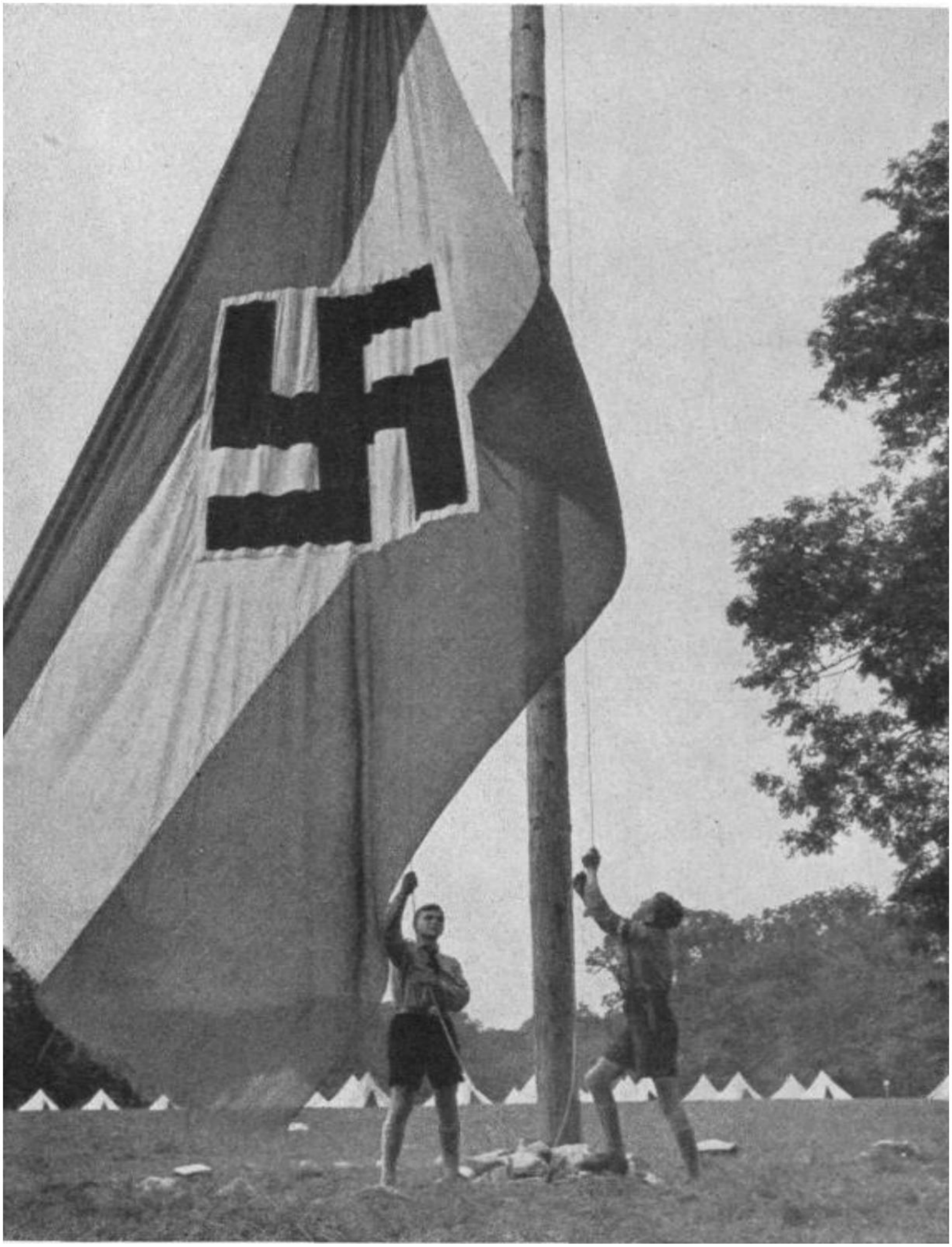
神はこの崇高な戦いを祝福してくださるでしょう！



帝国はすべてを見守っています！



永遠の若さ、勝利の歩兵よ！



「若者がやってくる。それは他のコミュニティからではなく、このコミュニティの中で成長し、今日私たちの前に預言的に見ているものを完全に実現するだろう。（アドルフ•ヒトラー）

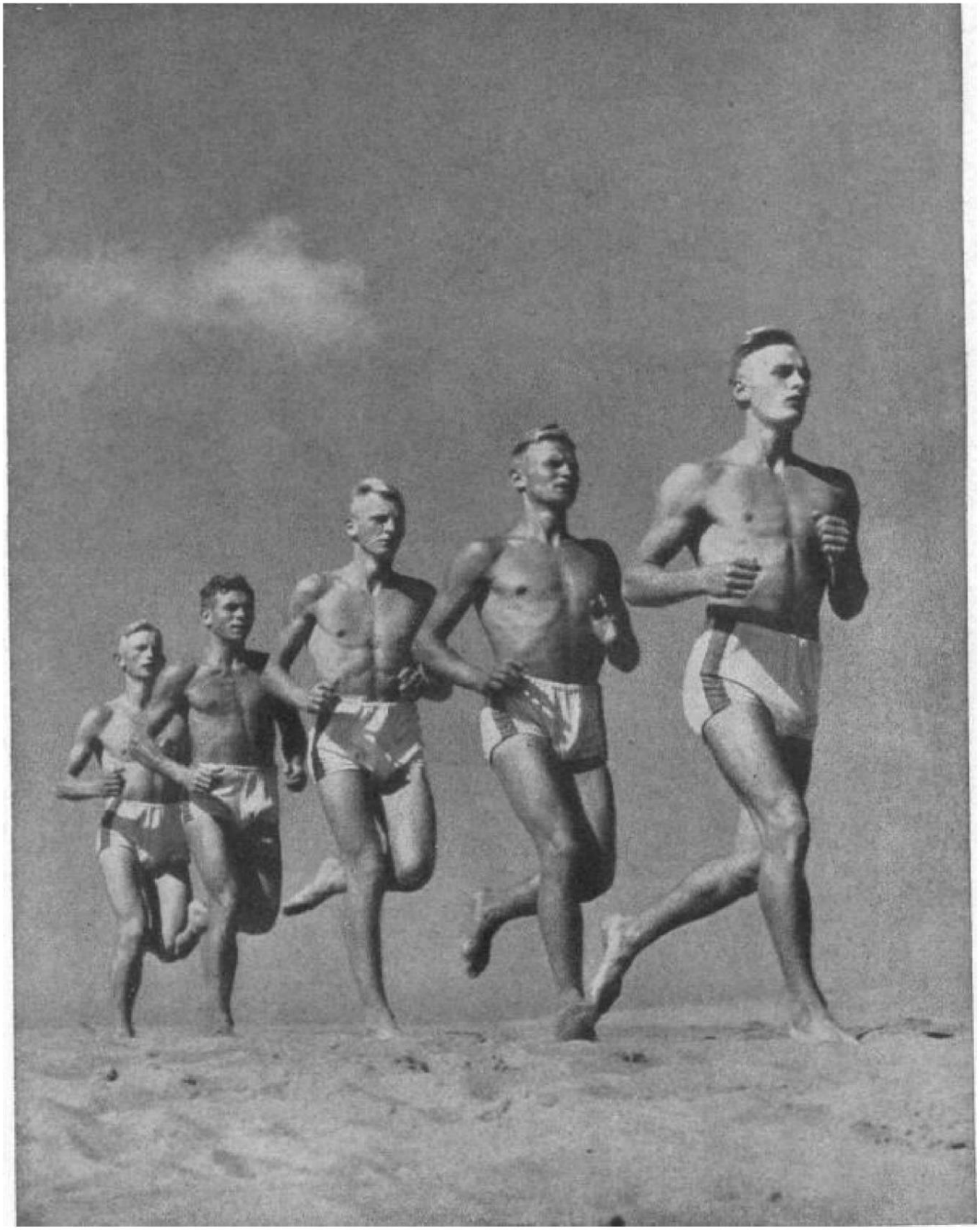


「信じる心と強い精神を持ったこの若者は、かつては私たち自身よりも、我が国国民のジェンダー連鎖においてより良いつながりとなるはずであり、おそらくそうできるはずです。」

（アドルフ•ヒトラー）

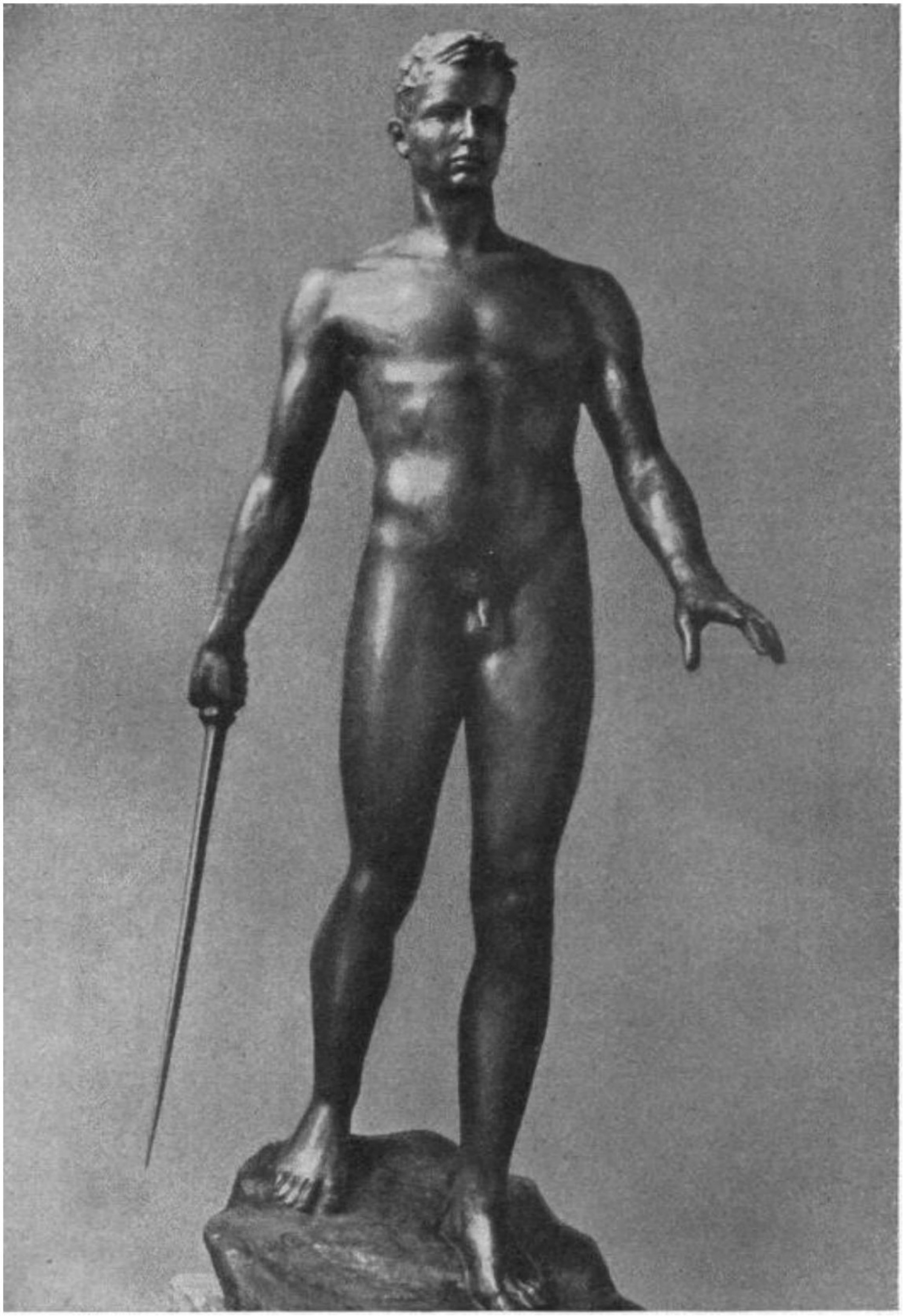


誇り高いセックスは人々に永遠の命を与える



「どんな嵐にも負けないように、私たちは自分自身を鍛えていきます。」

（アドルフ•ヒトラー）

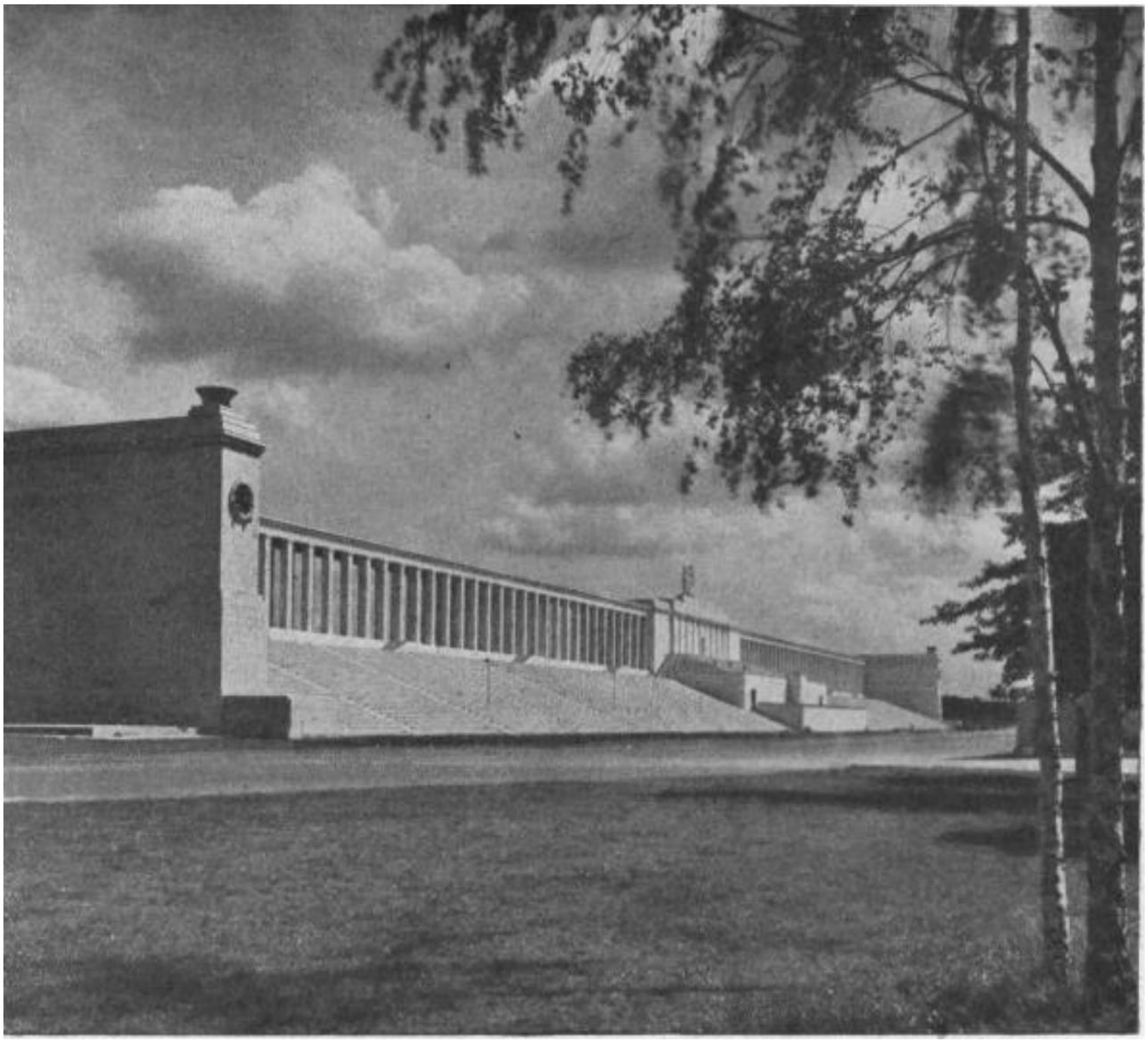


「もしそうなればドイツ国民の復活など想像もできない」
ドイツ文化、そして何よりもドイツ芸術はそれほど復活しません。」

（アドルフ•ヒトラー）

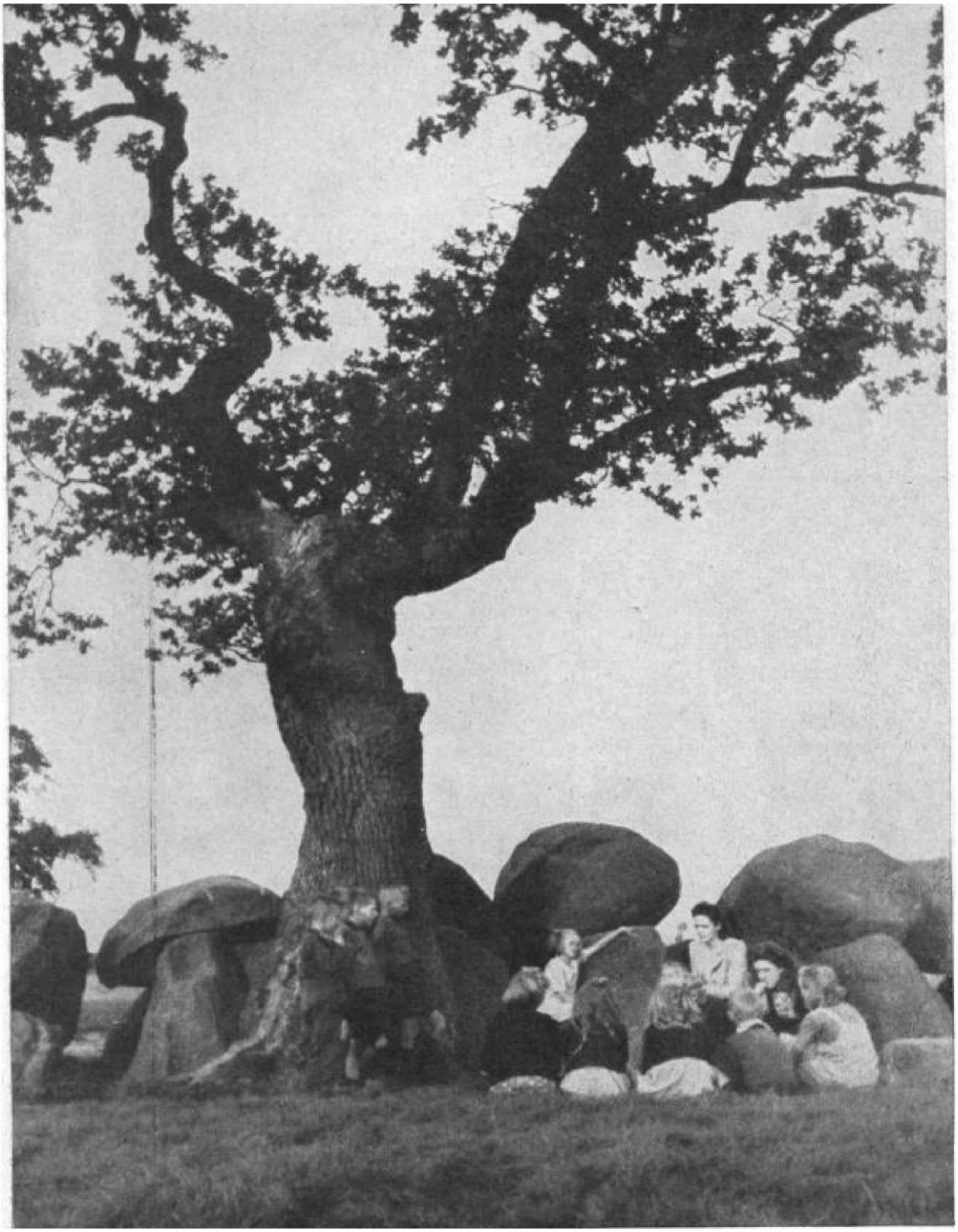


本物のゲルマン文化が私たちの人々の生活を決定します。



「この革命は継続しなければなりません。我が国の人々にとって輝かしい夏となるはずです。」

（アドルフ•ヒトラー）



その目標は……我々の人民が何千年も闘い、何世代にもわたって苦しみ、何百万人もの人々が亡くなった目標である、すなわち、強いドイツ帝国における自由なドイツ国民である」（アドルフ•ヒトラー）

35.どうすれば敵の破壊の意志に応えることができますか、そしてどのようにして

私たちは勝利を達成できるでしょうか？

すべてのドイツ人は次の事実を認識しなければなりません。

•この戦争はイデオロギー戦争です

•この戦争は兵器だけで決まるのではなく、より純粋でより強い世界観を意識的に忠実に実践する者たちによって決まること。

•ドイツ国民全体が、私たちの神聖なものへの信仰で団結すること。
なぜなら、私たちの指導者と国家において、
社会主義者ヴェルタンシャウングは単一戦線を形成しなければならない。
信仰があれば、私たちは乗り越えられなくなります。

したがって、我々は、我々の勝利に対する揺るぎない信念をさらに熱狂的に主張して、敵の殲滅の意志に対抗する。

私たちはこの勝利、そして私たちの偉大で正義に満ちた神聖な大義を信じています。

私たちは国家社会主義の下で団結した国民と総統の偉大な力を信じています。

私たちは、国家社会主義が私たちをゲルマンの血に相応しい、高度で創造的な存在形態に導いたと信じています。

私たちは偉大なゲルマン時代、ドイツ社会主義の象徴として最も美しい文化的創造と最大の成果の時代が来ると信じています。

私たちは神と、純粋で強いこの世のものすべてが最終的には勝利すること
を可能にする神聖な世界秩序を信じています。

私たちは、ヨーロッパにおける真のゲルマン人の生活の力の源としての国民の神から与え
られた使命と、権力を維持し命令するという王国の使命を信じています。

それが私たちの信仰です！

清く、気高く、誇り高く生き、国家社会のために最後まで無私に働くこと

これは私たちの名誉です！

国のために尽力するリーダーに従うこと

最後まで服従し義務を履行する共同体

それが我々の忠誠心だ！

今日では忠誠心がすべてです！

リーダーへの忠誠、国民への忠誠。

最も狂信的な敵対者であっても、さらに狂信的な抵抗をすると折れるとい
うことを私たちは知っています。人間の物質でもなければ、

相手の精神力は無尽蔵である

私たちは、勝利後の運命という大きな問題に、断固として有利な態度で答
えることを知っています。

信念、忠誠心、そして鉄の意志が、前線でも国内でも、私たちの武器に勝利をもたらします。

一つの国民、一つの帝国、一つの総統、
一つの信仰、そして一つの意志があれば、
我々から勝利を奪うことはできない！

「私は信じますし、告白します、国民は何も持っていないのです」

彼の尊厳や自由よりも尊重すべきこと

存在;最後まで彼らを守るべきだと

血の一滴。それ以上の神聖な義務はないということ

履行すれば、従うべき高次の法は存在しない。の汚名

卑劣な服従は決して消し去ることはできません。それか

人々の血液中のこの一滴の毒は通過します

子孫にまで影響を与え、麻痺させ、弱体化させます。

後の世代の力。

国王と政府の名誉は国民の名誉と一体であり、国民の幸福の唯一のパラジウムであるということ。

国民は、ほとんどの状況下において、自由を求める壮大な戦いに打ち勝つことはできないということ。

血なまぐさい名誉ある戦いの後でこの自由が破壊されても、人々の再生が確保され、そこから再び新しい木が根を張る生命の核であるということ。

私は、危険から逃れようとする偽りの知恵は、恐怖と不安を植え付ける最も朽ちやすいものであると考えていること、そしてもし私たちが誠実であれば、最も激しい絶望こそが賢明であると考えるだろうと、世界と後世に宣言し、崇拝します。男性的な勇気、つまり、冷静だが確固たる決意と明晰な意識をもって危険に立ち向かうことができない。私は古い時代と新しい時代の警告的な出来事、何世紀にもわたる賢明な教え、現代の恐怖の狂乱の中での有名な人々の崇高な模範を忘れず、そして私は世界史を一冊のページのために与えるつもりはありません。寝そべった新聞紙。私はあらゆる利己主義から解放され、純粋であると感じます。

自分の中にあるあらゆる考えやあらゆる感情を、額を開いて同胞の国民に告白できるように、祖国の自由と尊厳を求める輝かしい戦いの中で、輝かしい滅亡を見つけたら、あまりにも幸せに感じるだろう。

私と私のような人々に対するこの信仰は、同胞の軽蔑と軽蔑に値するのでしょうか？これは後世の人たちに決めてもらいましょう！

-カール対クラウゼヴィッツ

偉大な王は戦いました

350万人対
5000万人の敵による熾烈な戦い

明らかな絶望感の中で、ノー

自分の周囲の状況をより

理

解するようになって、彼は自分の大義

を信じ、そして自分自身がそうである

ために勝利した

堅固な。

大王は厚かましい人だった

ある国民よ！



1943 年 9 月 11 日の総統:

しかしながら、イタリアそのものの運命は、最も困難な苦難と苦いニーズの時に決して立ち上がらないようにするための教訓となるかもしれない。

国家の名誉という命令を超えて、同盟国に忠実に立ち、信じる心をもってなすべき義務を遂行すること
私たちに課せられたもの。摂理の前にこれらのテストに合格した人々に、全能の神は最終的に勝利者の月桂冠を報酬として、そしてそれとともに命の代償として手渡すでしょう。どのような状況であっても、これはドイツでなければなりませんし、これからもドイツです。



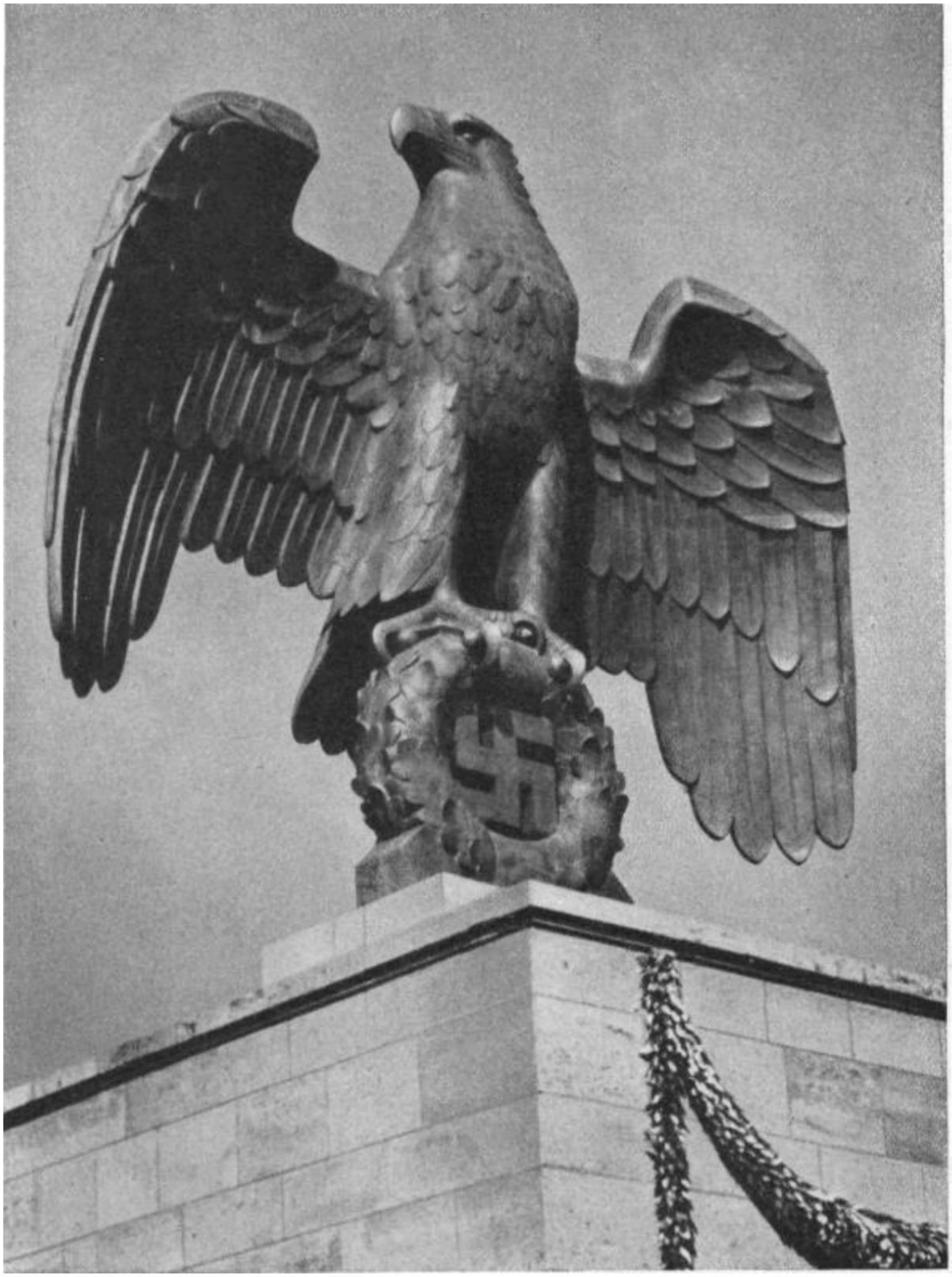
1943 年 11 月 8 日の総統

この戦争が終わったとき、最大の栄光は、独特のエネルギーや個人の行動よりも、私たちの信仰と忍耐によるものとなるでしょう。

この国家社会主義の信仰の力が私たちに残っている限り、私は絶望する必要はないばかりか、むしろ誇らしい自信を持って未来を見据えることができます。

ドイツ国民は完全に安心してください､何が起ころうとも私たちはそれをマスターします !最後には勝利があります！





帝国は永遠



National Socialist Order